

磐田市地域公共交通網形成計画

((仮)磐田新駅周辺地域編)

平成 29 年 6 月

磐田市

目次

1. はじめに.....	1
1-1 計画策定の背景と目的.....	1
1-2 計画策定の内容.....	1
1-3 計画策定の進め方.....	1
1-4 計画の位置づけ.....	2
2. 地域公共交通の現状分析.....	3
2-1 磐田市及び袋井市の概況.....	3
2-1-1 人口動向.....	3
2-1-2 主要施設.....	10
2-1-3 道路及び交通量.....	18
2-1-4 土地区画整理事業.....	19
2-2 (仮)磐田新駅周辺地域の公共交通の状況.....	20
2-2-1 (仮)磐田新駅周辺地域の公共交通.....	20
2-2-2 鉄道.....	22
2-2-3 バス・デマンド型乗合タクシー.....	30
2-2-3 移動支援(福祉).....	34
2-2-4 周知活動.....	35
2-3 住民意向把握.....	36
2-3-1 全国都市交通特性調査に伴うアドオン調査.....	36
2-3-2 (仮)磐田新駅周辺地域における公共交通に関するアンケート調査.....	47
3. 上位・関連計画.....	65
3-1 磐田市総合計画(平成29年3月).....	65
3-1-1 基本構想(平成29年3月).....	65
3-1-2 前期基本計画(平成29年3月).....	67
3-2 磐田市都市計画マスタープラン(平成20年2月、平成27年3月一部改訂).....	69
3-3 磐田市公共交通計画(平成18年3月).....	74
3-4 西遠都市圏都市交通マスタープラン(平成22年3月).....	77
4. 地域公共交通の課題.....	81
5. 磐田市地域公共交通網形成計画((仮)磐田新駅周辺地域編).....	84
5-1 計画区域.....	84
5-2 計画期間.....	84
5-3 基本方針.....	84
5-4 基本方針に基づく目標.....	87
5-5 目標を達成するために行う事業及び実施主体・計画期間.....	88
5-5-1 (仮)磐田新駅の整備や新たな開発に対応した地域公共交通網の再編.....	91
5-5-2 多様化する利用者ニーズに柔軟に対応した運行への改善.....	94
5-5-3 分かりやすい情報提供による利用促進.....	95
5-5-4 人と環境にやさしい地域公共交通への改善.....	97
5-5-5 地域で創り、支える仕組みづくり.....	99
5-5-6 全市的な取り組みの推進.....	100
5-6 計画の進め方.....	101

1. はじめに

1-1 計画策定の背景と目的

磐田市では、平成 17 年度に策定された「磐田市公共交通計画」に基づき、誰もが地域で安心して暮らし続けることができるよう、行政、交通事業者、地域住民・組織の関係者が力を合わせ育みながら、地域の足—地域公共交通の確保・充実に取り組んでいます。また、JR 東海道本線の袋井駅・磐田駅間において、(仮)磐田新駅を平成 31 年度末の開業を目指して、事業を進めています。さらに、(仮)磐田新駅周辺地域においては、自由通路や土地区画整理事業による交通広場、アクセス道路等の整備を進めており、大きくまちの姿が変わろうとしています。

そこで、磐田市では、このような状況に対応し、鉄道や路線バス、タクシー等の様々な公共交通機関を含めた(仮)磐田新駅周辺地域のまちづくりを支える地域公共交通の計画として、「磐田市地域公共交通網形成計画（(仮)磐田新駅周辺地域編）」（以下、「本計画」）を策定し、住民の身近な交通として地域公共交通を将来にわたって維持・確保します。

1-2 計画策定の内容

本計画は、(仮)磐田新駅周辺地域における望ましい公共交通体系の構築をめざし、平成 26 年 11 月に改正が施行された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づいて策定します。計画では、「磐田市地域公共交通会議」での議論を通し、以下の内容を定めます。

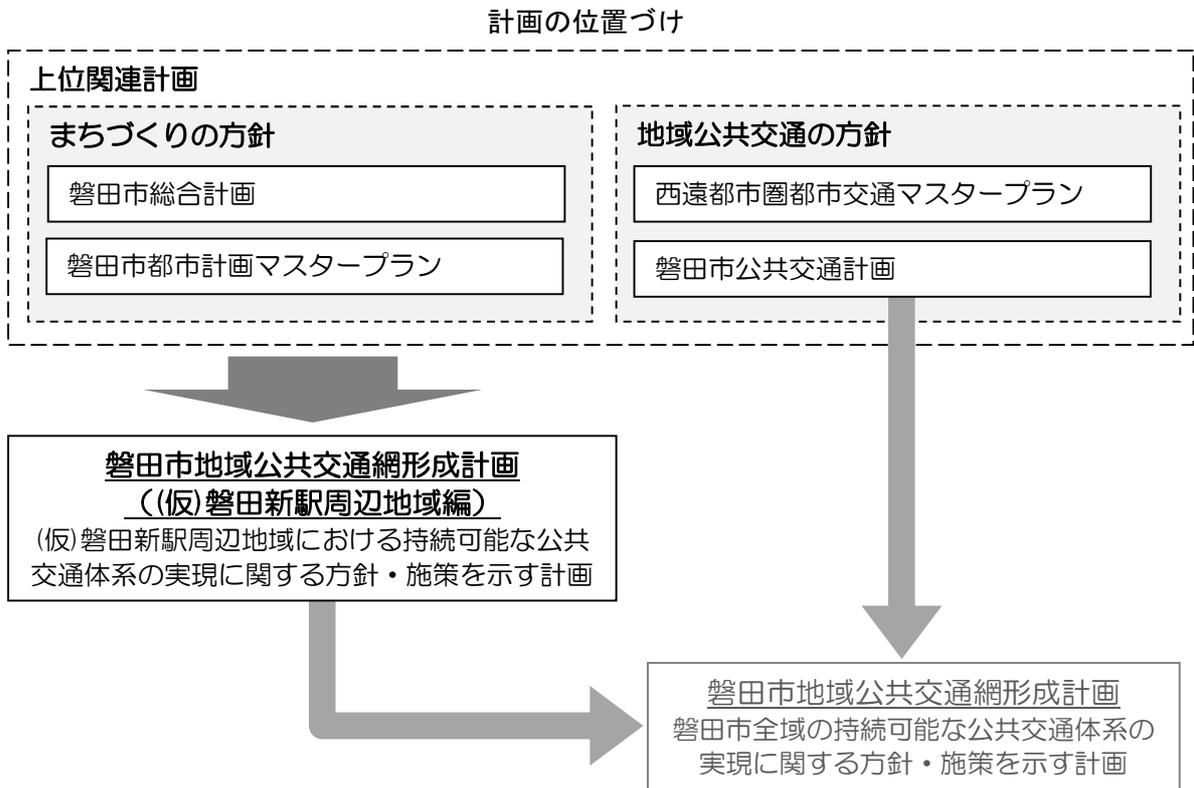
- ①持続可能な地域公共交通網の形成に資する地域公共交通の活性化及び再生の推進に関する基本的な方針
- ②計画の区域
- ③計画の目標
- ④③の目標を達成するために行う事業・実施主体
- ⑤計画の達成状況の評価に関する事項
- ⑥計画期間
- ⑦その他計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

1-3 計画策定の進め方

計画策定にあたっては、地域・住民、交通事業者、行政（国・県・町）により構成される「磐田市地域公共交通会議」での議論を踏まえ、地域公共交通に関する基本理念、基本方針、目標を定め、目標を達成するための事業等について検討します。

1-4 計画の位置づけ

本計画は、まちづくりの方針である「総合計画」及び「都市計画マスタープラン」に基づき、将来の(仮)磐田新駅周辺地域におけるまちづくりを担う地域公共交通の充実を実現するものです。なお、本計画は磐田市全域を対象とした「磐田市地域公共交通網形成計画」に先行して策定するものであり、今後、「磐田市地域公共交通網形成計画」へと繋ぐ計画となります。



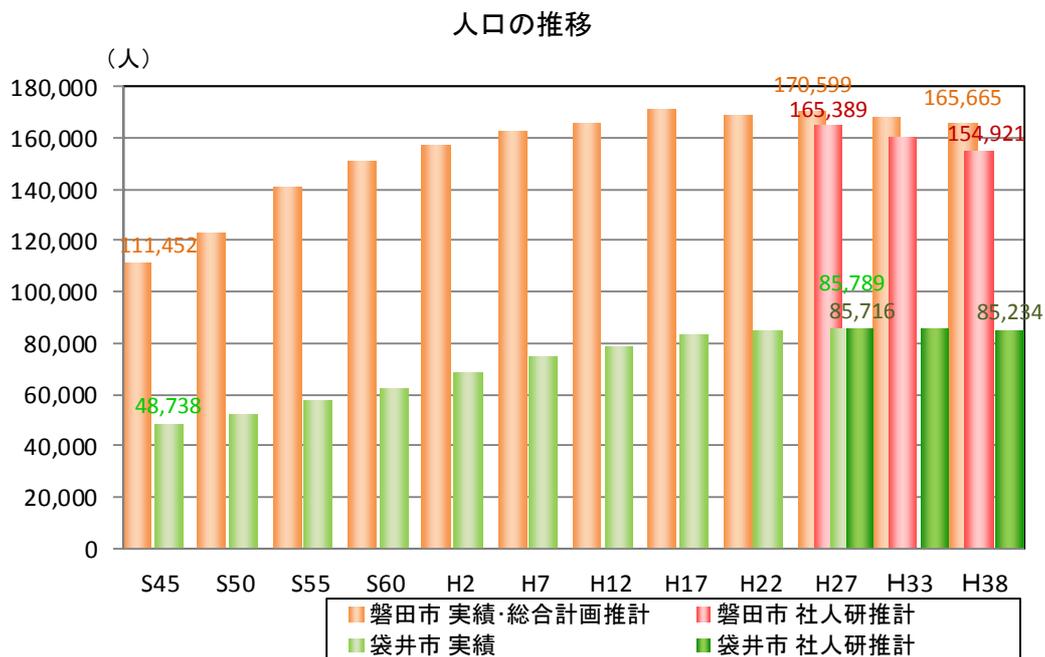
2. 地域公共交通の現状分析

2-1 磐田市及び袋井市の概況

2-1-1 人口動向

(1) 人口の推移

- 磐田市の人口は H17 以降伸び悩んでおり、総合計画及び国立社会保障・人口問題研究所の推計では今後の減少が予測されている。
- 磐田市総合計画における将来人口は、国立社会保障・人口問題研究所の将来予測値を 10 万人以上上回る目標（約 166,000 人）を掲げており、住み続けたい、住んでみたいと思われる施策を総合的に展開し、自然動態・社会動態の改善に努めるものとしている。



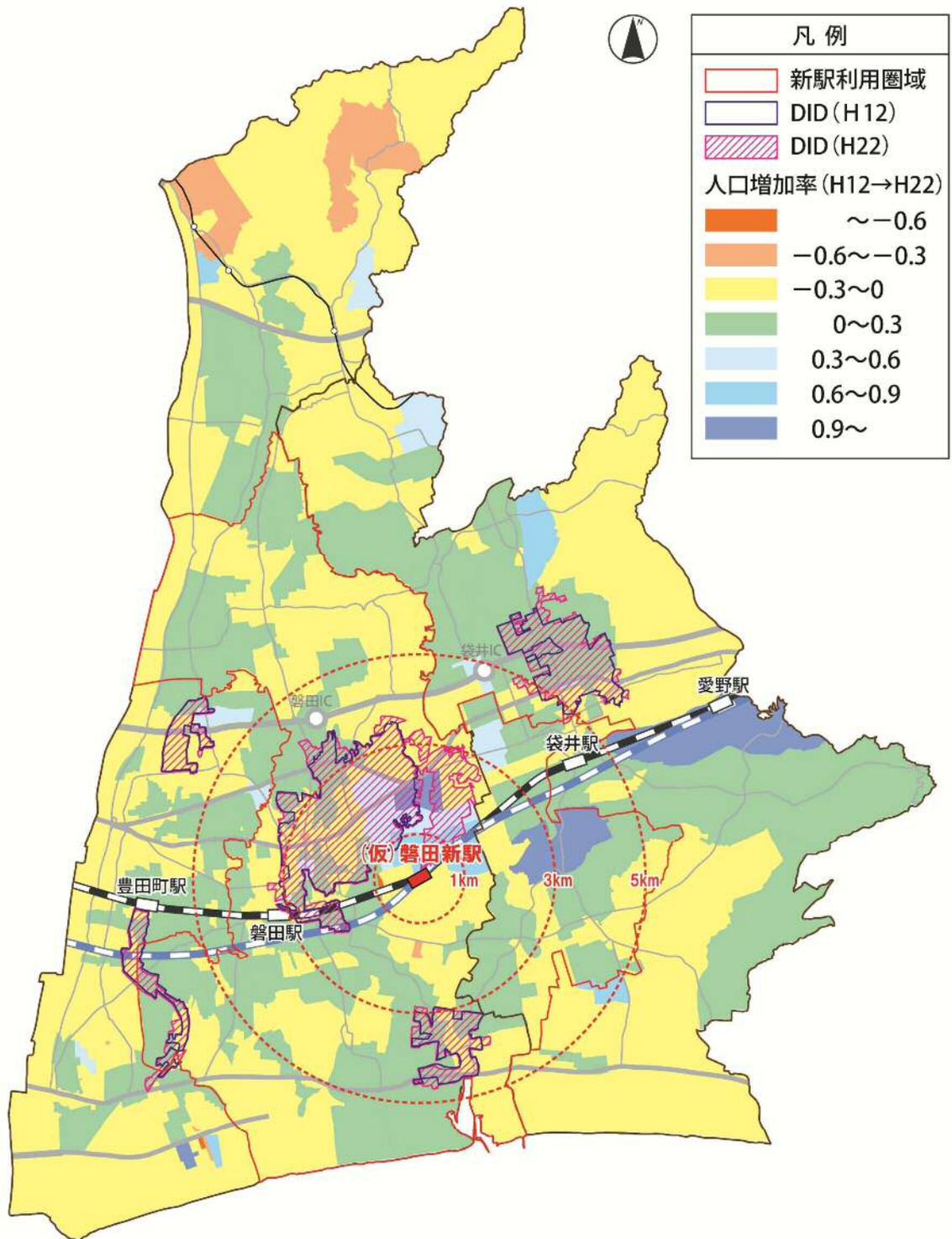
※出典：実績：国勢調査（各年 10 月 1 日）

社人研：国立社会保障・人口問題研究所

(2) 人口集積の変遷

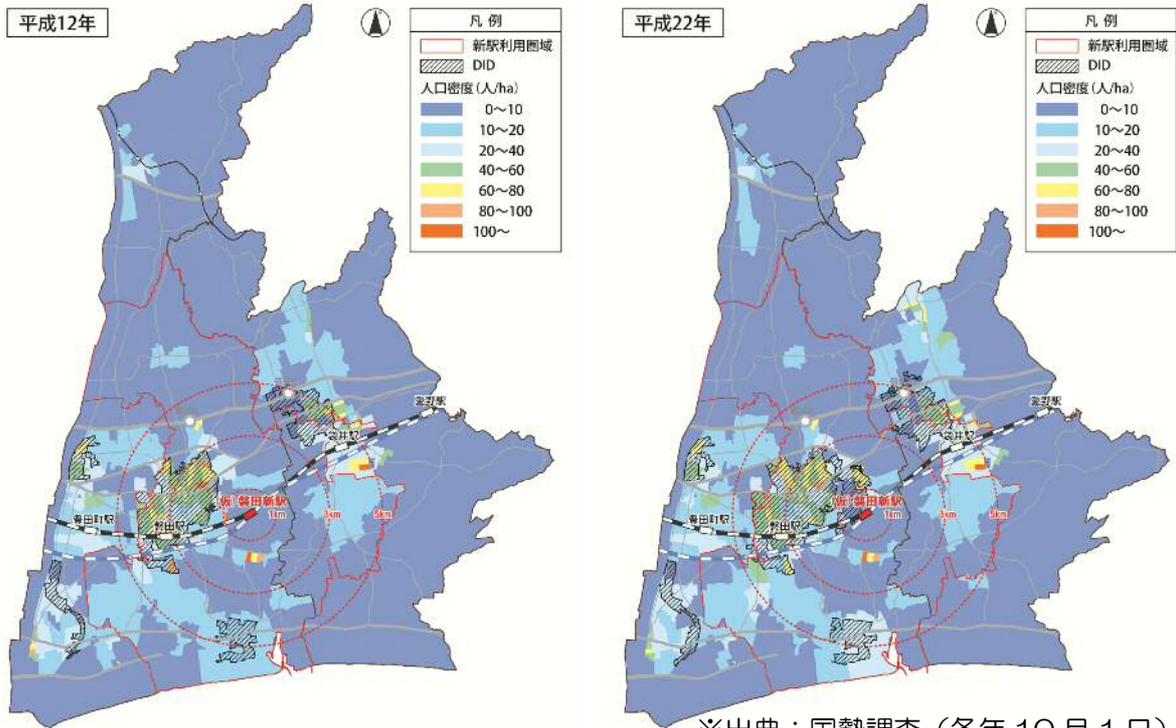
- 磐田市全体としては、大きな変動は見られないが、磐田駅の北側から(仮)磐田新駅予定地方向及び郊外へ人口集積が進んでいる。袋井市は大きな変動は見られない。
- 人口集中地区(DID)は、平成 2 年までは磐田駅及び袋井駅周辺のみであったが、平成 12 年には磐田市内の郊外部にも現れている。さらに、平成 22 年には(仮)磐田新駅周辺も DID 地区となっている。
- (仮)磐田新駅予定地北側では、土地区画整理事業地の外延の人口集積が進み、すでに DID 地区となっている。

人口増加率

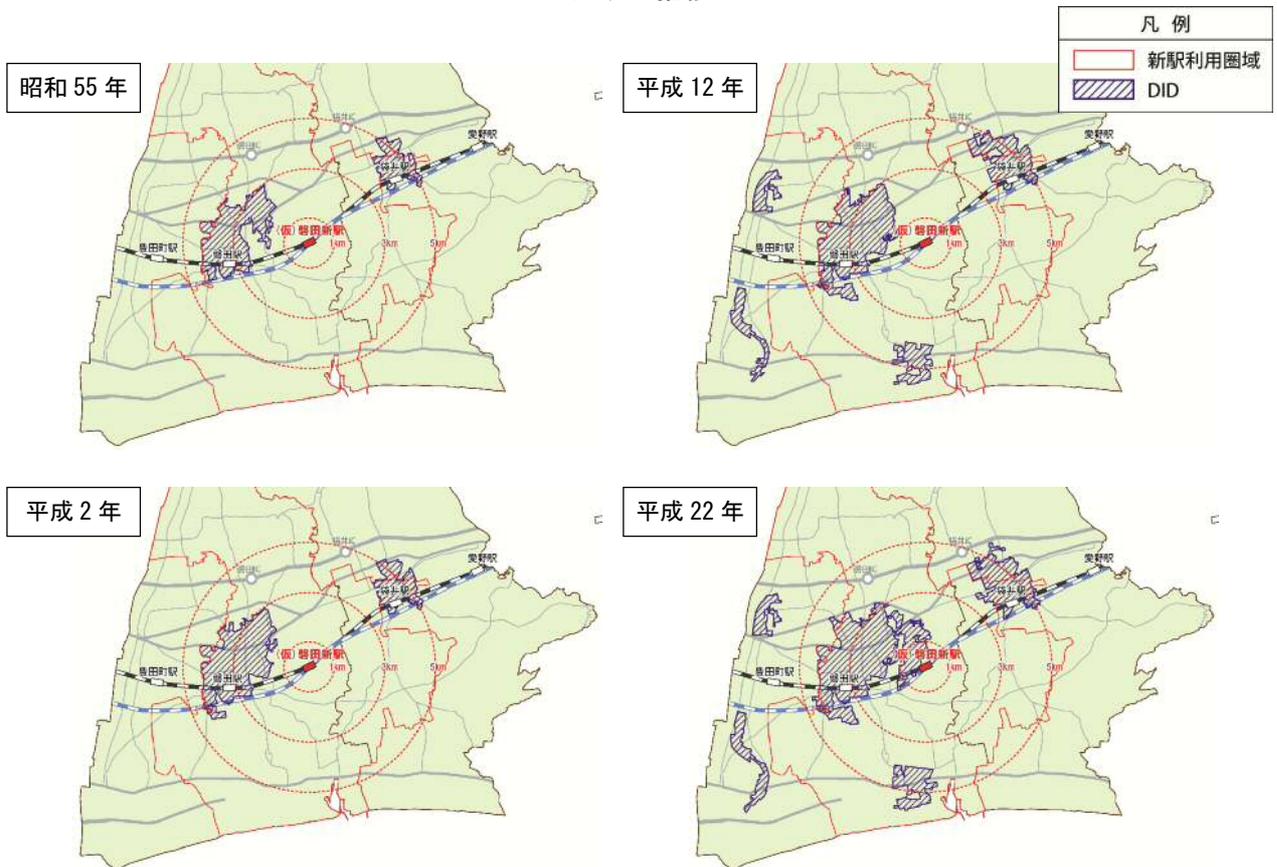


※出典：国勢調査（各年10月1日）

人口密度の推移



DID 区域の推移

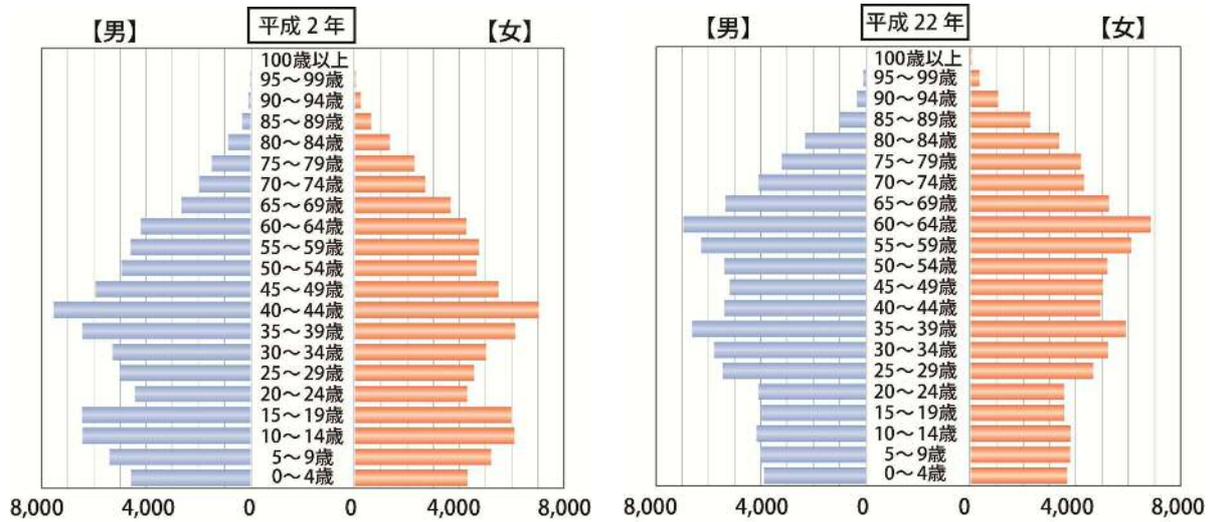


※新駅利用圏域：(仮)磐田新駅利用者 OD 内訳分析(H26.10)による予測結果

(3) 年齢別人口の割合の推移

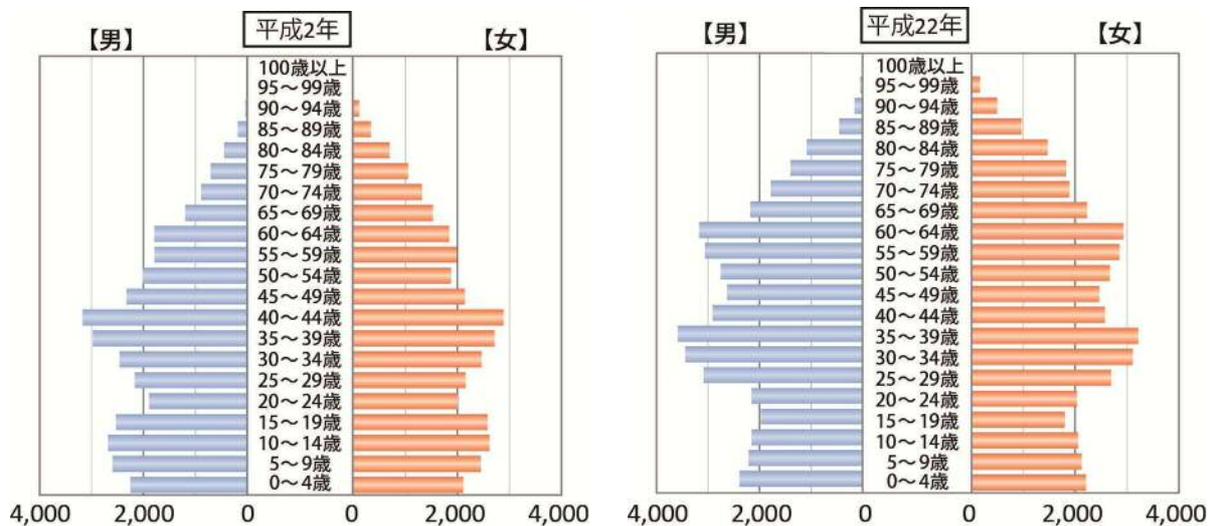
- 磐田市の年齢別人口は年齢階層のピークが上昇している。25-39歳の階層も多く、緩やかに高齢化が進んでいる。
- 袋井市の年齢別人口の傾向も同じような状況である。

年齢別人口の推移（磐田市）



※出典：国勢調査（各年10月1日）

年齢別人口の推移（袋井市）

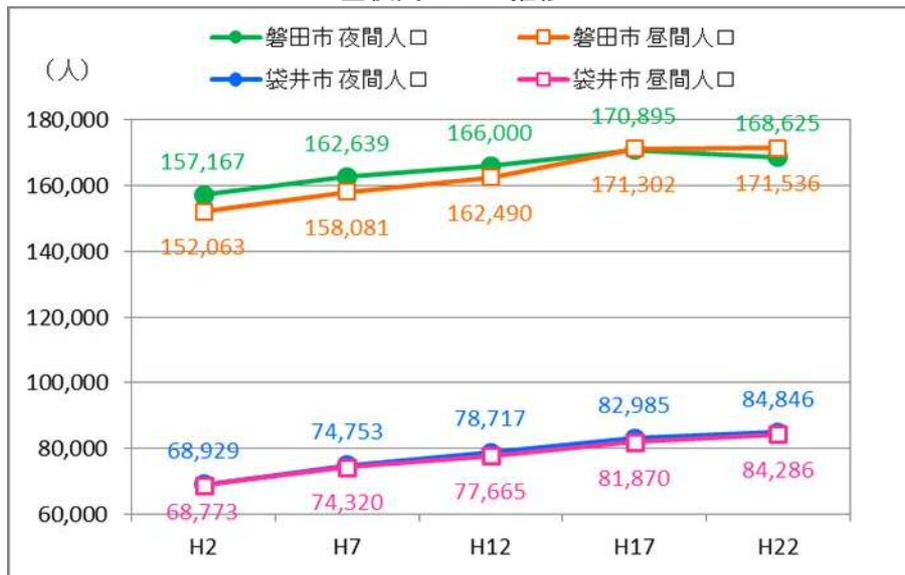


※出典：国勢調査（各年10月1日）

(4) 人口動態

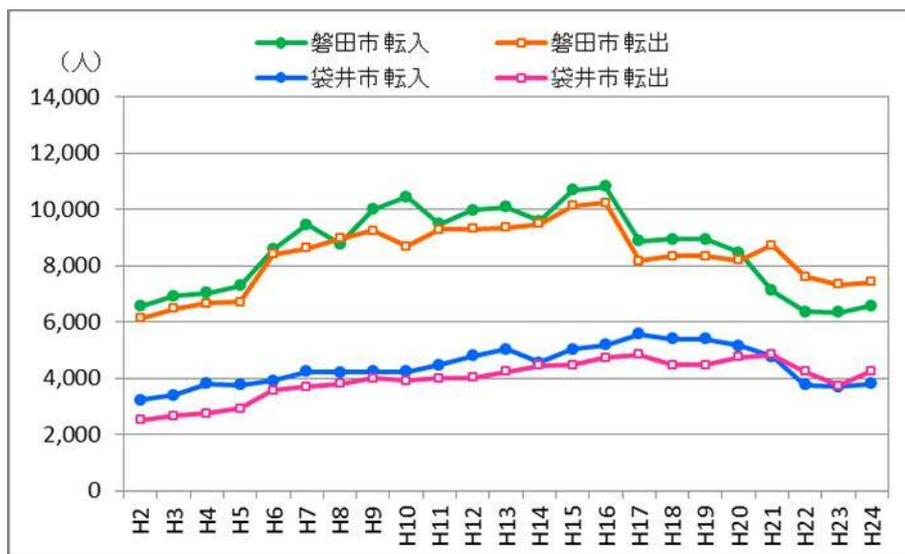
- 磐田市の昼夜間人口は、平成 22 年に夜間人口の減少に伴い、昼間人口が夜間人口を上回っている。
- 平成 17 以降は自市内就業率が高まり、住機能型から生活圏の中心である核型都市へと変わってきている。
- 平成 21 年から転出が転入を上回り、市外への移住も進んでいる。

昼夜間人口の推移



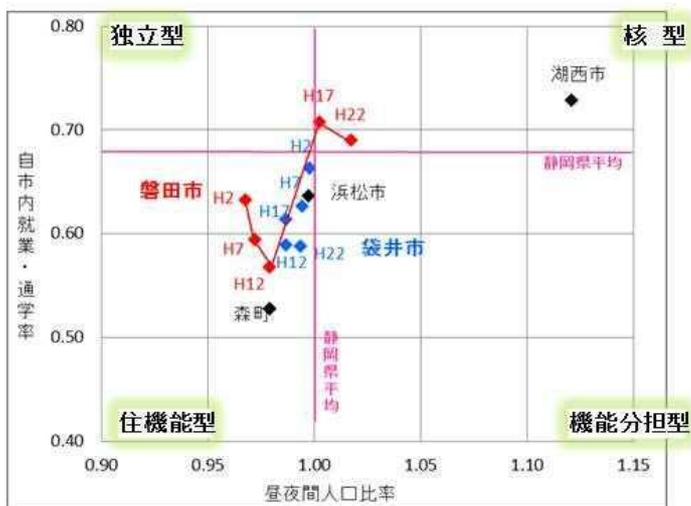
※出典：国勢調査（各年 10 月 1 日）

社会動態（転入・転出）の推移



※出典：静岡県統計年鑑

都市性格分類



都市性格

- 核型**：自市内で働く人が多く、就業、通学者を含めた昼間人口が多い都市であり、生活圏における中心都市
- 独立型**：自市内で働く人が多いが、昼間の人口は多くない都市で、独立した生活圏を形成
- 住機能型**：自市内で働く人が少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市のベッドタウンとして機能
- 機能分担型**：自市内で働く人は少ないが、昼間人口が多い都市であり、職等の機能に特化

※出典：国勢調査（各年10月1日）

転入・転出者数

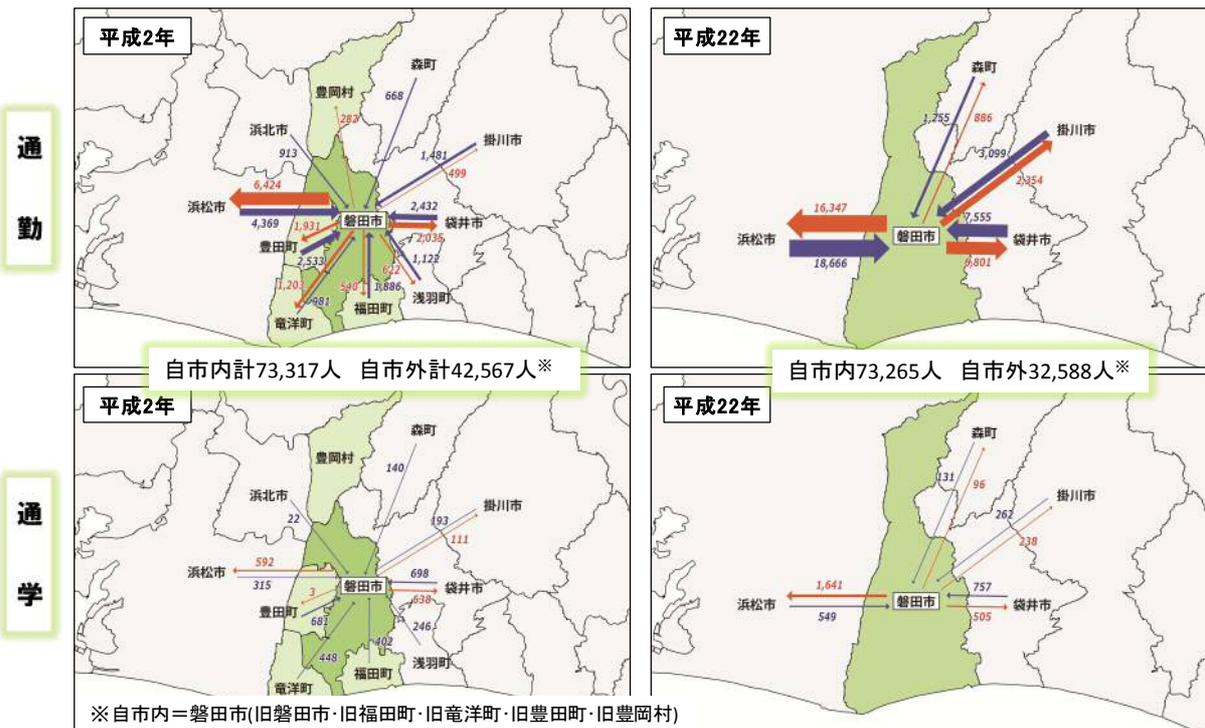


※出典：平成25年度版磐田市統計書（H22～H24）

(5) 通勤・通学による人口流動

- 平成 22 年は、磐田市全域のデータとなるが、通勤・通学ともに、浜松市と袋井市との結びつきが強く、JR 東海道線沿いの東西の人の動きが多くなっている。
- 自市内の就業・通学者数は変化ないが、自市外へは減っており、人の動きの総量が減少している。

通勤・通学（15 歳以上）による人口流動



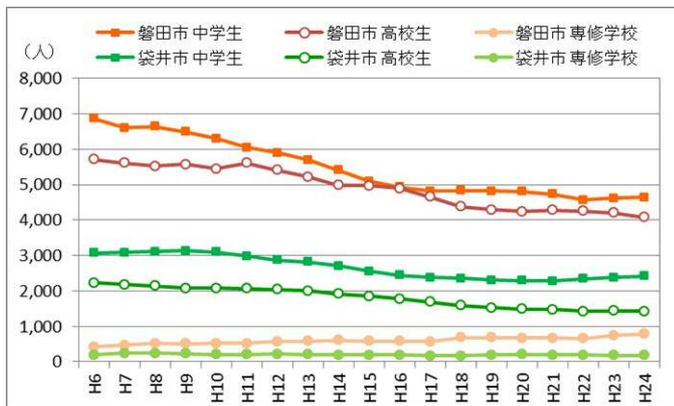
※出典：国勢調査（各年 10 月 1 日）

2-1-2 主要施設

(1) 学校・教育施設

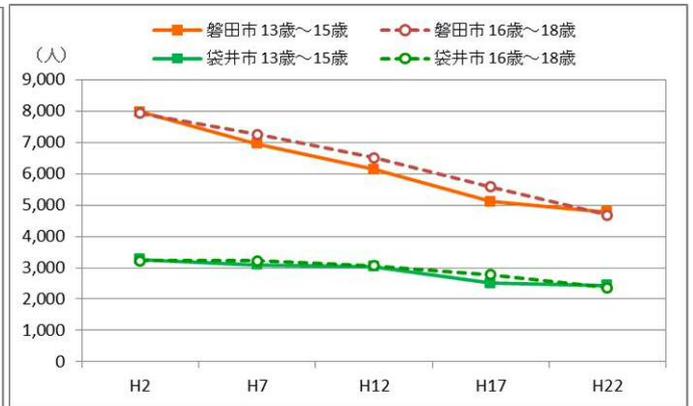
- ・ 磐田市の中学生・高校生の数は、減少傾向となっていたが、平成 17 年以降は横ばいとなっている。袋井市は横ばいとなっている。
- ・ 磐田市の中学生と高校生の対象となる 13-15 歳、16-18 歳人口も同様に減少傾向となっていたが、13-15 歳人口は平成 17 年から横ばいとなっている。16-18 歳人口は引き続き減少傾向となっているが、高校生数は横ばいとなっており、市外からの通学者の割合が増えていることが伺われる。袋井市は横ばいとなっている。
- ・ 専修学校は、磐田市内に 5 校、袋井市内に 1 校あるが、人数は少ないものの微増の傾向となっている。
- ・ (仮)磐田新駅の 5km 圏域には、磐田市内の高校が全て含まれる。特に、磐田東高校は、(仮)磐田新駅が最寄りとなる。

学生数の推移



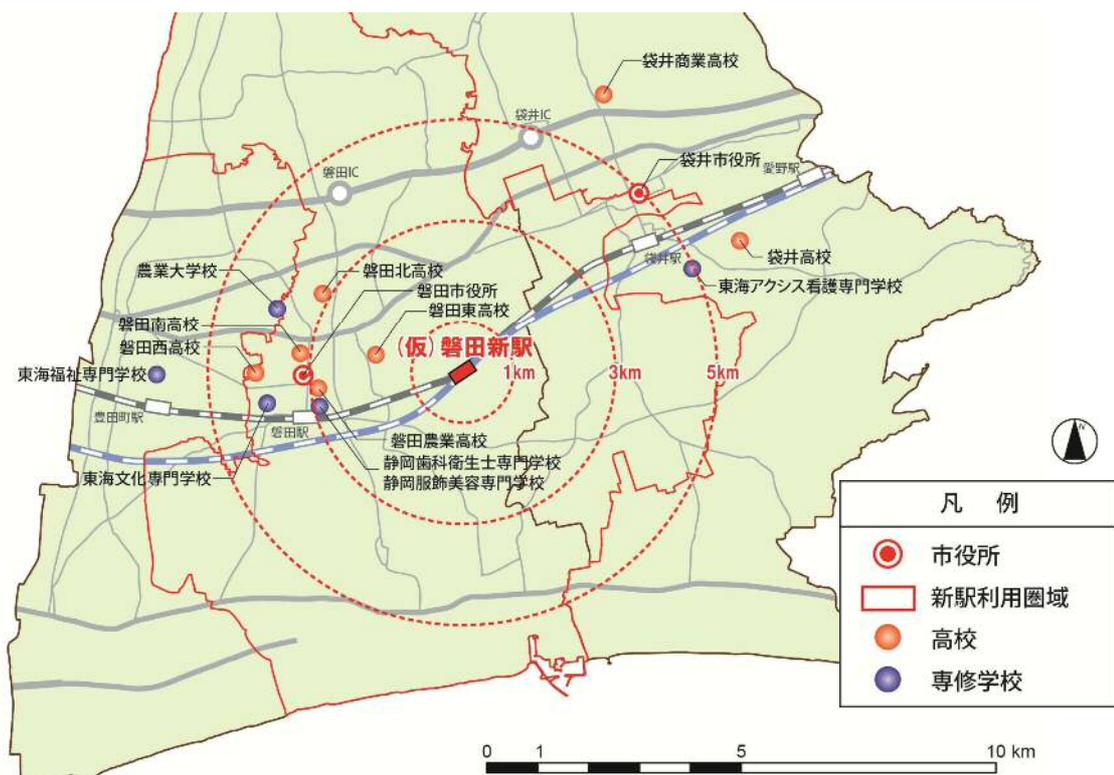
※出典：静岡県統計年鑑

対象年齢人口の推移



※出典：国勢調査（各年 10 月 1 日）

高等学校・専修学校の位置

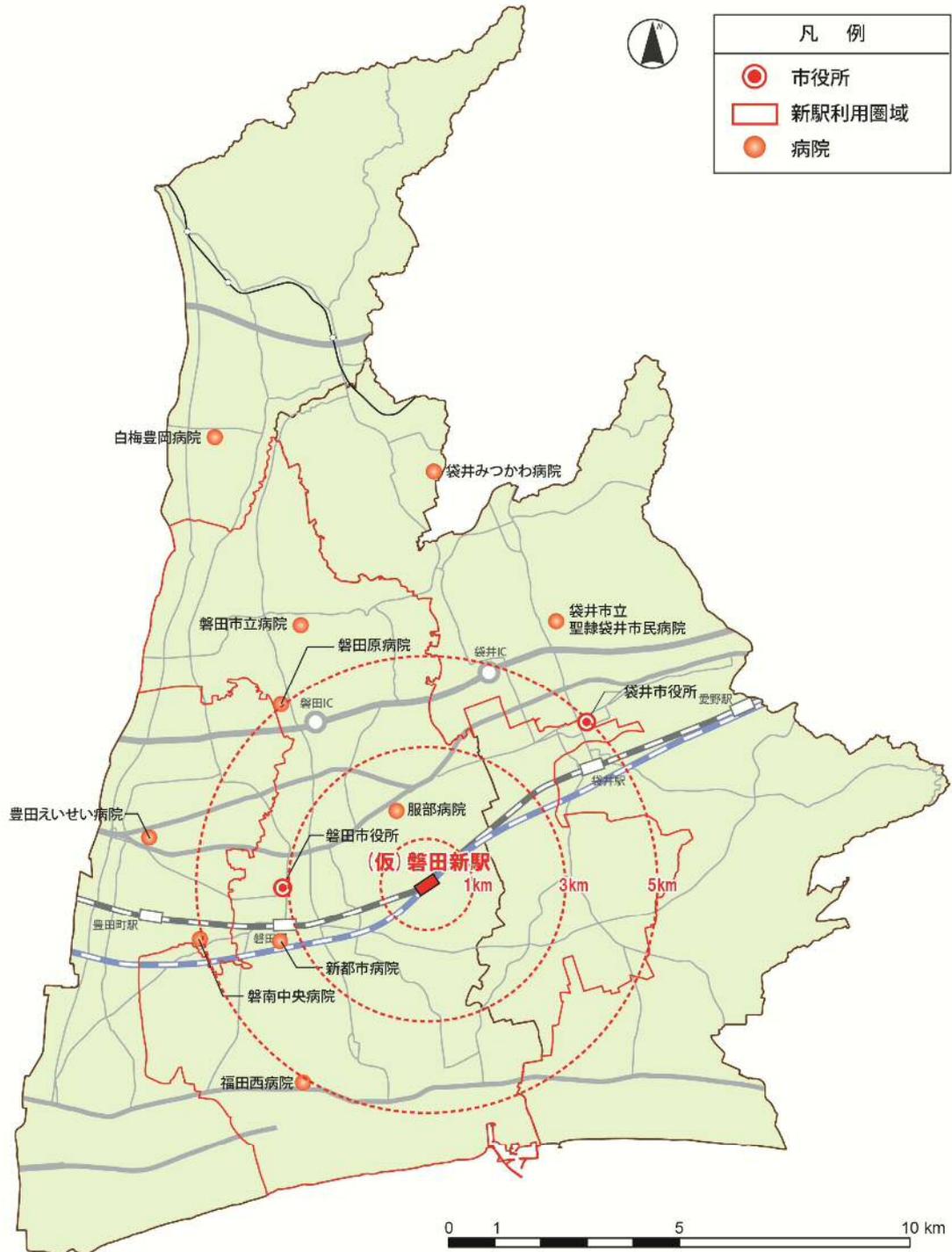


(2) 病院

- 磐田市には病院が 8 箇所、袋井市内には 2 箇所あり、(仮)磐田新駅に最も近いのは服部病院となっている。

※病院：医療法で定義される「病院」で、20 床(しょう)以上の入院施設を持つ医療機関

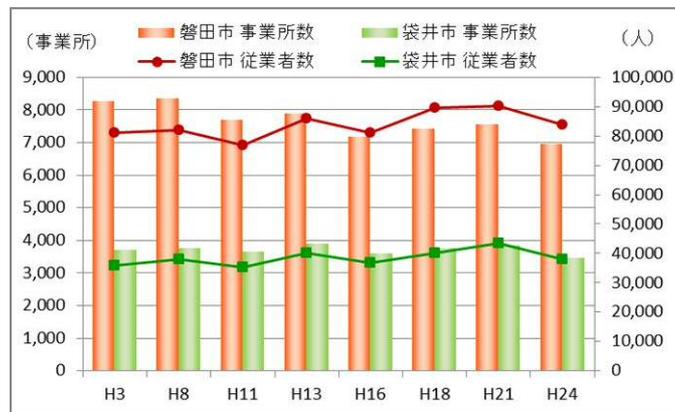
病院の位置



(3) 事業所

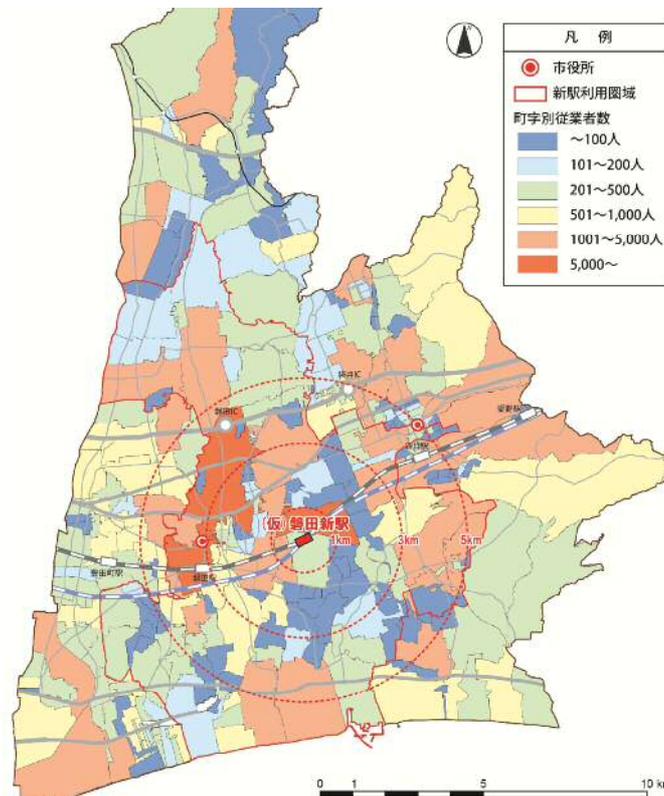
- 磐田市と袋井市は同じような傾向にあり、平成 18 年・21 年に事業所数・従業員数は増加したものの、平成 24 年には再び減少している。
- 鉄道・高速道路・国道沿いのエリアの従業員数が多く、大規模工場での従業員が中心である。
- 磐田駅及び(仮)磐田新駅の北側の従業員が最も多く、鉄道利用による通勤が可能な範囲に多くの就業先がある。
- (仮)磐田新駅の利用圏内の従業員数は、56,422 人と磐田市内の約 63%を占め、事業所も 4,553 事業所と約 62%を占めている。

事業所・従業員数の推移



※出典：事業所・企業統計調査、経済センサス活動調査

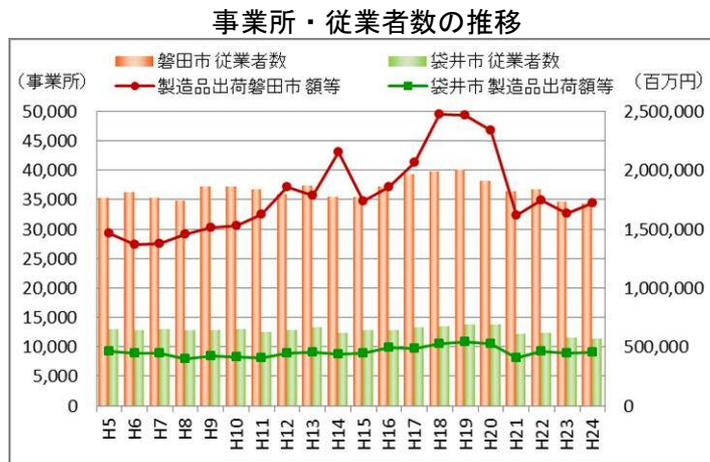
町字別従業員数



※出典：経済センサス活動調査（H21）

(4) 工業機能

- 磐田市と袋井市は同じような傾向にあり、工業従業員数は、平成19年以降微減傾向にあるが、平成21年に落ち込んだ製造品出荷額が増加に転じ始めており、従業員数も今後、増加に転じることが伺われる。
- (仮)磐田新駅の利用圏域には、磐田市内のほとんどの大規模な工場が立地しており、通勤者の利用が見込まれる。
- 特に、最も従業員数の多いヤマハ発動機やNTN 磐田製作所は(仮)磐田新駅が最寄りとなり、スズキ磐田工場も約3kmと、(仮)磐田新駅からの企業通勤バスの発着も見込まれる。
- (仮)磐田新駅の利用圏域内の主要企業の従業員数は、11,425人であり、市内の約74%である。
- 袋井市の主要企業は JR や東名高速道路沿いに集中しているが、南部の企業においては(仮)磐田新駅等の公共交通機関利用の可能性はある。



※出典：事業所・企業統計調査、経済センサス活動調査

主要な企業の立地状況と従業員数



※出典：静岡県 企業立地推進課調査

(6) 観光・レジャー機能

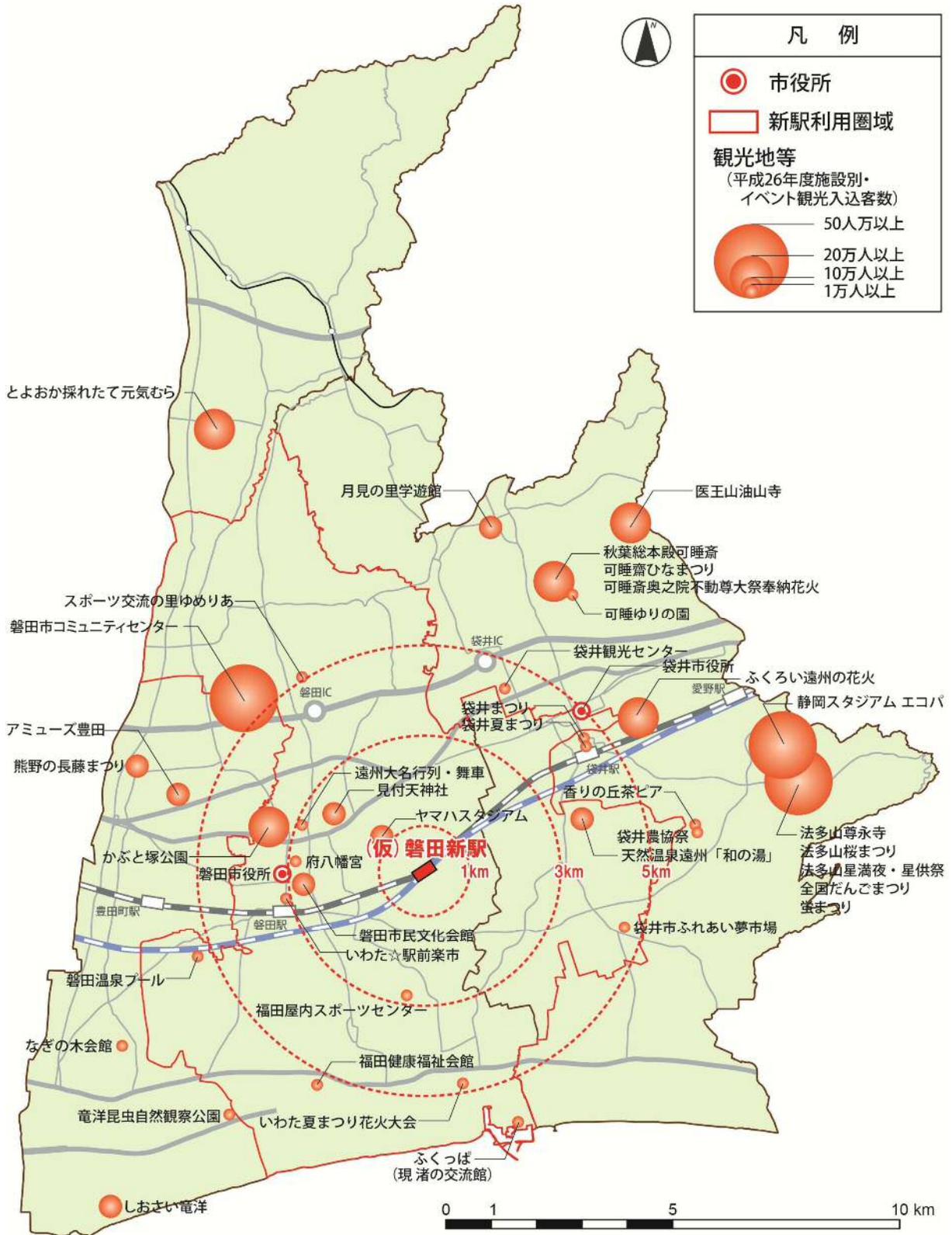
- (仮)磐田新駅を最寄とする観光・レジャー施設は、ヤマハスタジアムがあり、年間20万人が来場している。
- この他、福田屋内スポーツセンターやいわた夏まつり花火大会等が最寄りとなり、合計約35万人が観光レジャーで来訪している。
- (仮)磐田新駅の利用圏域内には、磐田市で最大の来訪者がある磐田市コミュニティセンターもある。

観光者・レジャー数（平成26年度来場者上位20）

順位	磐田市				袋井市			
	名称	H25 (人)	H24 (人)	前年比	名称	H25 (人)	H24 (人)	前年比
1	磐田市 コミュニティセンター	605,120	527,060	114.80% ↑	法多山尊永寺	1,172,360	1,179,110	99.40% ↓
2	とよおか採れたて 元気むら	288,096	296,464	97.20% ↓	静岡スタジアム エコパ	1,013,073	1,016,192	99.70% ↓
3	かぶと塚公園	209,662	154,418	135.80% ↑	医王山油山寺	442,950	468,510	94.50% ↓
4	しおさい竜洋	199,984	192,975	103.60% ↑	秋葉総本殿 可睡齋	362,980	384,720	94.30% ↓
5	ヤマハスタジアム	183,802	225,854	81.40% ↓	ふくろい遠州の 花火	330,000	430,000	76.70% ↓
6	アミューズ 豊田	172,799	172,869	100.00% →	天然温泉遠州 「和の湯」	133,761	145,796	91.70% ↓
7	見付天神社	145,313	142,733	101.80% ↑	月見の里学遊館	100,924	173,045	58.30% ↓
8	熊野の 長藤まつり	116,000	66,000	175.80% ↑	袋井観光センター	96,713	110,200	87.80% ↓
9	磐田市民文化会館	104,249	108,105	96.40% ↓	可睡ゆりの園	82,616	91,295	90.50% ↓
10	府八幡宮	100,100	79,300	126.20% ↑	可睡齋ひなまつり	50,520	0	—
11	ふくっば (現 渚の交流館)	96,264	80,740	119.20% ↑	袋井まつり	40,000	40,000	100.00% →
12	磐田温水プール	88,835	85,309	104.10% ↑	香りの丘茶ピア	37,620	27,400	137.30% ↑
13	遠州大名行列・ 舞車	70,000	70,000	100.00% →	法多山桜まつり	29,800	31,000	96.10% ↓
14	なぎの木会館	65,636	71,454	91.90% ↓	法多山星満夜・ 星供祭	26,100	27,300	95.60% ↓
15	いわた夏まつり 花火大会	65,000	75,000	86.70% ↓	袋井夏まつり	16,000	15,000	106.70% ↑
16	福田健康福祉会館	63,736	69,060	92.30% ↓	全国だんご まつり	15,000	13,100	114.50% ↑
17	福田屋内 スポーツセンター	58,944	58,607	100.60% ↑	可睡齋奥之院不動 尊大祭奉納花火	12,000	10,000	120.00% ↑
18	スポーツ交流の里 ゆめりあ	56,335	52,361	107.60% ↑	袋井農協祭	12,000	12,000	100.00% →
19	竜洋昆虫 自然観察公園	39,895	41,406	96.40% ↓	袋井市ふれあい 夢市場	12,000	9,000	133.30% ↑
20	いわた☆駅前楽市	38,000	38,000	100.00% →	蛸まつり	12,000	14,200	84.50% ↓

※出典：磐田市

観光者・レジャー施設



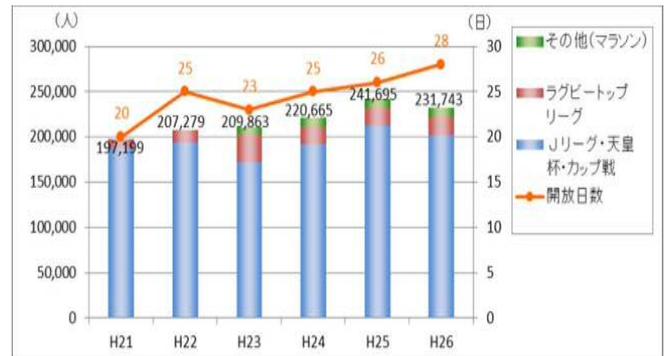
(7) ヤマハスタジアム

- これまでは磐田駅からタクシーで約10分、バスで約15分を要していたが、(仮)磐田新駅からは徒歩圏となり、公共交通利用による来場が便利になる。
- イベント時には磐田駅からシャトルバスが運行されている。
- スタジアム来場者は、サッカー観戦が主であり、対戦相手も県外から来場するため、公共交通による来場が多くなる。その他、ラグビーのトップリーグも開催される。
- メモリアルマラソンでは1万人以上の参加者があり、そのうち20%が県外からの参加者である。

ヤマハスタジアムの位置



ヤマハスタジアムの来場者数



※出典：磐田市

ヤマハスタジアムのスケジュール例

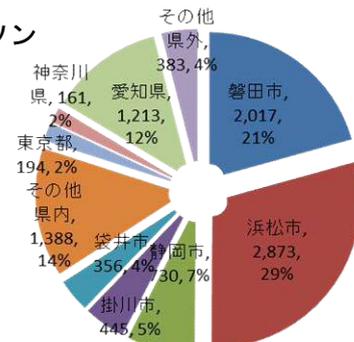
節	開催日	対戦	節	開催日	対戦
1	3/8(日)	ギラヴァンツ北九州	22	7/8(水)	カマタマーレ讃岐
4	3/29(日)	大分トリニータ	24	7/18(土)	ジェフユナイテッド千葉
5	4/1(水)	栃木 SC	26	7/26(日)	セレッソ大阪
7	4/11(土)	ファジアーノ岡山	28	8/8(土)	京都サンガ F.C.
8	4/19(日)	東京ヴェルディ	30	8/23(日)	徳島ヴォルティス
10	4/29(水・祝)	アビスパ福岡	32	9/20(日)	愛媛 FC
13	5/9(土)	水戸ホーリーホック	35	10/4(日)	大宮アルディージャ
15	5/24(日)	ザスパクサツ群馬	37	10/18(日)	コンサドーレ札幌
17	6/6(土)	ツエーゲン金沢	40	11/8(日)	V・ファーレン長崎
19	6/21(日)	FC 岐阜	41	11/14(土)	横浜 FC
21	7/4(土)	ロアッソ熊本	※その他に、天皇杯、ナビスコカップ		

ステージ	節	開催日	対戦
1st	1	08/23(土)	豊田自動織機
	3	09/06(土)	パナソニック
2nd	3	12/13(土)	NTTコム
	5	12/27(土)	トヨタ自動車

※出典：ジュビロ磐田 HP
ラグビー トップリーグ HP

ジュビロ磐田メモリアルマラソン

2014年11月16日(日)
参加者総数 : 9,760組 10,626人

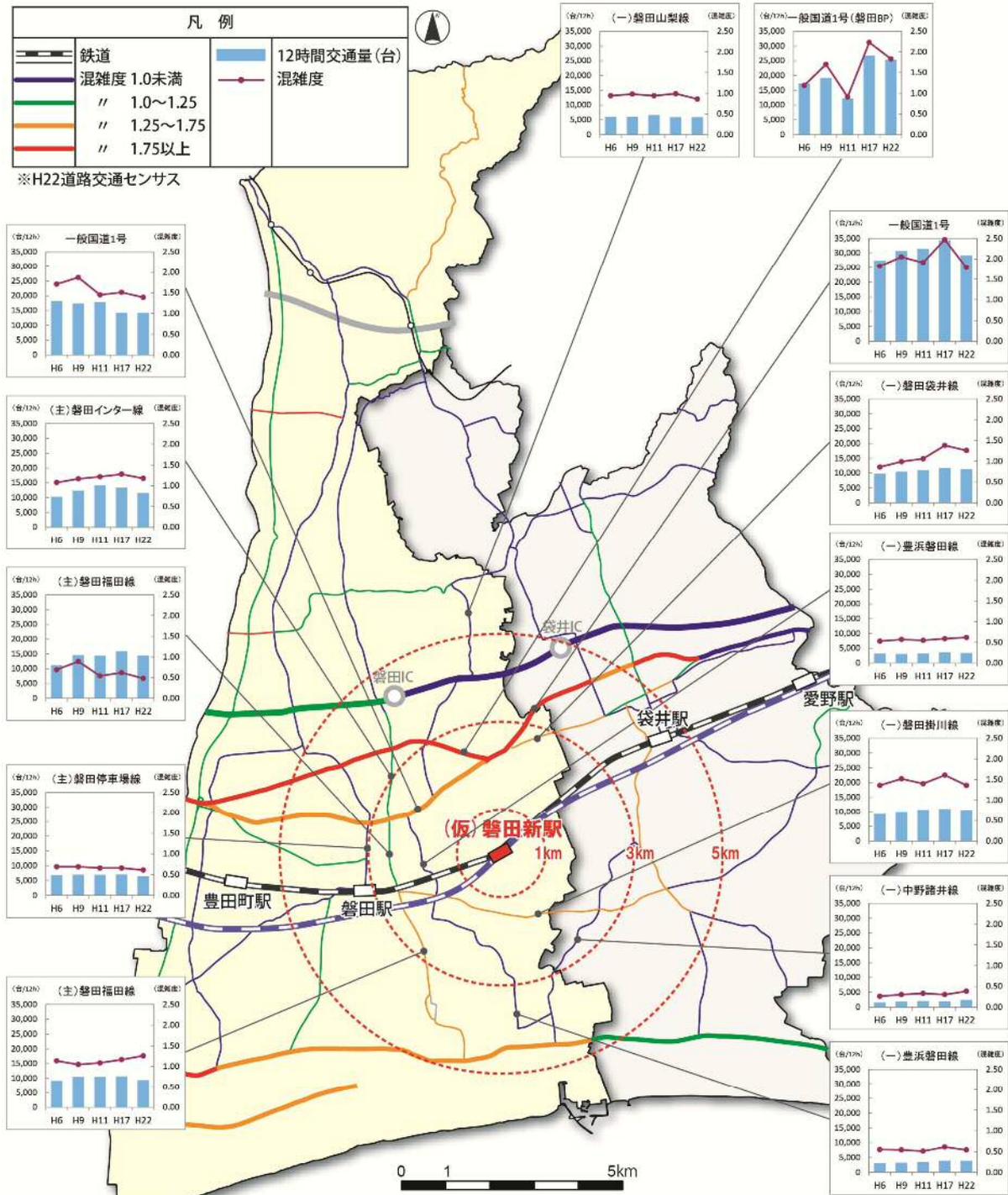


※出典：ジュビロメモリアルマラソン HP

2-1-3 道路及び交通量

- (仮)磐田新駅周辺地域の国道は、北側に一般国道1号が東西に横断し、鉄道を跨ぐ路線として(仮)磐田新駅西側を(一)豊浜磐田線が南北に縦断している。
- 交通量は一般国道1号で非常に多くなっており、混雑度も非常に高くなっている。

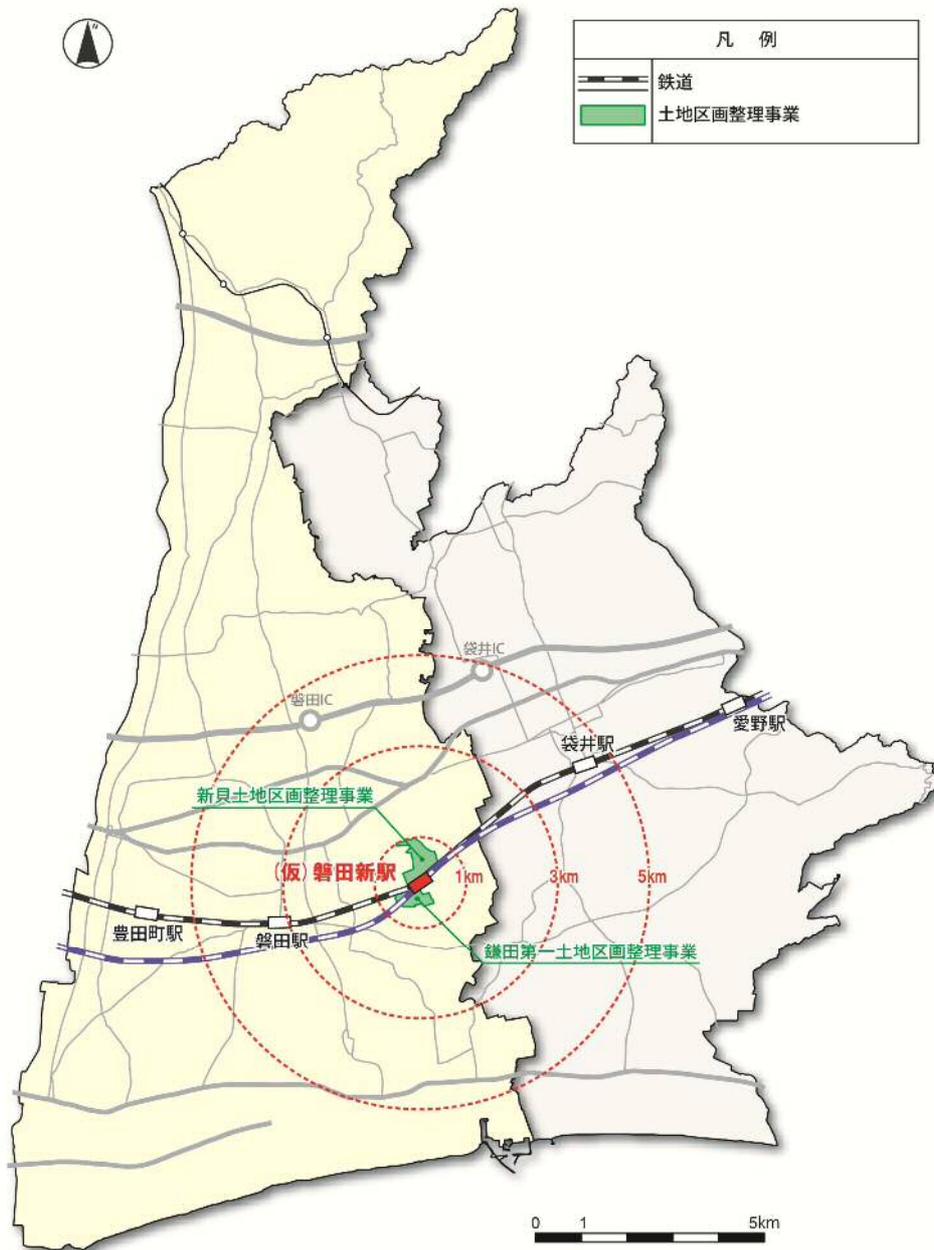
平成22年道路交通センサスにおける交通量の状況



2-1-4 土地区画整理事業

- (仮)磐田新駅周辺地域では、新貝土地区画整理事業及び鎌田第一土地区画整理事業が施行中となっている。
- 新貝土地区画整理事業は、(仮)磐田新駅の北東側に位置し、(仮)磐田新駅北口の都市機能の充実を図るとともに、住・商・工バランスのとれた住環境の整備を行い、良好な宅地供給を図ることを目的に施行されており、平成32年度完成予定となっている。
- 鎌田第一土地区画整理事業は、(仮)磐田新駅の南側に位置し、(仮)磐田新駅の駅前広場やアクセス道路（都市計画道路）等の公共施設の整備を行うとともに、(仮)磐田新駅周辺にふさわしい良好な市街地の形成を図ることを目的に施行されており、平成35年度完成予定となっている。

(仮)磐田新駅周辺地域の開発状況



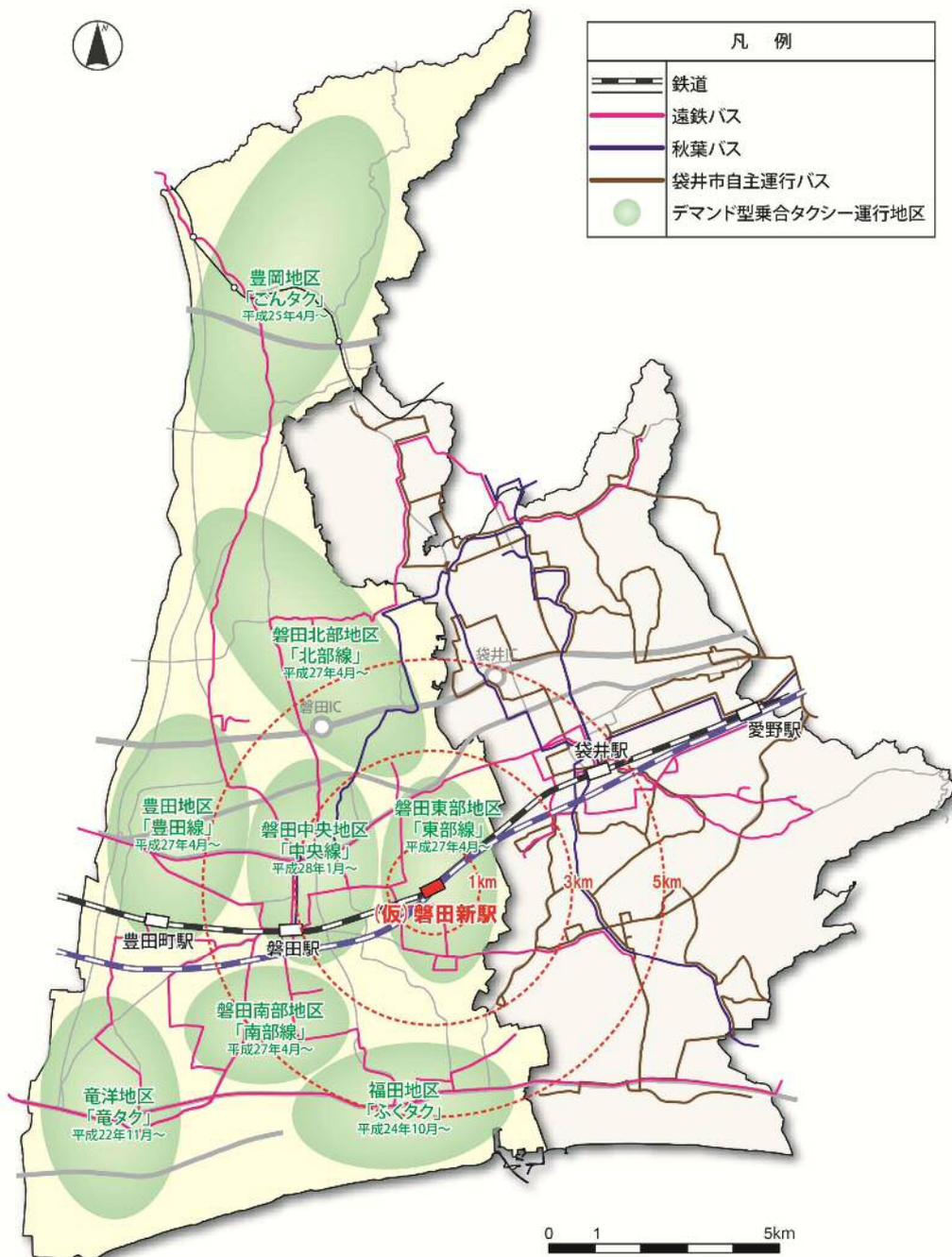
2-2 (仮) 磐田新駅周辺地域の公共交通の状況

2-2-1 (仮) 磐田新駅周辺地域の公共交通

(1) (仮) 磐田新駅周辺の公共交通網

- (仮) 磐田新駅周辺の鉄道は、(仮) 磐田新駅が設置される JR 東海道本線をはじめ、JR 東海道新幹線が通過している。
- (仮) 磐田新駅周辺のバスは、民間路線バスのほか、磐田市が運行するデマンド型乗合タクシーや袋井市自主運行バスなどが運行している。

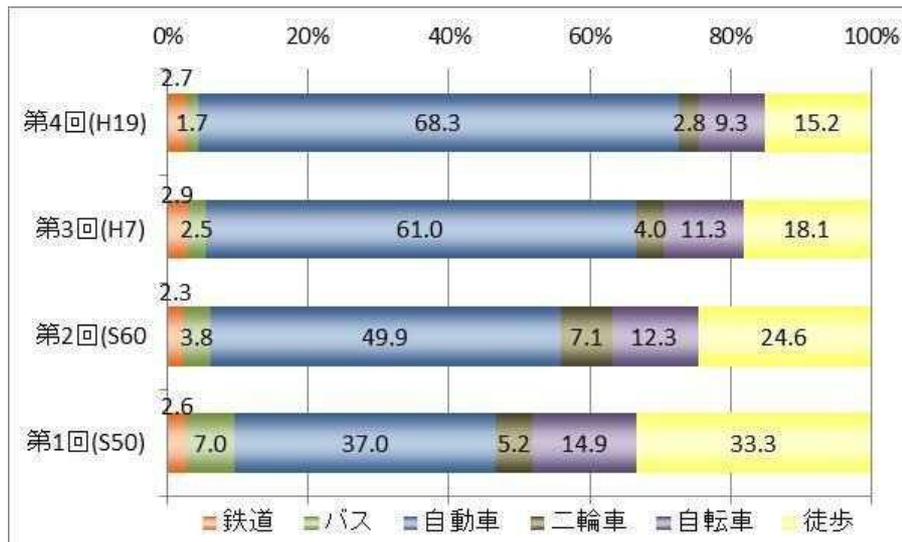
(仮) 磐田新駅周辺の公共交通網



(2) 代表交通手段

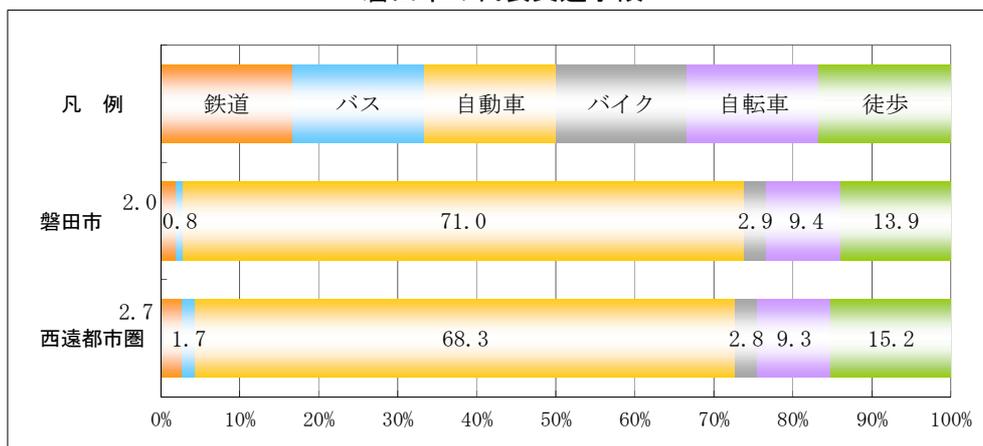
- 西遠都市圏の代表交通手段は、バスの減少が著しく、昭和 50 年から平成 19 年にかけて約 1/4 に減少している。
- 鉄道は一定の割合を維持している。
- 磐田市の代表交通手段は、西遠都市圏全体と比較すると自動車が多く、鉄道やバスは少なくなっている。

西遠都市圏の代表交通手段



※出典：西遠都市圏の交通

磐田市の代表交通手段



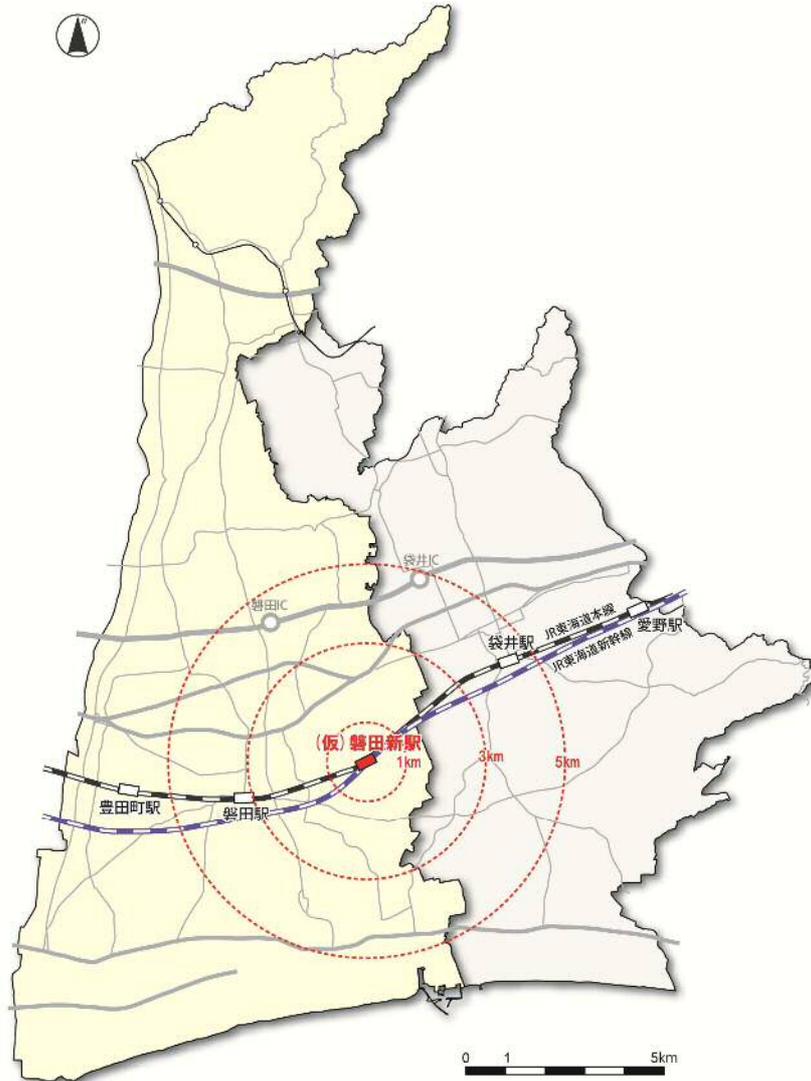
※出典：第 4 回西遠都市圏パーソントリップ調査 (H19)

2-2-2 鉄道

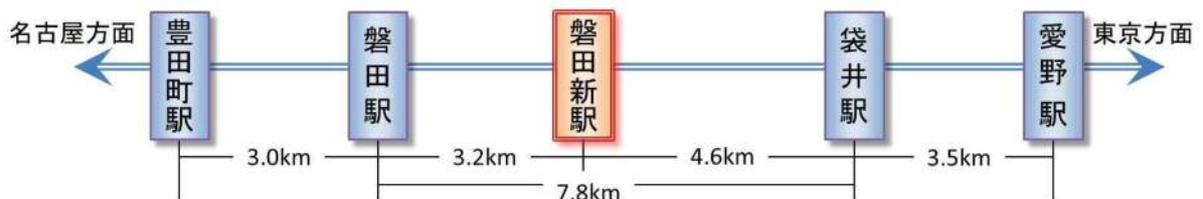
(1) 鉄道駅

- (仮)磐田新駅から概ね 3km 地点に磐田駅があり、概ね 5km 地点に袋井駅がある。
- (仮)磐田新駅整備前は磐田駅から袋井駅間は 7.8km と、前後区間の 3.0~3.5km よりも長くなっている。(仮)磐田新駅が整備されることで、ほぼ均等の間隔で駅が配置されることになる。

(仮)磐田新駅周辺地域の鉄道の状況



鉄道駅区間距離

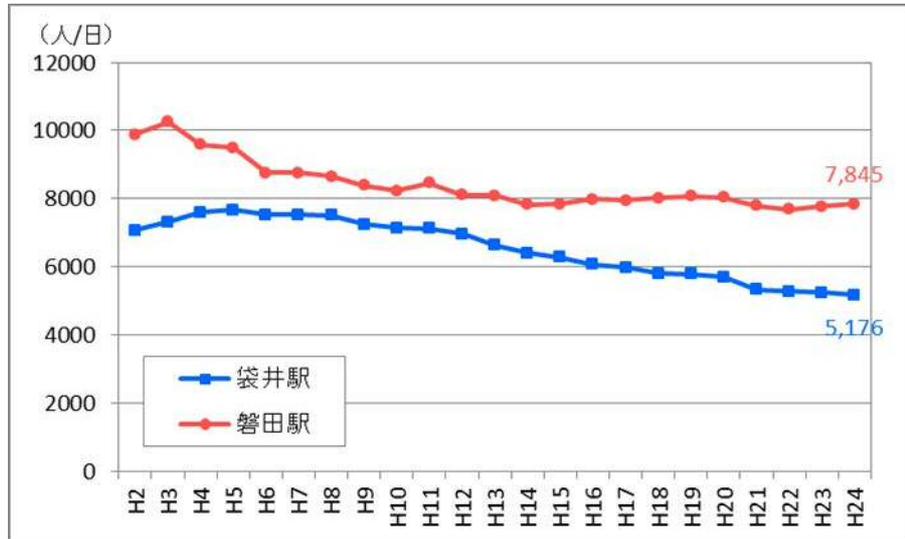


(2) 鉄道利用状況

① 駅利用者数

- 磐田駅や袋井駅の利用者数は年々減少の傾向にあり、平成 24 年には磐田駅で 7,845 人/日、袋井駅で 5,176 人/日と、両駅で約 13,000 人/日となっている。

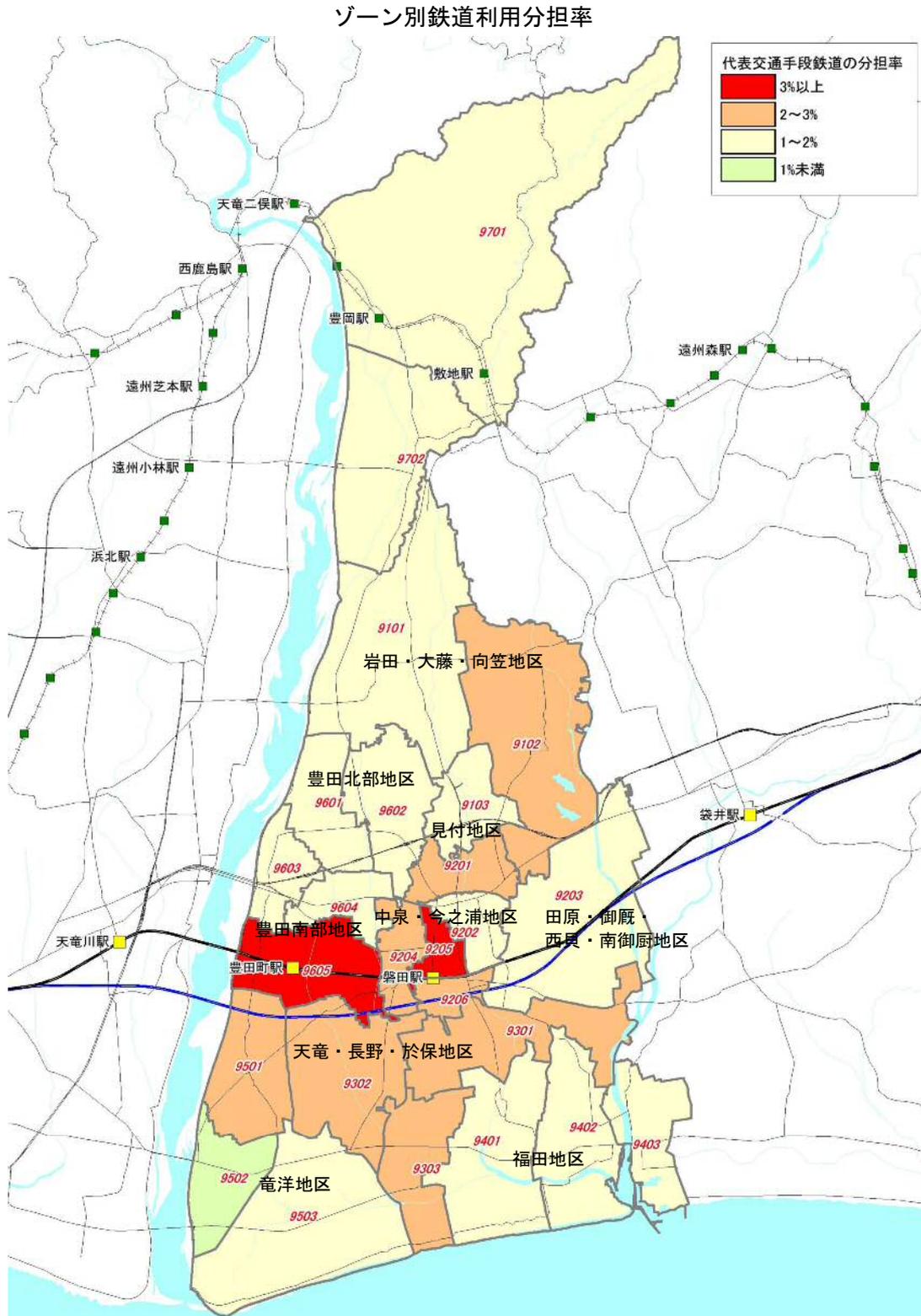
駅利用者数（一日平均）



※出典：静岡県統計年鑑

②鉄道利用分担率

- 代表交通手段のうち、鉄道利用分担率は、磐田駅や豊田町の周辺で3%以上と高くなっている。

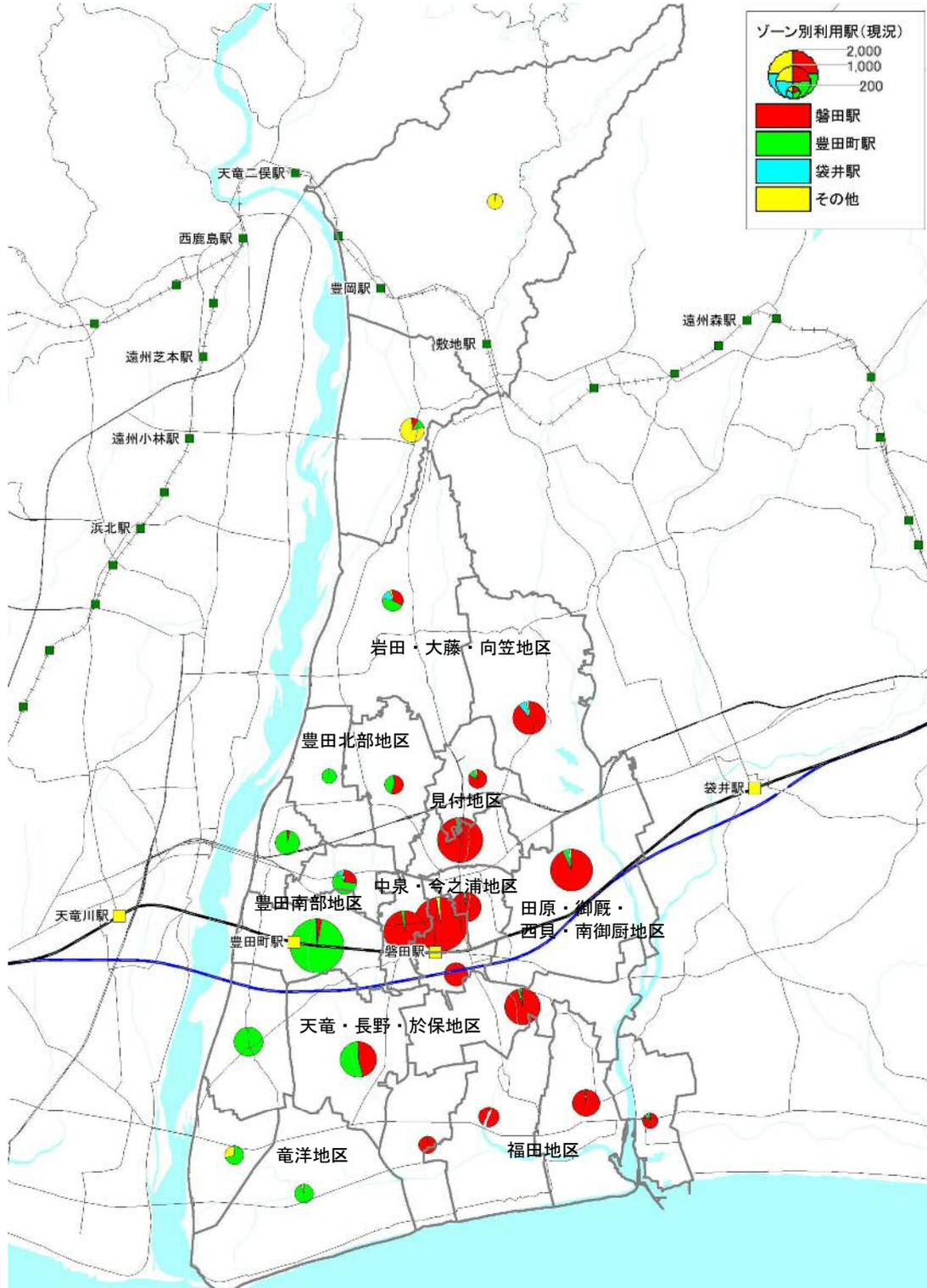


※出典：第4回西遠都市圏パーソントリップ調査（H19）
 ※図中の数値は小ゾーン番号

③ 駅利用圏域

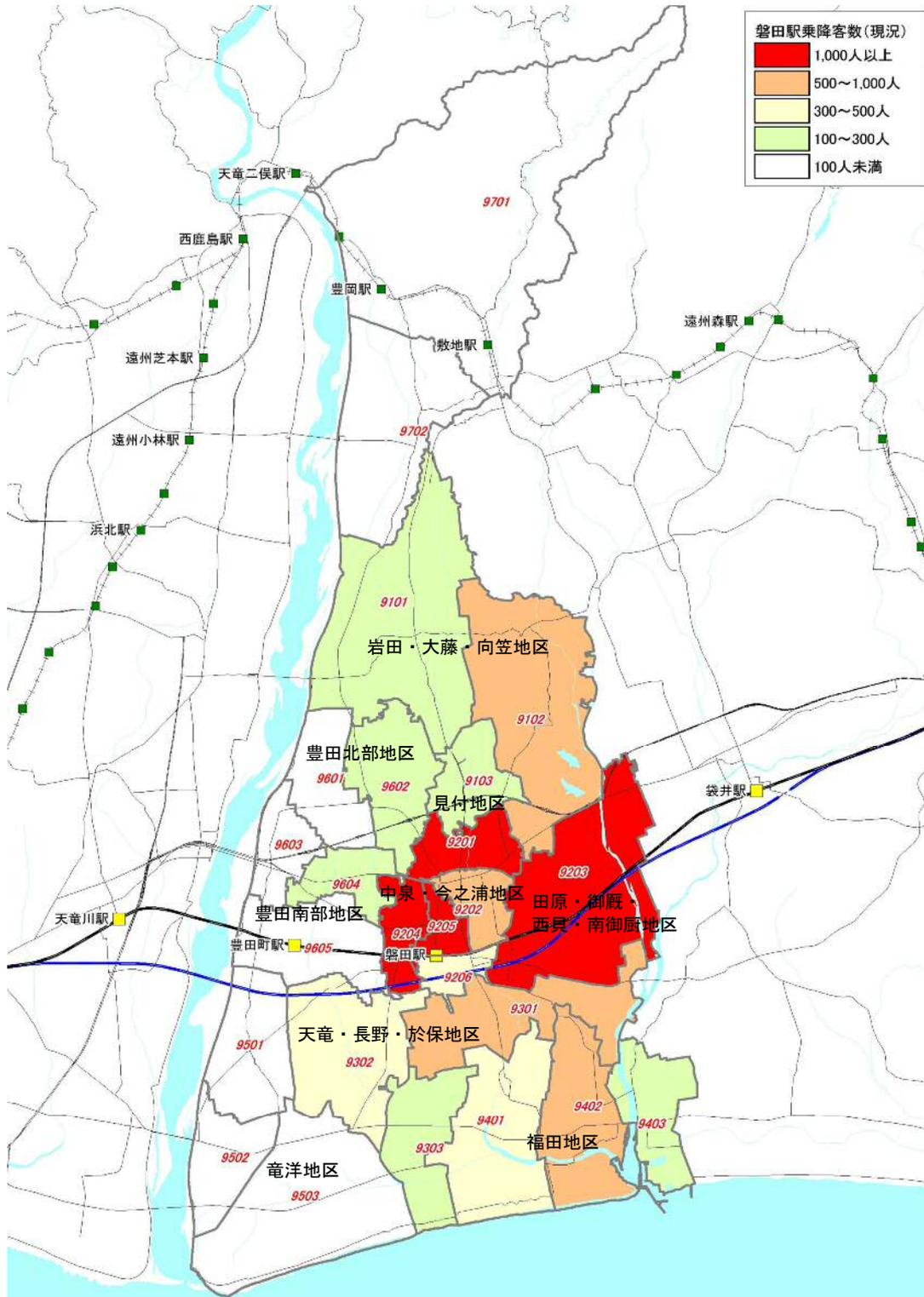
- 磐田駅の利用圏域は磐田市中心部から東側に広がり、市内からの利用者が98.5%となっている。また、袋井市南部からも利用が見られる。
- 磐田市東部の一部地域では袋井駅の利用も見られる。

磐田市内の利用駅



※出典：第4回西遠都市圏パーソントリップ調査(H19)

磐田駅の利用圏域



※出典：第4回西遠都市圏パーソントリップ調査(H19)
 ※図中の数値は小ゾーン番号

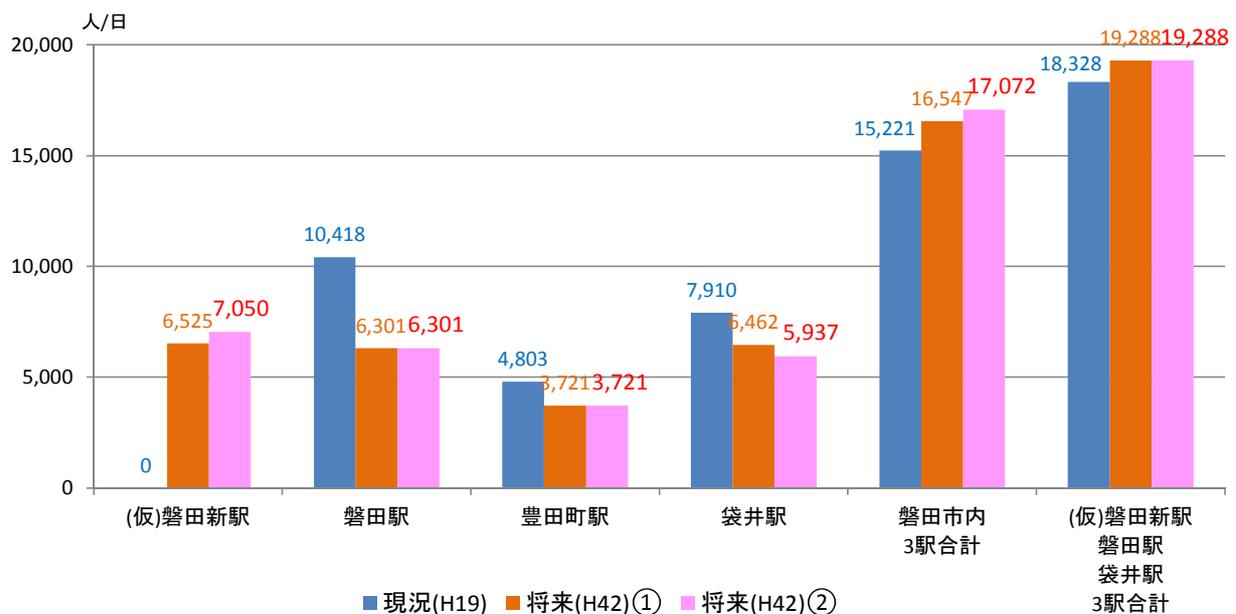
(3) (仮)磐田新駅の利用予測

①将来駅利用者数

- 「第4回西遠都市圏パーソントリップ調査」における将来駅利用者数（将来(H42)①）は、(仮)磐田新駅で6,525人/日となっている。また、各既存駅で減少となっているが、磐田市内3駅や(仮)磐田新駅・磐田駅・袋井駅の3駅合計の利用者数は増加すると予測されている。
- 「磐田市全国都市交通特性調査に伴うアドオン調査結果分析等業務（H29.3）」における将来駅利用者数（将来(H42)②）※は、(仮)磐田新駅で7,050人/日となっている。

※将来(H42)②：「第4回西遠都市圏パーソントリップ調査」(将来(H42)①)における(仮)磐田新駅の利用者数は、磐田市内からの利用のみを想定しているため、平成27年度に袋井市の一部地域の住民も対象に含めて実施した「(仮)磐田新駅周辺地域における公共交通に関するアンケート調査」結果を基に、袋井市からの利用も予測（袋井駅からの転換と想定）

駅利用者数



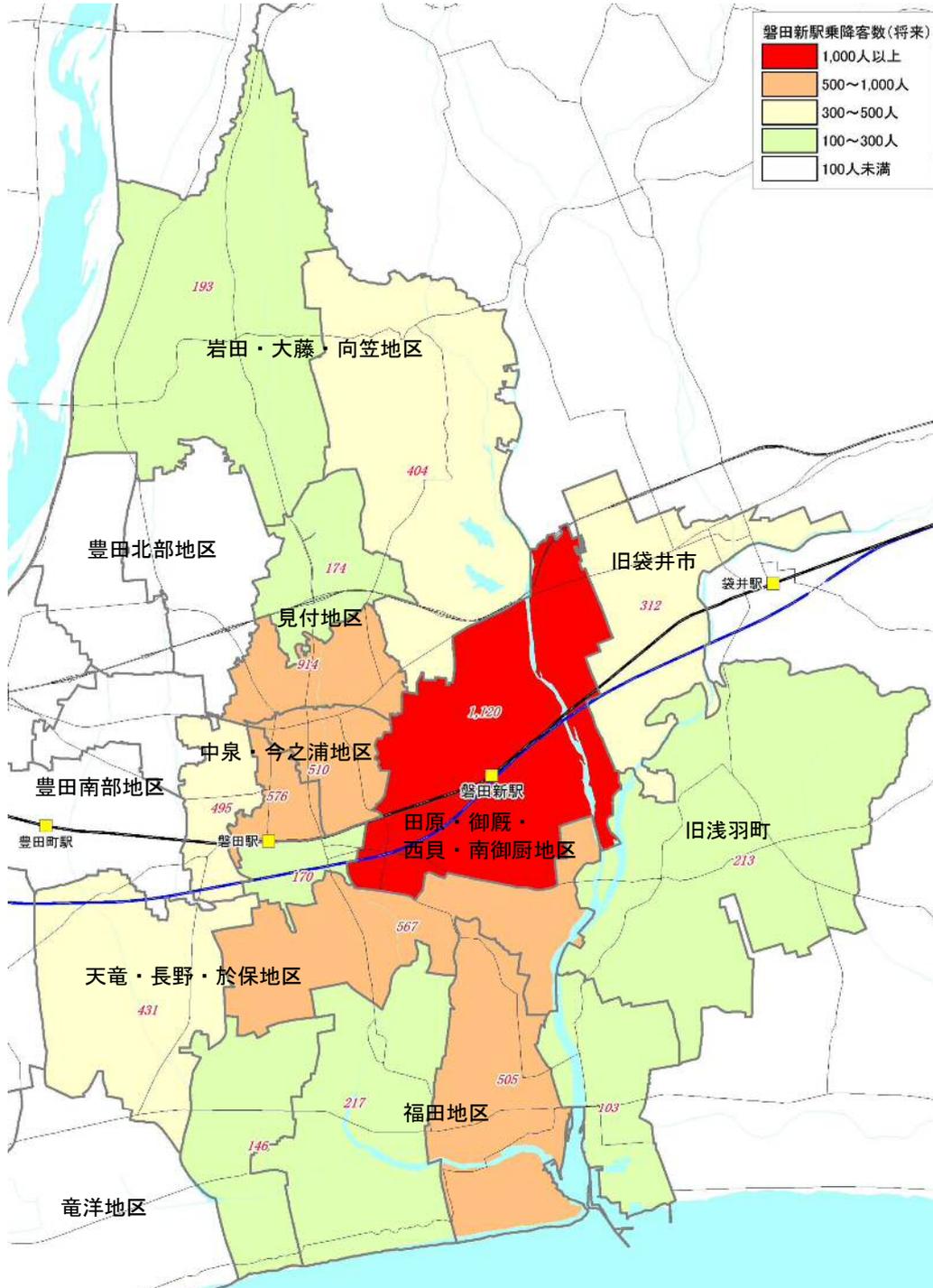
※将来(H42)①：出典：第4回西遠都市圏パーソントリップ調査（H19）

※将来(H42)②：出典：磐田市全国都市交通特性調査に伴うアドオン調査結果分析等業務（H29.3）

②(仮)磐田新駅の利用圏域

- (仮)磐田新駅の利用圏域は、(仮)磐田新駅を含む田原・御厩・西貝・南御厨地区を中心に、北は岩田・大藤・向笠地区、南は福田地区、西は磐田駅を含む中泉・今之浦地区など、広範囲に広がっており、袋井市内からの利用も予測されている。

(仮)磐田新駅の利用圏域



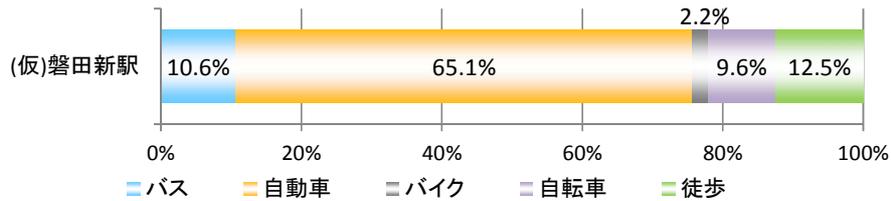
※出典：磐田市全国都市交通特性調査に伴うアドオン調査結果分析等業務（H29.3）

※図中の数値は(仮)磐田新駅乗降客数（利用者数）

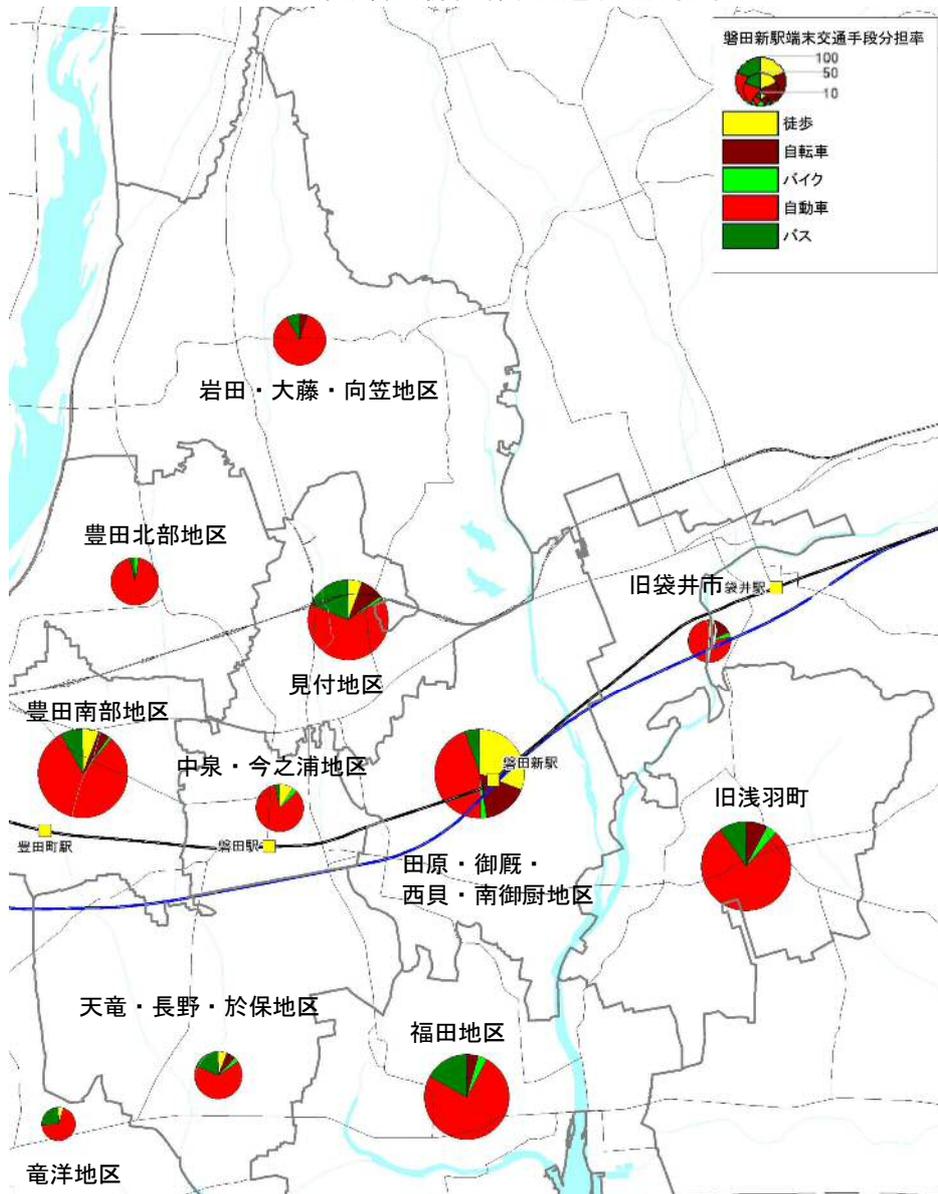
③ (仮) 磐田新駅端末交通手段分担率

- (仮) 磐田新駅の端末交通手段分担率は、自動車が 65.1%と最も多く、バスは 10.6%となっている。
- 地域別では、(仮) 磐田新駅の立地する田原・御厩・西貝・南御厨地区では徒歩の割合が高くなっており、(仮) 磐田新駅北側の見付地区や岩田・大藤・向笠地区、東側の旧浅羽町（袋井市）、南側の福田地区や天竜・長野・於保地区などからのバス利用が見られる。

(仮) 磐田新駅端末交通手段分担率



地域別 (仮) 磐田新駅端末交通手段分担率



※出典：磐田市全国都市交通特性調査に伴うアドオン調査結果分析等業務（H29.3）

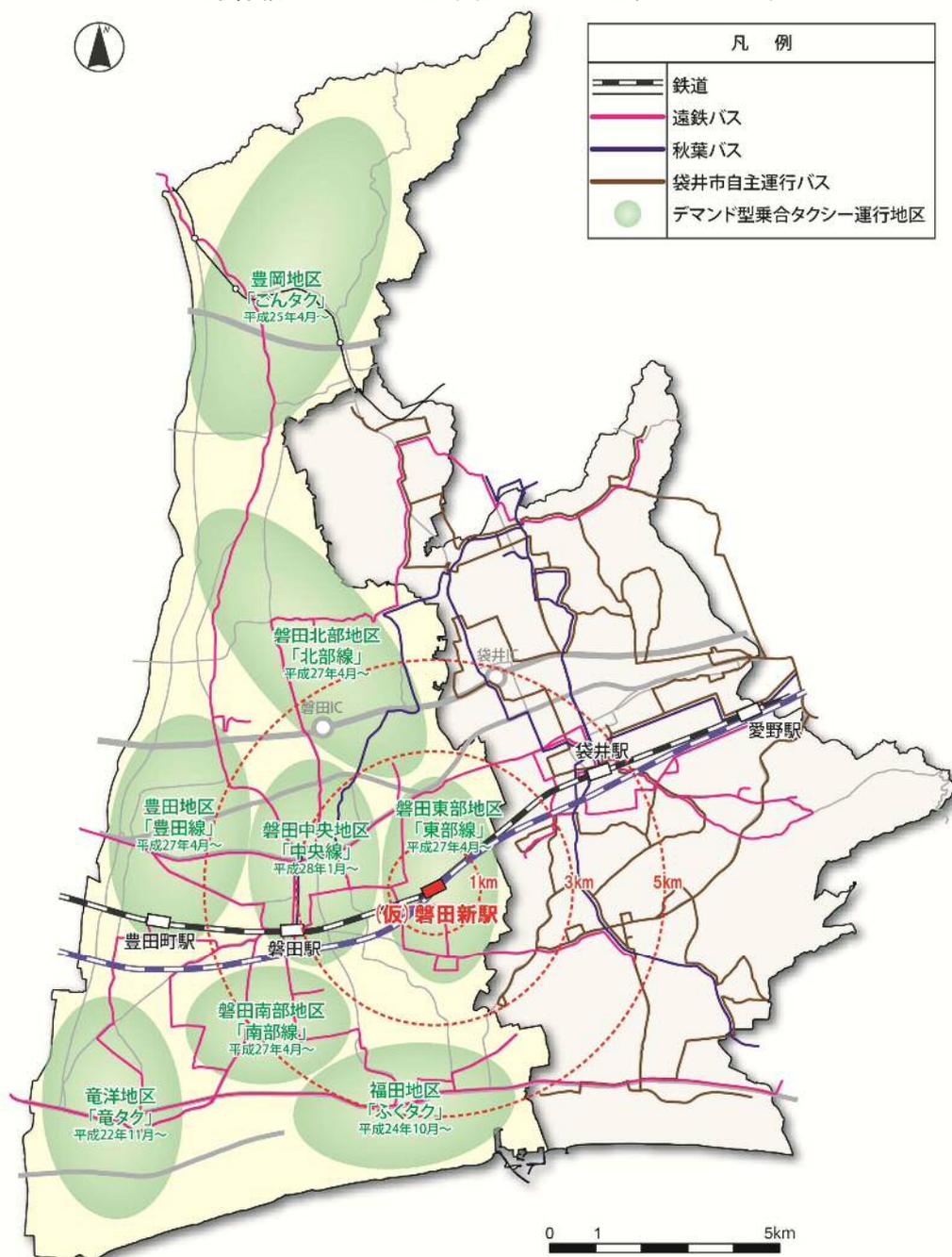
2-2-3 バス・デマンド型乗合タクシー

(1) バス路線網・デマンド型乗合タクシー運行エリア

- (仮)磐田新駅周辺概ね 3km 圏内では、遠州鉄道(株)や秋葉バスサービス(株)の民間路線バスのほか、磐田市が運行するデマンド型乗合タクシー※「東部線」や袋井市自主運行バスなどが運行している。
- 平成 28 年 1 月には磐田中央地区を運行エリアとするデマンド型乗合タクシー「中央線」が新たに運行開始されており、磐田市内全域がデマンド型乗合タクシーの運行エリアでカバーされている。

※磐田市が運行するデマンド型乗合タクシー：自宅とあらかじめ設定された施設の間を、予約のあった利用者を持ち合わせながら運行するものであり、市内全域を8地区に分けて地区ごとに運行している。利用者の居住地区にて利用可能で、地区により利用条件が異なる。

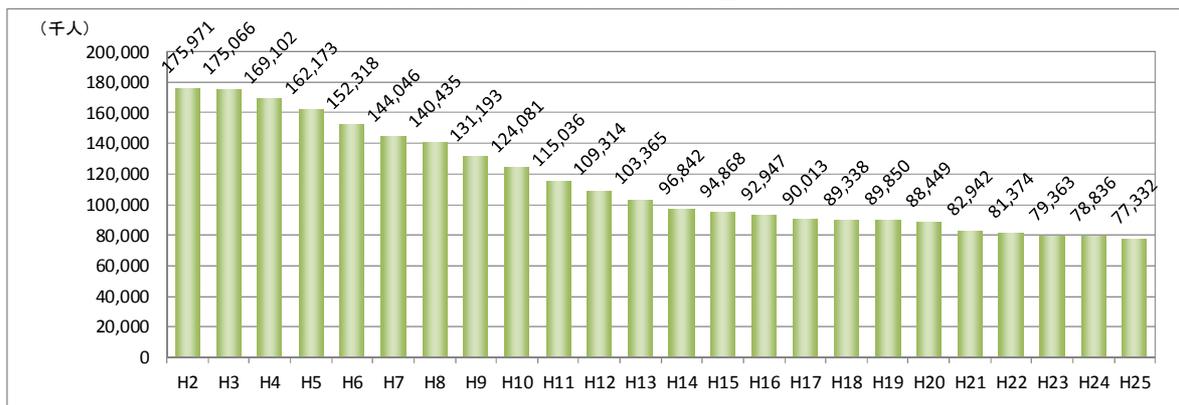
バス路線網・デマンド型乗合タクシー運行エリアの状況



(2) 路線バスの状況

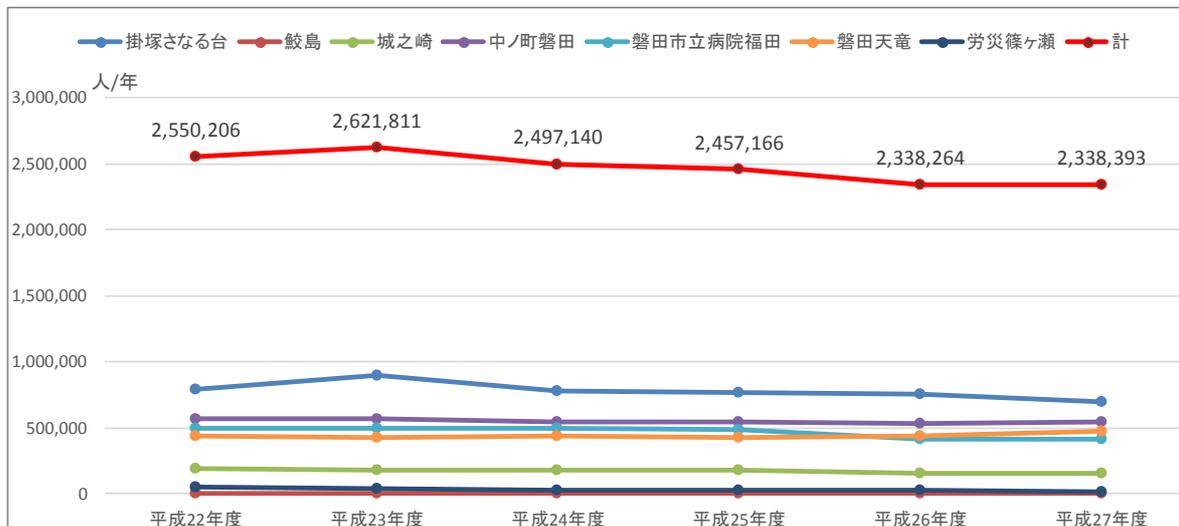
- 静岡県内の一般乗合バスの輸送人員は、減少傾向にあるものの、平成14年頃からは減少が緩まってきた。モータリゼーションの進展によって10年間では約20%の減少、昭和40年からだと70%近くの減少であるが、自動車に転換できない人等の真に必要な人の移動手段として一定の利用者は残る。
- 磐田市を運行、通過する路線バスの利用状況は、全体的に減少傾向となっている。
- 磐田市内のバス停の利用状況は、「磐田駅」が最も多く、「ららぽーと磐田」、「磐田駅南口」も1万人/月以上と利用が多くなっている。

静岡県内一般乗合バスの輸送人員



※出典：静岡県統計年鑑

磐田市内を運行・通過する路線別利用状況



※出典：遠州鉄道(株)提供

H28.6月バス停利用状況 (乗降者数上位10)

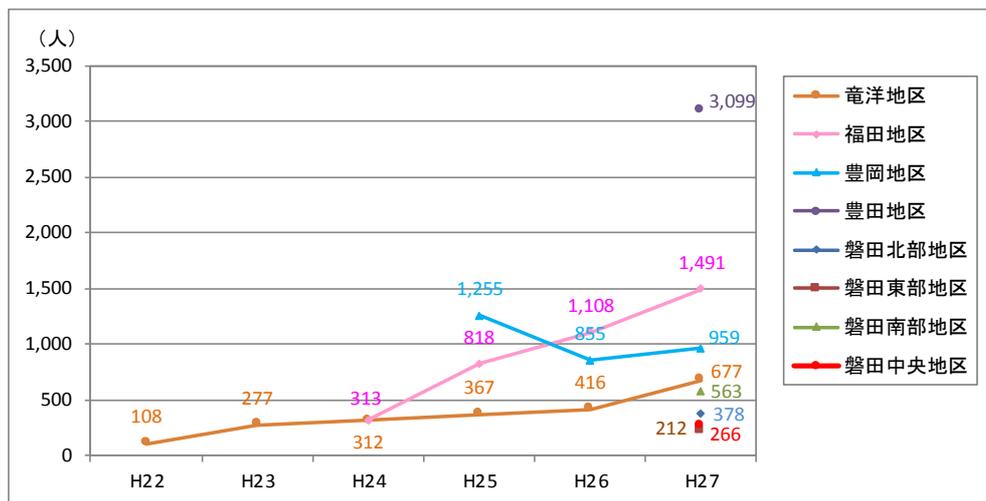
順位	バス停名	乗降者数 (人/月)	順位	バス停名	乗降者数 (人/月)
1	磐田駅	69,597	6	南高校	6,042
2	ららぽーと磐田	11,660	7	磐田営業所	4,890
3	磐田駅南口	10,991	8	磐田北小	4,474
4	掛塚	9,680	9	磐田市立病院	4,471
5	図書館前	6,990	10	中遠総合庁舎	3,504

※出典：遠州鉄道(株)提供

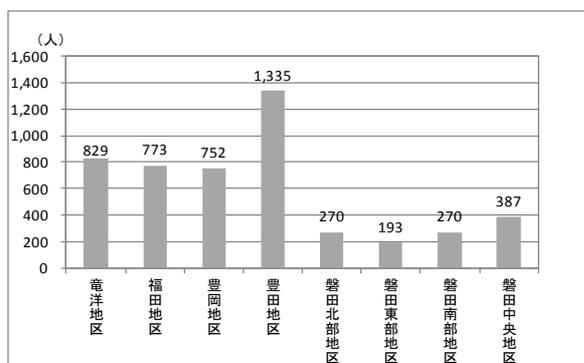
(3) デマンド型乗合タクシーの状況

- 利用者は、竜洋地区や福田地区で増加傾向となっているが、豊岡地区では減少傾向となっている。
- (仮)磐田新駅周辺を運行エリアとする磐田北部地区は利用者、登録数、平均乗車数ともに最も少なくなっている。
- 磐田北部地区の収支率は 22.0%となっている。
- 磐田北部地区の利用目的は「磐田市立病院」が最も多くなっており、「地区内医院」や「商業施設」も多くなっている。
- (仮)磐田新駅の南側に位置する福田地区の利用目的は「公共施設」が最も多くなっており、「地区内医院」や「磐田市立病院」も多くなっている。
- (仮)磐田新駅の北側に位置する磐田南部地区の利用目的は「磐田市立病院」が最も多くなっており、「バス停」(遠鉄「磐田営業所」バス停)や「地区内医院」も多くなっている。

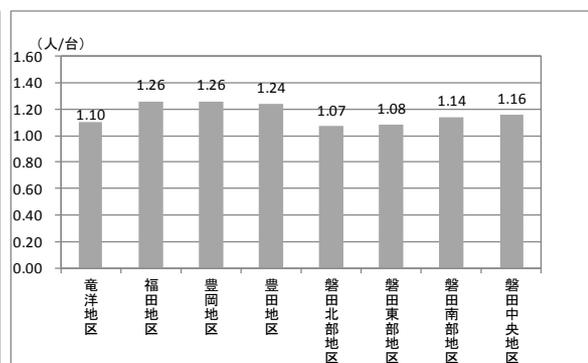
デマンド型乗合タクシーの利用状況



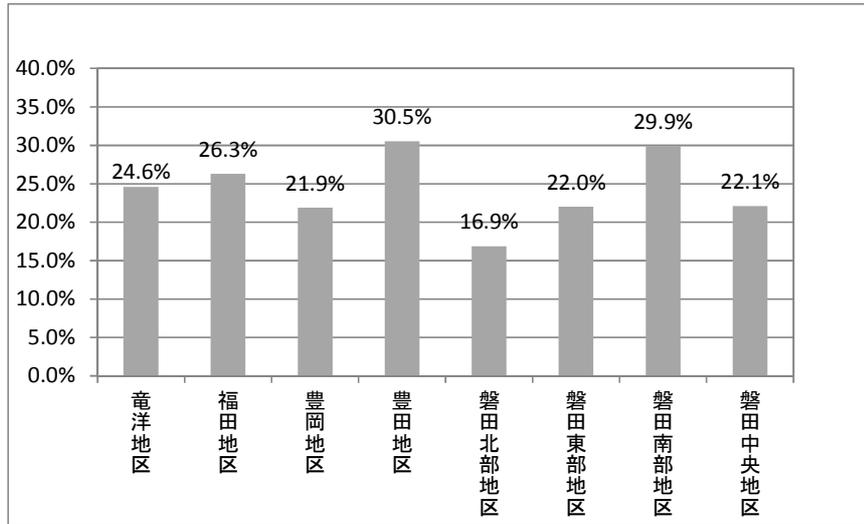
H28. 3 月末時点登録数



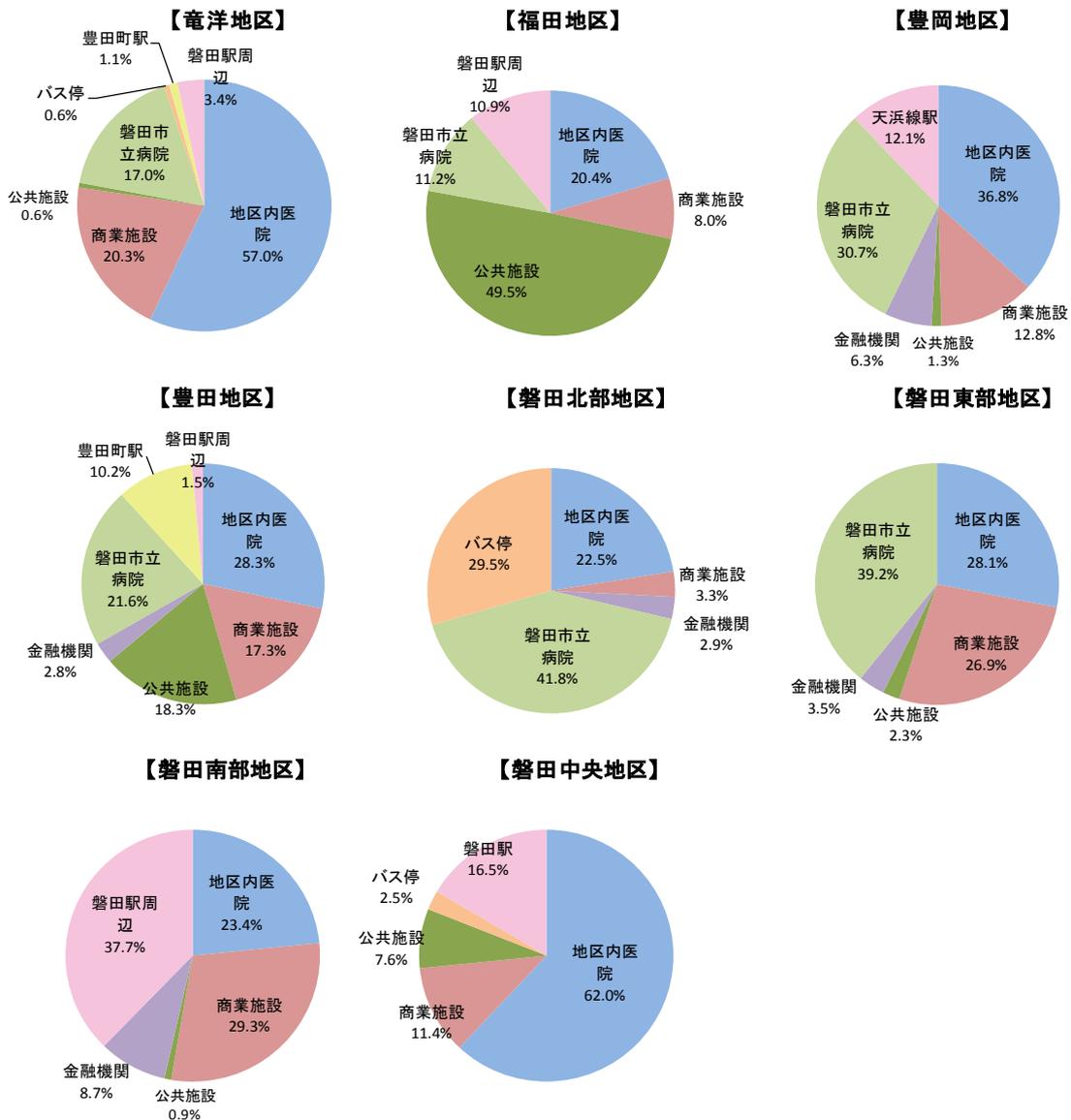
平成 27 年度平均乗車数



平成 27 年度収支率



利用目的



2-2-3 移動支援（福祉）

- 各交通事業者や磐田市では、要介護認定や要支援認定を受けた方、障害者手帳をお持ちの方や介護者等に対し、各公共交通利用料金の割引や料金助成を実施している。

鉄道料金割引

（JR）

区分	第1種		第2種	
	・障害者本人 ・介護者	・障害者本人 単独利用	・障害者本人	・介護者
普通乗車券	○	○ 100kmを超えるとき	○ 100kmを超えるとき	×
急行券	○	×	×	×
特急券	×	×	×	×
定期券	○ <small>12歳未満は介護者のみ</small>	×	×	○ <small>12歳未満の介護者のみ</small>
割引率	50%	50%	50%	50%

（天竜浜名湖鉄道）

区分	第1種及び 精神障害者保健福祉手帳1級		第2種及び 精神障害者保健福祉手帳2、3級	
	・障害者本人 ・介護者	・障害者本人 単独利用	・障害者本人	・介護者
普通乗車券	○	○	○	×
割引率	50%	50%	50%	50%

※身体障害者手帳または療育手帳所有者

その他公共交通利用料金割引

割引内容	対象者
バス運賃 （静岡県バス協会）	<ul style="list-style-type: none"> 障害者手帳所持者 ※身体障害者手帳所持者については、第1種の方のみ介護者にも適用 ※療育手帳所持者は介護者にも適用
タクシー利用料金 （静岡県タクシー協会等）	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害者手帳所持者 療育手帳所持者
タクシー利用料金助成制度	<ul style="list-style-type: none"> 身体障害者手帳：1級・2級・3級 療育手帳：A・B 精神障害者保健福祉手帳：1級・2級 特別児童扶養手当：1級 障害児福祉手当受給者 ※自動車税・軽自動車税の減免を受けている方、入院・施設入所をされている方は利用不可 要介護、要支援に該当する方または同程度の方

2-2-4 周知活動

- 磐田市では、利用促進を図るためにパンフレットの配布や高齢者サロン出前講座での説明会の開催など、地域や各種団体と協力した周知活動を実施しています。

周知活動の実施状況

周知活動	備考
パンフレットの配布	市内全戸配布
磐田市ホームページへの掲載	
広報いわたへの掲載	
制度周知への協力依頼	自治会連合会、民生委員・児童委員協議会、老人クラブ、地域包括センター、磐田市医師会、磐周歯科医師会、地区社協、地域福祉委員会
高齢者サロン出前講座など説明会の開催	55回（約1,400人）
市民税・県民税申告書封筒への掲出	発送数 約1,000
自治会回覧板への掲載	全市の回覧数6,000に対し約2,000
磐田市医療・介護ガイドブックへの掲載	市内全戸配布
指定施設へのパンフレットの配架	

お助け号磐田東部線パンフレット

平成27年4月1日 運行開始

磐田市デマンド(予約)型乗合タクシー「お助け号」

磐田東部線 (額: 額:)

お助け号(磐田東部線)は、

- ① 磐田東部地区の方なら誰でも利用できます。
- ② 事前の利用者登録(無料)、利用予約が必要です。
- ③ 定額料金が利用できます。
- ④ タクシー車両が自宅まで迎えにきます。
- ⑤ 通院、買い物などの際に利用できます。
- ⑥ 1日8往、相乗りで運行します。

利用者登録制
(別紙の専用登録票を提出)

ご利用のイメージ

① まずは利用者登録をお願ひします。(別紙の利用登録票に記入し、提出)

② 利用する前に利用日時・行き先などの予約をお願いします。

③ タクシー会社へ予約電話(予約電話番号) 32-7220

④ 利用者宅や指定施設をまわり乗り合いです。

⑤ 指定施設や利用者宅へ

お問い合わせ先 磐田市駅前 交通政策課 (〒458-8580 磐田市 西待03-11 TEL: 0536-374761 FAX 0536-322353)

「磐田東部線」のご利用について

●ご利用までの流れ

利用登録(無料) → 利用者登録の受け取り → 利用する際の予約

予約電話 32-7220

利用する際の予約: 利用する日の2週間前までに電話で予約(8:00の便は前日午後5時までの予約)

運行経路

自宅 ↔ 指定施設

運行日

月曜日 ~ 金曜日
※土曜・日曜・祝日及び年末年始(12/29-1/3)は運行せず。

運賃(片道)

磐田東部地区内 (月曜-金曜 8:00-19:00) 400円/人
 磐田駅立寄り乗降 1,000円/人
 通院「磐田営業所」バス停 200円/人

運行経路

8:00 (磐田駅西口)まで(予約)
 9:00
 10:00
 11:00
 14:00
 16:00

※特設、乗降の順番は必ず指定施設の指定順です。
(運行経路表、運賃も参照してください。)

指定施設(運行目的地・行き先)

磐田東部地区内

- ・病院(金沢、静岡病院)
- ・行政施設、金沢内科診療、高宮整形外科クリニック、西岡薬局調剤クリニック、眼科病院、福田眼科、新井整形外科、三上内科小児科医院、水戸皮膚科、磯田内科消化器科医院、大竹城之端眼科医院、かどう歯科クリニック、北島整形外科、鈴木歯科矯正センター、はやし歯科クリニック、ゆまぎが歯科医院、西沢Fリハビリ、鹿の森デンタルクリニック

・買い物

- ・マックスバリュ磐田西四郎店
- ・金魚市場
- ・磐田信用金庫(東割町、東割台)、遠州中央農協(東割、西割)、磐田東(福岡)
- ・公民館
- ・門前交流センター(日門前公民館)、朝陽交流センター(日門前公民館)、南朝陽交流センター(日門前公民館)、日門前交流センター(日門前公民館)

磐田市立総合病院
 通院「磐田営業所」バス停(路線バス乗換場所)

2-3 住民意向把握

2-3-1 全国都市交通特性調査に伴うアドオン調査

(1) 調査概要

対象	磐田市内 2,000 世帯無作為抽出 ※全国都市交通特性調査の調査票配布の際に同封 ※各世帯 15 歳以上の代表者 1 名が回答
期間	平成 27 年 10 月～11 月
回収数	624 名 (回収率 31.2%)

調査票 (1/2)

《仮》磐田駅前整備計画に係る交通機関利用意向調査
ご協力をお願いします！

平成 27 年 10 月
磐田市長 渡部 修

日蓮より磐田市政にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

現在、磐田中では、平成 31 年夏末の開発を目標し、JR 東海本線の磐井・磐田間への新駅（《仮》磐田新駅）設置に向けた様々な取り組みを進めています。

《仮》磐田新駅の設置により、周辺地域のまちの状況だけでなく、これまで磐田駅や袋井駅などを利用していた方々の《仮》磐田新駅への利用転換も予想されます。そこで、《仮》磐田新駅の需要を把握し、周辺の駅舎等の施設整備やまちづくりの基礎資料とするために、国土交通省が実施する「全国都市交通特性調査」に併せて、アンケート調査を行います。

皆様には、お忙しいところを誠に恐縮ですが、調査の目的をご理解いただき、ご協力いただけますようお願いいたします。

なお、回答していただいた事項については、すべて統計的に処理しますので、個人が特定されるような内容は一切公開いたしません。また、ご回答いただいた調査票は、この目的以外には使用いたしません。

■ ご回答上の注意

- ・15 歳以上の者であれば、ご家族のうちどなたかご回答いただいても結構です。
- ・回答は、該当する番号に○印をつけてください。質問によっては 1 つだけ選ぶものや複数を選ぶものがありますので、後題に従ってください。
- ・() には、数字や文字をご記入ください。
- ・平成 27 年 11 月 6 日（金）までに最新の回答用紙（必ず不要）に入れてご返送ください。

※この調査はインターネットによる回答を実施しておりませんのでご注意ください。

—この調査票についてのお問い合わせ先—

磐田市建設局都市整備課事業支援グループ（担当：平野）
TEL：(0538) 37-4830 FAX：(0538) 37-8680

問題 1 ご自身についてお尋ねします。下記について、それぞれ当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

問題 1-1 性別	1. 男性	2. 女性											
問題 1-2 年齢	1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	5. 50代								
問題 1-3 お住まい	6. 60～64歳	7. 65～74歳	8. 75歳以上	1. 磐田地区	2. 岩田・大森・向谷地区	3. 豊田（国 1 号北東部）地区	4. 豊田（国 1 号南西部）地区	5. 豊村地区	6. 中央・今之瀬地区	7. 田原・磐岡・西岡・南郷地区	8. 天竜・長好・於保地区	9. 池洋地区	10. 福田地区

問題 2 現在の JR 東海本線の利用状況についてお答えください。

問題 2-1 主に、JR 東海本線のどの駅を現在利用していますか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 磐田駅	2. 袋井駅	3. 袋井駅	4. その他 () 駅
5. 利用していません			

問題 2-2 その駅に主にご自分の交通手段でアクセスしていますか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

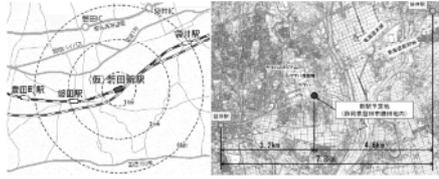
1. 徒歩	2. 自転車	3. 原動機付自転車	4. バイク	
5. 自分で車を運転する	6. 家族など他の人に車で送ってもらう	7. バス等の公共交通	8. タクシー	9. その他 ()

問題 3 その駅の主な目的はどのですか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 磐田市内（施設名や町名：)	
2. 袋井市	3. その他市外（市町名：)

問題 3 JR 東海本線の袋井駅と磐田駅の間にある《仮》磐田新駅の設置により利用する駅は変わりますが、当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 《仮》磐田新駅に変わります
2. 門 2 の駅に加え《仮》磐田新駅を利用する
3. 門 2 と変わらない（《仮》磐田新駅を利用しない）



《仮》磐田新駅を利用しないから「利用することを想定して」お尋ねしております。

問題 4 《仮》磐田新駅の整備されることにより、あなたにとってどのような施設や場所に行きやすくなるかお尋ねします。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 磐田市中心部	2. 袋井市	3. 市役所	4. 1 プラザ（総合運動センター）
5. ヤマハスタジアム	6. ヤマハ焼酎蔵	7. NTN	8. その他 ()

問題 5 《仮》磐田新駅を利用する場合は、主にどの交通手段でアクセスしたいかお尋ねします。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 徒歩	2. 自転車	3. 原動機付自転車	4. バイク	
5. 自分で車を運転する	6. 家族など他の人に車で送ってもらう	7. バス等の公共交通	8. タクシー	9. その他 ()

問題 6 《仮》磐田新駅を利用する場合は、どのような目的の駅に利用したいかお尋ねします。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 買い物	2. 通勤・仕事	3. 通学・習い事	4. 通院
5. 公共施設への利用	6. 外出やスポーツなどの余暇	7. 家族や友人宅への送迎	8. その他 ()

問題 7 《仮》磐田新駅へのアクセス手段としての「バス等の公共交通」についてお答えください。

問題 7-1 《仮》磐田新駅にアクセスするバス等の公共交通ができた場合、あなたは利用しようと思えますか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 利用してみたい	2. 運行条件によっては利用してみたい
3. 運行されてみないとわからない	4. ほとんど利用しない

問題 7-2 《仮》磐田新駅にアクセスするバス等の公共交通を利用する場合は、どのような条件であれば利用しますか。

問題 7-2-1 「行きや帰る時とバス停までの徒歩での所要時間」は何分までであれば利用しようと思えますか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 3分まで	2. 5分まで	3. 10分まで	4. 15分まで
5. 20分まで	6. 30分まで	7. ()分まで	

問題 7-2-2 「運行時間」は何分までであれば利用しようと思えますか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 10分間隔	2. 15分間隔	3. 20分間隔	4. 30分間隔
5. 60分間隔	6. ()分間隔		

問題 7-2-3 「片道の乗車料額」は何分までであれば利用しようと思えますか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 10分まで	2. 20分まで	3. 30分まで	4. 40分まで
5. 60分まで	6. ()分まで		

問題 7-2-4 「1日の利用料金」は何円までであれば利用しようと思えますか。当てはまる番号 1 つだけをお選びください。

1. 100円まで	2. 200円まで	3. 300円まで	4. 500円まで
5. 1,000円まで	6. ()円まで		

調査票 (2/2)

問7-2-5 「利用したい時間」は列挙ですが、当てはまる項目までにお答えください。

1. (仮)新藤田駅を () 時 () 分ごろ出発したい
2. (仮)新藤田駅に () 時 () 分ごろ到着したい
3. (施設名: _____) を () 時 () 分ごろ出発したい
4. (施設名: _____) に () 時 () 分ごろ到着したい

問7-2-6 「運行日」について何曜日に運行してほしいか利用しようと思いませんか。当てはまる番号まで○をつけてください。

1. 平日 (土・日・祝日以外) 毎日	2. 月曜日	3. 火曜日	4. 水曜日
5. 木曜日	6. 金曜日	7. 土曜日	8. 日曜日
9. 祝日			

問7-2-7 バス等の公共交通を利用する条件のうち、重要と思われる条件はどれですか。特に重要である番号3つまで○をつけてください。

1. 自宅や目的地とバス停まで距離	2. 運行頻度	3. 片道の乗車時間
4. 利用料金	5. 運行時刻	6. 運行日
7. 到着時刻の正確さ	8. 分かりやすい情報案内	9. 駅までの乗り換えのしやすさ
10. バス積荷の乗り降ぎのしやすさ	11. その他 (_____)	

問8 (仮)新藤田駅へのアクセス手段としての「自動車」「バイク」についてお答えください。

問8-1 (仮)新藤田駅及びその周辺に駐車場があった場合、あなたは利用しようと思いませんか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 利用してみたい	2. 料金によっては利用してみたい
3. わからぬ	4. ほとんど利用しない

問8-2 (仮)新藤田駅にアクセスする際に自動車を運転する場合、どのような条件であれば自動車を利用しますか。

問8-2-1 「駅と駐車場までの徒歩での所要時間」は何分までであれば利用しようと思いませんか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 3分まで	2. 5分まで	3. 10分まで	4. 15分まで
5. 20分まで	6. () 分まで	7. 駅前広場内	

4

問8-2-2 どのような駐車場の形態や利用料金であれば利用しようと思いませんか。形態、料金についてそれぞれ当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

問8-2-2-1 形態	問8-2-2-2 利用料金
1. 無料駐車場 (短期利用あり)	1. 30分まで無料 2. 1時間まで無料 3. 2時間まで無料 4. () 時間まで無料
2. 時間別駐車場	1. 1時間100円まで 2. 1時間200円まで 3. 1時間300円まで 4. 1時間 () 円まで
3. 時間別駐車場 (1日限利用あり)	1. 1日最大500円まで 2. 1日最大1,000円まで 3. 1日最大1,500円まで 4. 1日最大 () 円まで
4. 月額別駐車場	1. 月3,000円まで 2. 月5,000円まで 3. 月10,000円まで 4. 月 () 円まで
5. 業務場所有が好ましい	-

問9 (仮)新藤田駅へのアクセス手段としての「自転車」「電動自転車」についてお答えください。

問9-1 (仮)新藤田駅及びその周辺に自転車置き場があった場合、あなたは利用しようと思いませんか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 利用してみたい	2. 料金によっては利用してみたい
3. わからぬ	4. ほとんど利用しない

問9-2 (仮)新藤田駅にアクセスする際に自転車や電動自転車を利用する場合、どのような条件であれば自転車や電動自転車を利用しますか。

問9-2-1 「駅と自転車置き場までの徒歩での所要時間」は何分までであれば利用しようと思いませんか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 3分まで	2. 5分まで	3. 10分まで	4. 15分まで
5. 20分まで	6. () 分まで	7. 駅前広場内	

5

問9-2-2 どのような駐車場の形態や利用料金であれば利用しようと思いませんか。形態、利用料金についてそれぞれ当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

問9-2-2-1 形態	問9-2-2-2 利用料金
1. 無料駐輪場	-
2. 日貸駐輪場	1. 1日50円まで 2. 1日100円まで 3. 1日200円まで 4. 1日 () 円まで
3. 月額駐輪場	1. 月1,000円まで 2. 月2,000円まで 3. 月3,000円まで 4. 月 () 円まで

問10 問7、問8、問9で回答いただいた水準でバス等の公共交通が運行され、駅構内や駐輪場等が整備される場合を想定してお答えください。

問10-1 (仮)新藤田駅の整備により、主に利用する駅は変わりますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. (仮)新藤田駅に変わる	2. 問2の駅に加えて(仮)新藤田駅を利用する
3. 問2と変わらない ((仮)新藤田駅を利用しない)	

問10-2 (仮)新藤田駅を利用する場合、主にごの交通手段でアクセスしますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 問5と変わらない	2. 徒歩	3. 自転車	4. 原動機付自転車
5. バイク	6. 自分で車を運転する	7. 乗換など他の人に車で送迎してもらう	
8. バス等の公共交通	9. タクシー	10. その他 (_____)	

問10-3 どの種類の娯楽で利用しますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 休日7時～毎週毎日	2. 平日の毎週毎日	3. 週2～3回程度
4. 週1回程度	5. 月2～3回程度	6. 年1回程度
7. 雨など悪天候の日	8. ほとんど利用しない	9. その他 (_____)

6

問11 (仮)新藤田駅の施設整備についてお答えください。

問11-1 (仮)新藤田駅で自由乗降の整備が計画されています。整備が望まれる設備はどれですか。特に整備が望まれる番号3つまで○をつけてください。

1. エレベーター	2. エスカレーター	3. ムーブング・ウォーク (動く歩道)
4. スロープ	5. 明るい照明 (昼間)	6. その他 (_____)

問11-2 トイレ設備について、整備が望まれる設備はどれですか。特に整備が望まれる番号3つまで○をつけてください。

1. 洋式トイレ	2. 和式トイレ	3. 車いす対応設備
4. オストメイト対応設備	5. おむつ交換台	6. 簡易ベッド
7. 子ども用トイレ	8. その他 (_____)	

問11-3 駅前広場について、整備が望まれる施設(設備)はどれですか。特に整備が望まれる番号3つまで○をつけてください。

1. バス乗降場	2. タクシー乗降場	3. 一般乗降場
4. 駐車場	5. 駐輪場	6. オブジェ
7. 水廊	8. 東屋	9. ベンチ
10. オープン (イベント) スペース	11. トイレ	12. 情報案内板
13. 通風シャッター (運行場上の屋根)	14. その他 (_____)	

この調査票の回答は以上となります。

平成27年11月6日(金)までに
問11の返信用封筒(封切不要)に入れてご返送ください。
※この調査票はインターネットによる回答を求めていますのでご注意ください。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

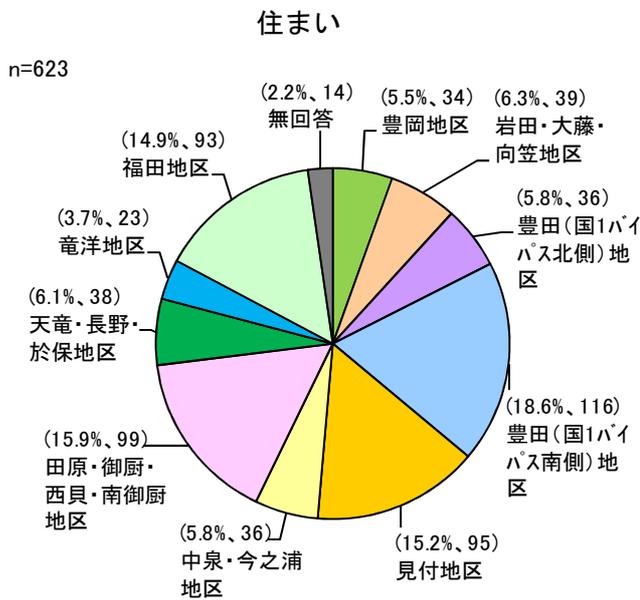
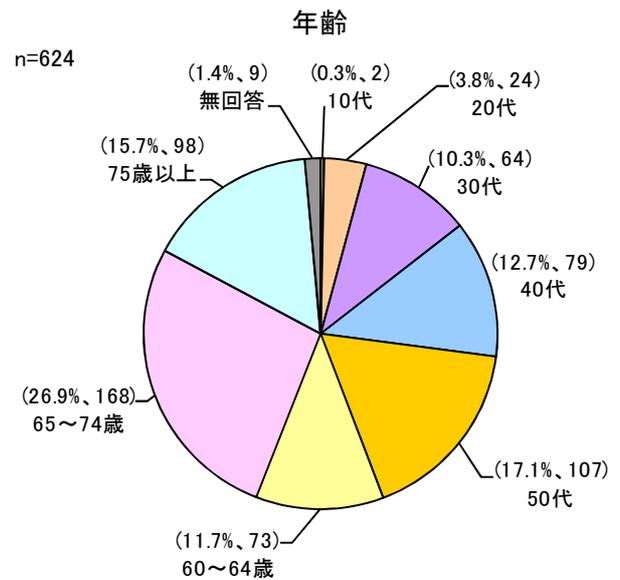
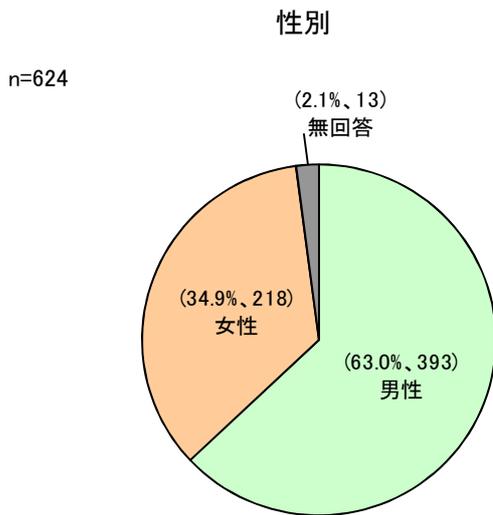
7

(2) 調査結果

※当てはまる番号1つだけに○を付ける設問における複数回答は除外している

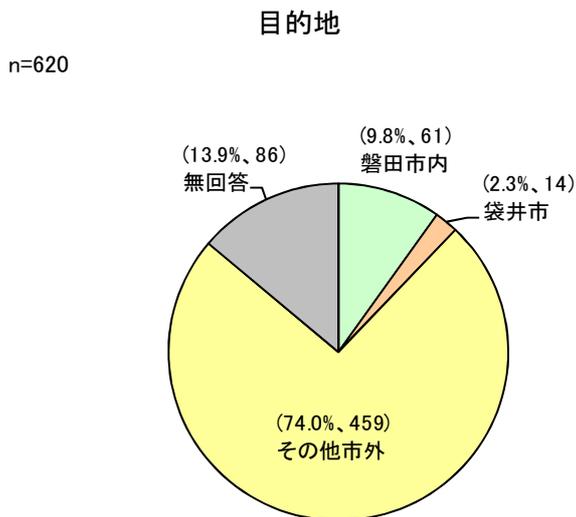
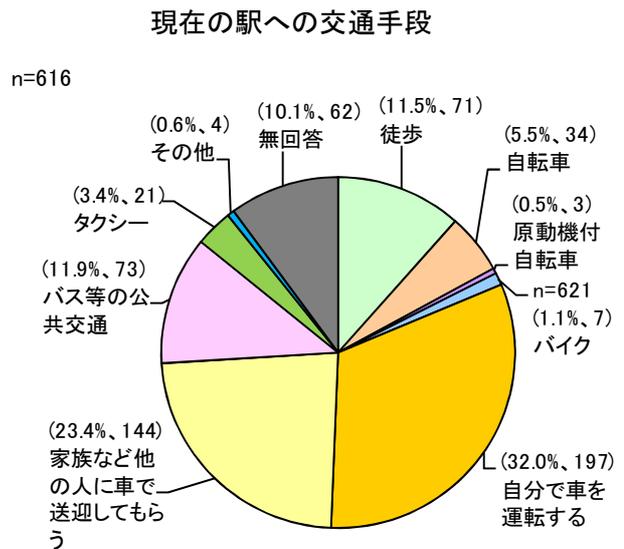
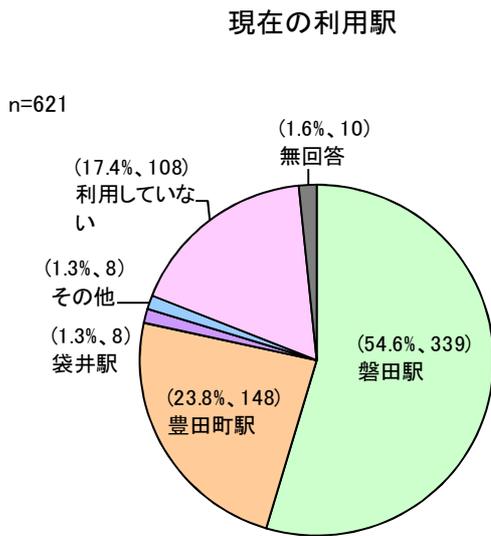
◆問1：属性

- 性別は「男性」が多く、年代は「65～74歳」が多いが全年代から回答を得ている。
- 住まいは「豊田（国1バイパス南側）地区」の方が多く、調査対象となった全地区から回答を得ている。



◆問2：現在の JR 東海道本線の駅の利用状況

- 現在の利用駅は「磐田駅」が 54.6%と最も多く、市外となる「袋井駅」を利用している方もいる。
- 駅への交通手段は「自分で車を運転する」が 32.0%と最も多く、「家族など他の人に送迎してもらう」も含めると 55.4%の方が車を利用している。また、「バス等の公共交通」は 11.9%となっている。
- 目的地は「その他市外」が 74.0%と最も多く、「浜松市」を目的地とする方が多い。また、「磐田市内」では「病院」を目的地とする方が多い。



【磐田市内の施設名や町名】上位5

病院(磐田市民総合病院、新都市病院、山下クリニック 等)	7人
飲食店	5人
スーパーマーケット(えんてつストア、マックスバリュート 豊田店 等)	5人
勤務先(豊田町、鳥之瀬 等)	4人
ホームセンター(カインズホーム豊田店 等)	3人
ららぽーと	3人

【その他市外】上位5

浜松市	331人
静岡市	42人
掛川市	11人
東京都	24人
愛知県名古屋	8人

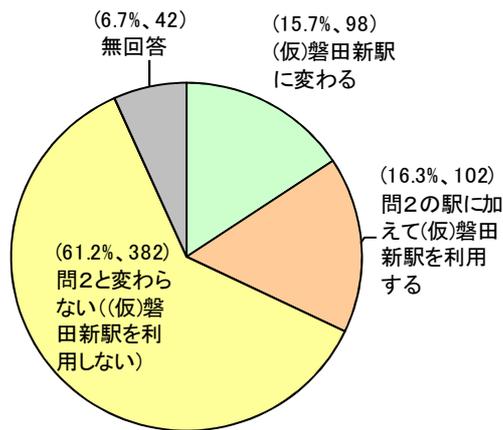
※(仮)磐田新駅を利用しない方も「利用することを想定して」以降の設問に回答

◆問3：(仮)磐田新駅が整備された場合の利用駅

- (仮)磐田新駅が整備された場合、「(仮)磐田新駅を利用しない」が61.2%と最も多く、「(仮)磐田新駅に変わる」と「問2の駅に加えて(仮)磐田新駅を利用する」を合わせた(仮)磐田新駅を利用する方は32.0%となっている。

(仮)磐田新駅が整備された場合の利用駅

n=624

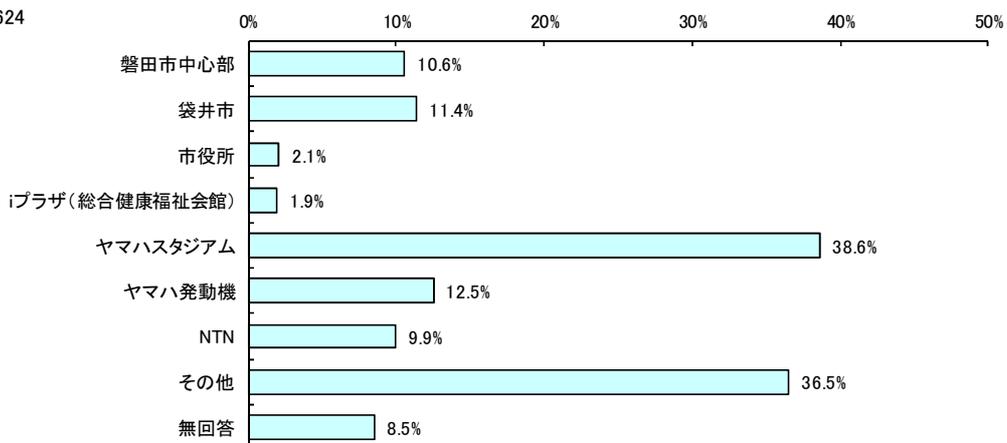


◆問4：(仮)磐田新駅の整備により行きやすくなる施設や場所

- (仮)磐田新駅の整備により行きやすくなる施設や場所は「ヤマハスタジアム」が38.6%と最も多く、「その他」も多い。
- 「その他」では浜松市や静岡市などの市外が多い。

(仮)磐田新駅の整備により行きやすくなる施設や場所

n=624

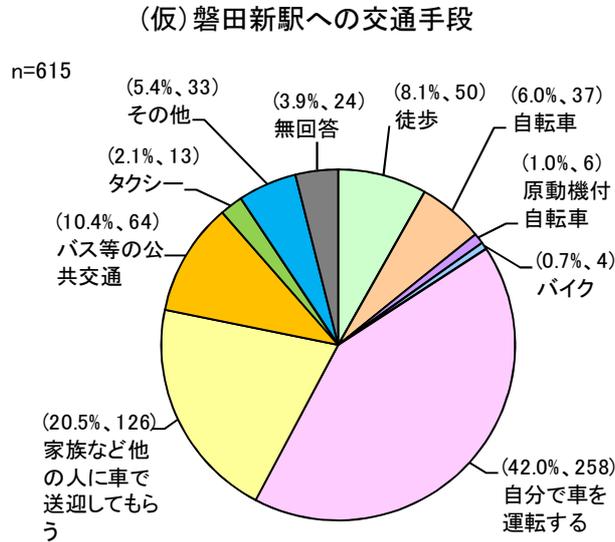


【その他の記述内容】上位5

浜松市	57人
静岡市	16人
市外・県外	14人
東方面	10人
掛川市	8人

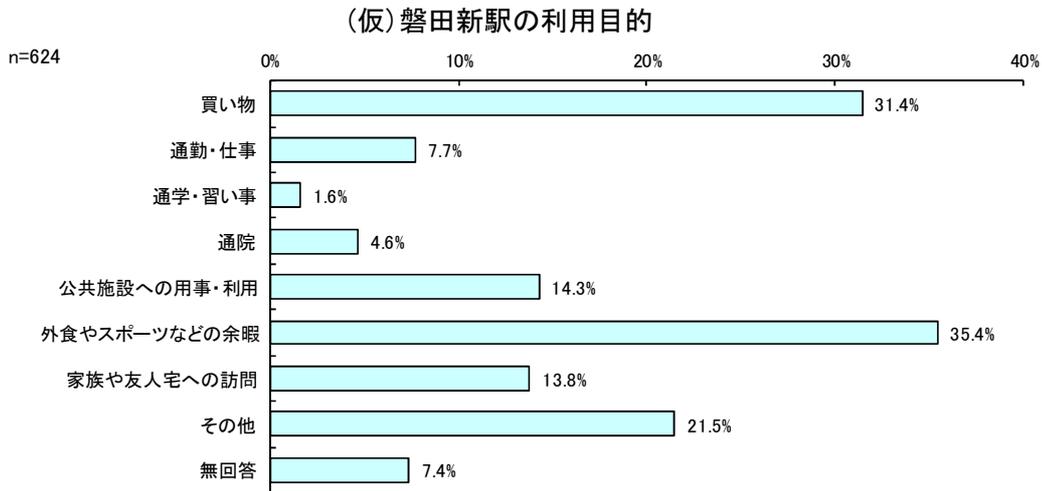
◆問5：(仮)磐田新駅への交通手段

- (仮)磐田新駅への交通手段は「自分で車を運転する」が42.0%と最も多く、「家族など他の人に送迎してもらおう」も含めると62.5%の方が車の利用を想定している。また、「バス等の公共交通」は10.4%となっている。



◆問6：(仮)磐田新駅の利用目的

- (仮)磐田新駅への利用目的は「外食やスポーツなどの余暇」が35.4%と最も多く、「買い物」も31.4%と多い。

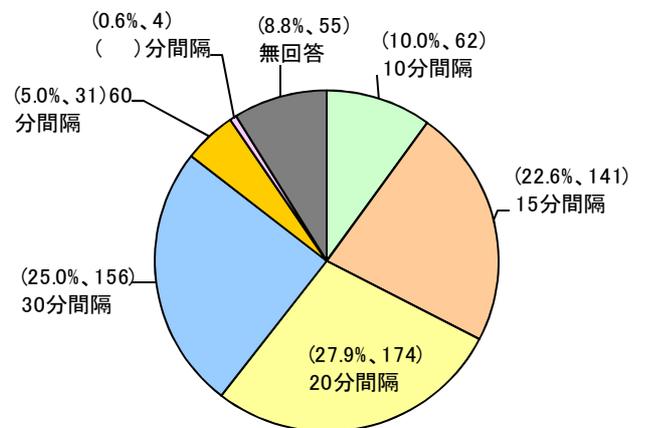
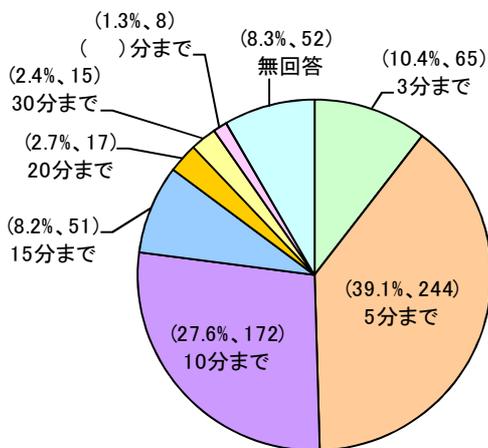
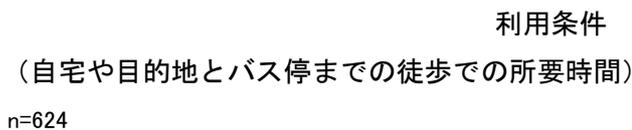
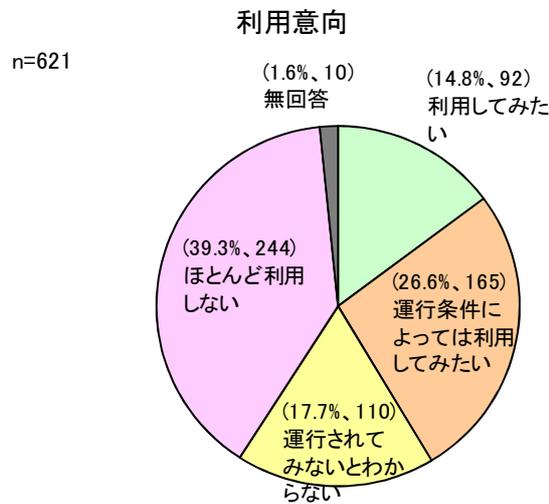


【その他の記述内容】上位5

特になし	30人
旅行・出張	26人
利用しない	21人
東方面(静岡・東京等)へ行く時	5人
市外・県外へ行く時	4人

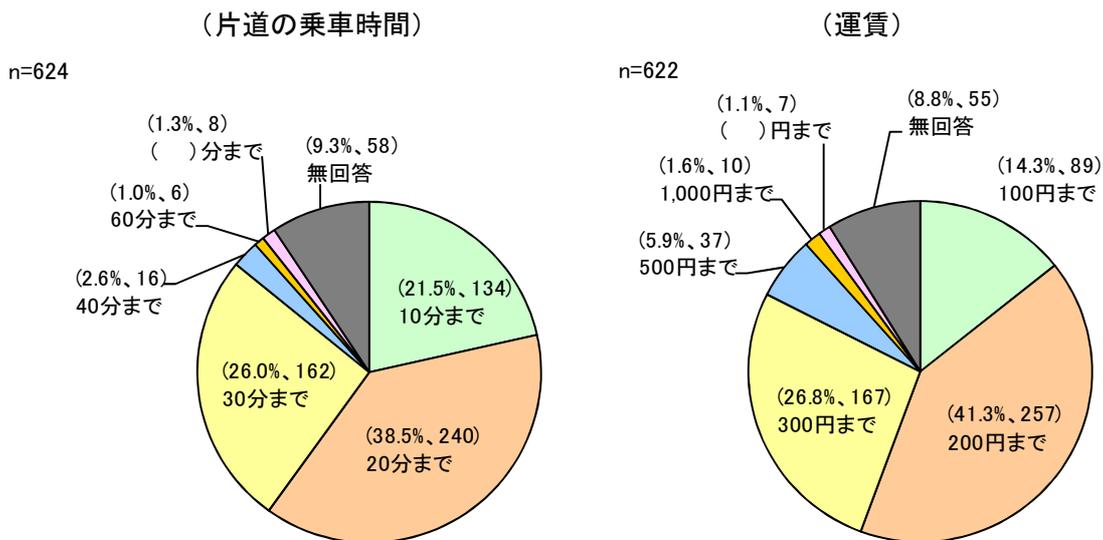
◆問7：(仮)磐田新駅へのアクセス手段としての「バス等の公共交通」について

- (仮)磐田新駅へのアクセス手段としてのバス等の公共交通は「ほとんど利用しない」が39.3%と最も多い。
- 「利用してみたい」と「運行条件によっては利用してみたい」を合わせた利用意向がある方は41.4%とる。
- 自宅や目的地とバス停までの徒歩での所要時間は「5分まで」が39.1%と最も多く、所要時間が5分圏内にバス停を設置すると80.0%、10分圏内にバス停を設置すると40.9%となる。
- 運行間隔は「20分間隔」が27.9%と最も多く、20分間隔の運行であれば57.9%、30分間隔の運行であれば30.0%となる。

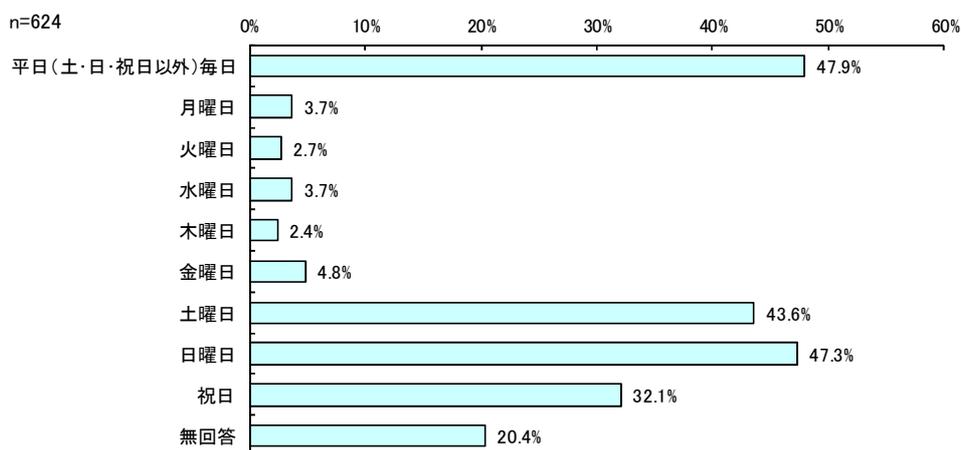


- 片道の乗車時間は「20分まで」が38.5%と最も多く、乗車してから20分で降車バス停に着くのであれば68.1%、30分で降車バス停に着くのであれば29.6%となる。
- 運賃は「200円まで」が41.3%と最も多く、200円であれば75.6%、300円であれば34.3%となる。
- 運行日は「平日」が47.9%と最も多いが、「土曜日」「日曜日」も多い。

利用条件

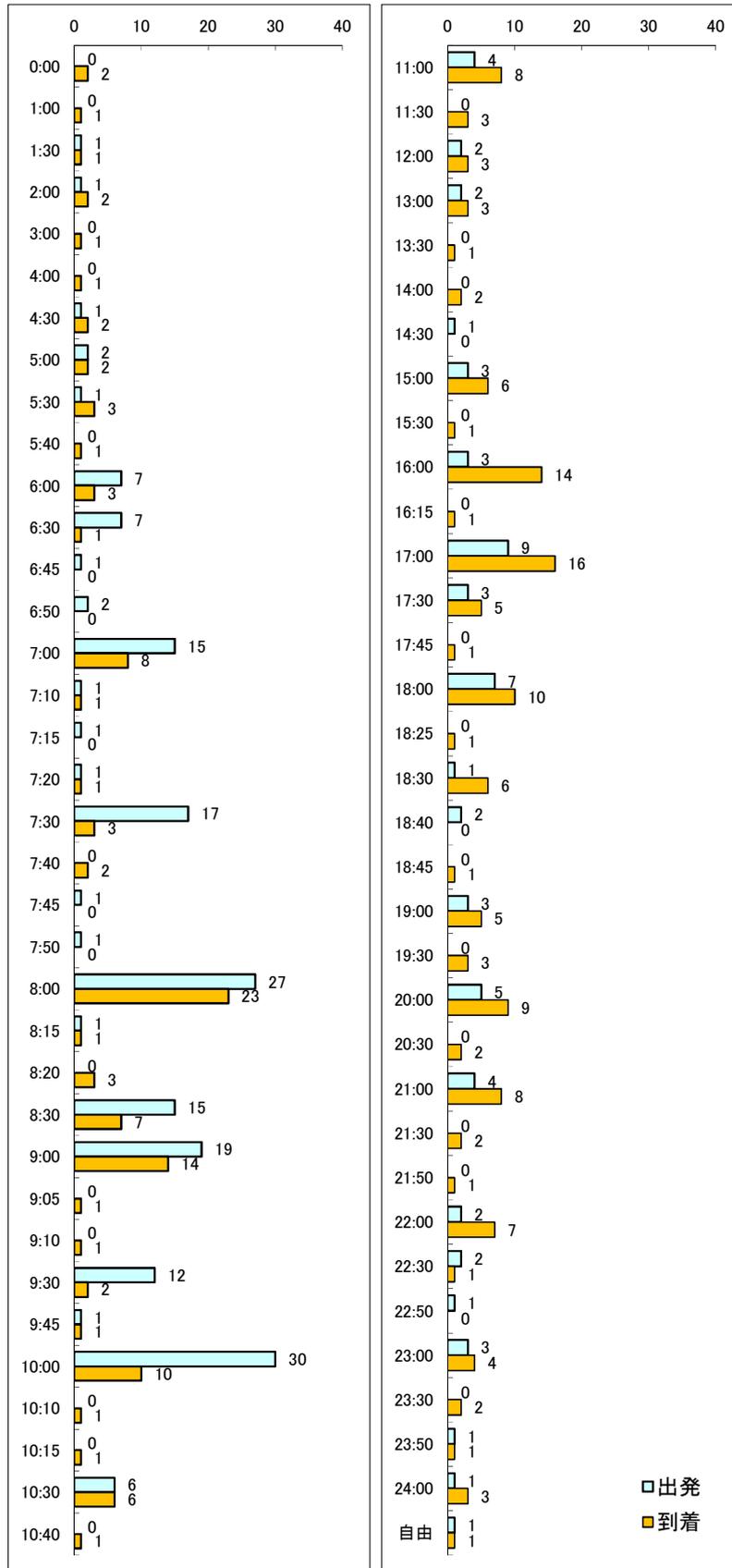


(運行日)

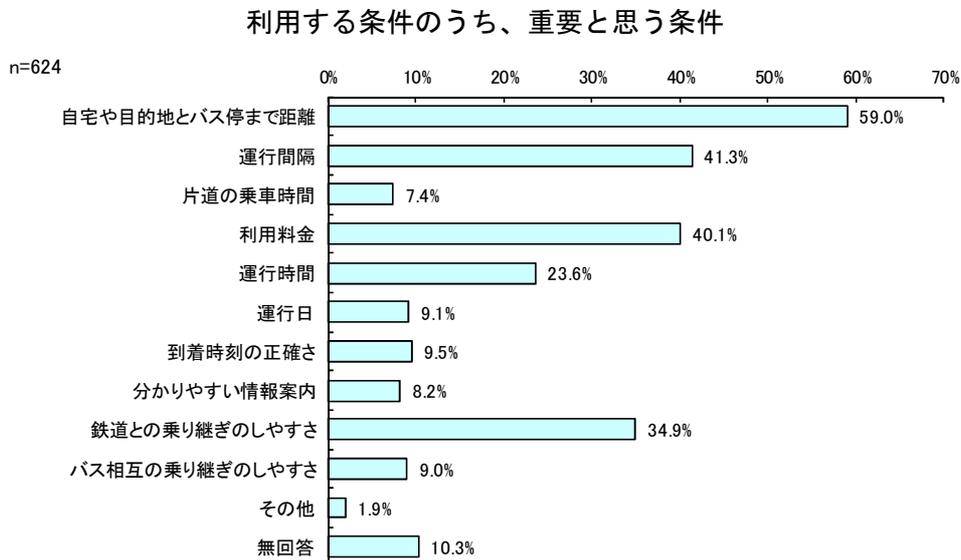


- (仮)磐田新駅の出発時間は「10：00」が30人と最も多く、「8：00」も多い。
- (仮)磐田新駅の到着時間は「8：00」が23人と最も多く、「9：00」「16：00」「17：00」も多い。

((仮)磐田新駅の出発・到着時間)



- 重要と思う条件は「自宅や目的地とバス停までの距離」が59.0%と最も多く、「運行間隔」や「利用料金」、「鉄道との乗り継ぎのしやすさ」も多い。

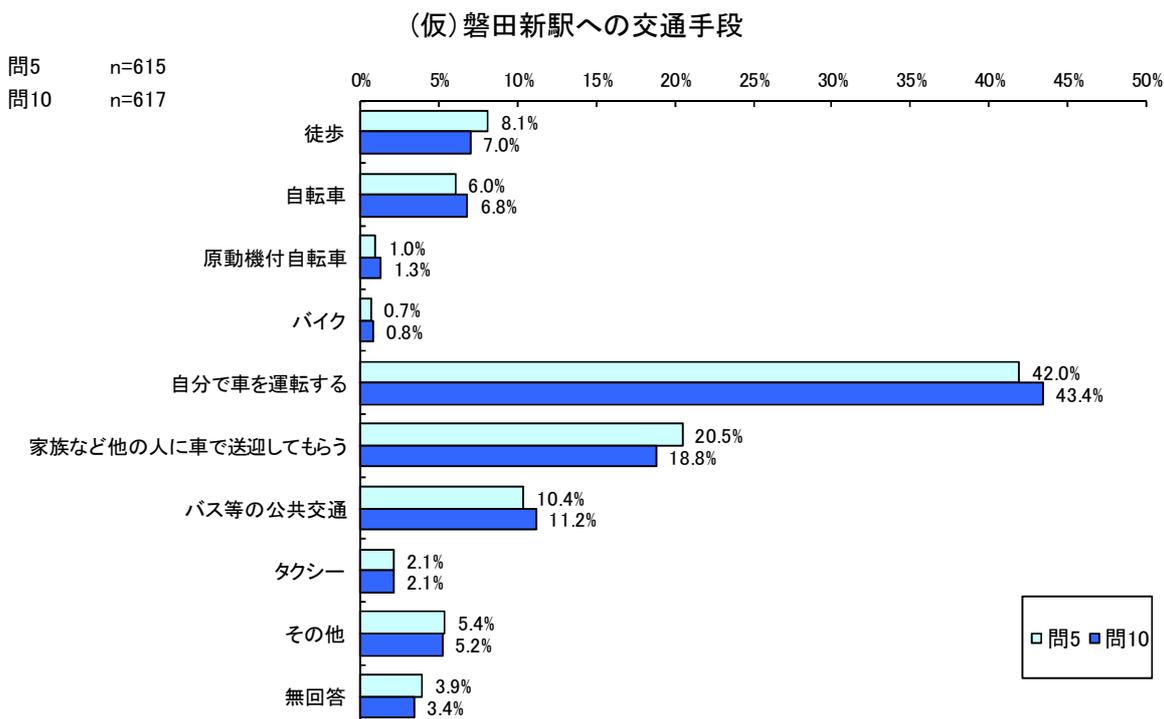


※問8「自動車」「バイク」について、問9「自転車」「原動機付自転車」の結果は省略

◆問10：(仮)磐田新駅の交通手段

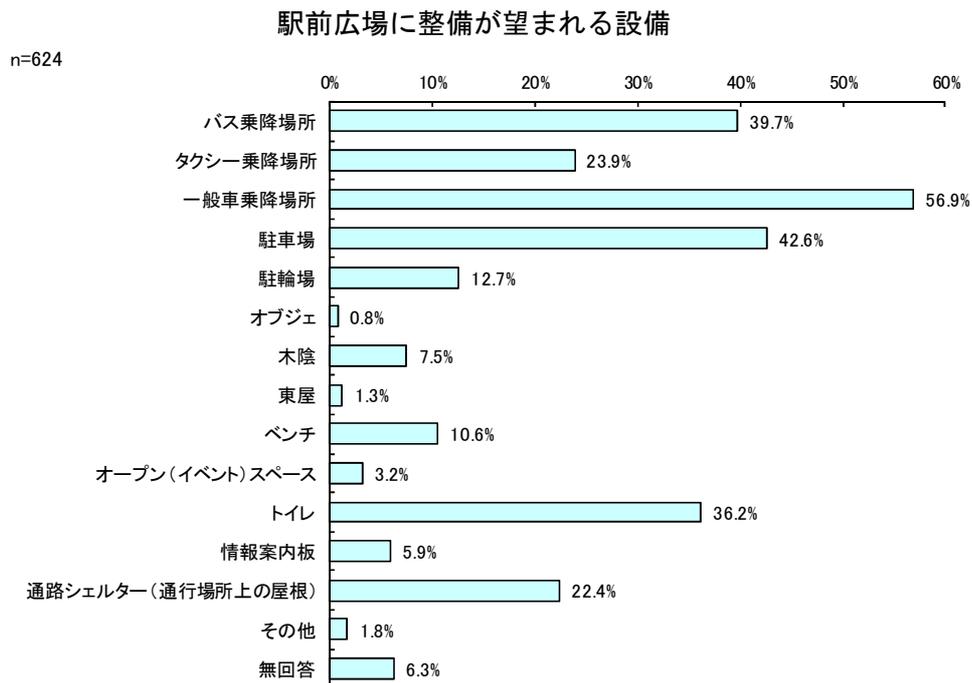
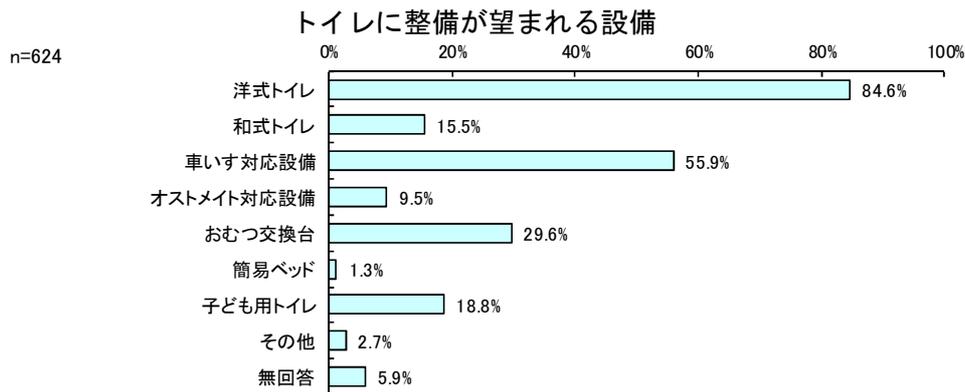
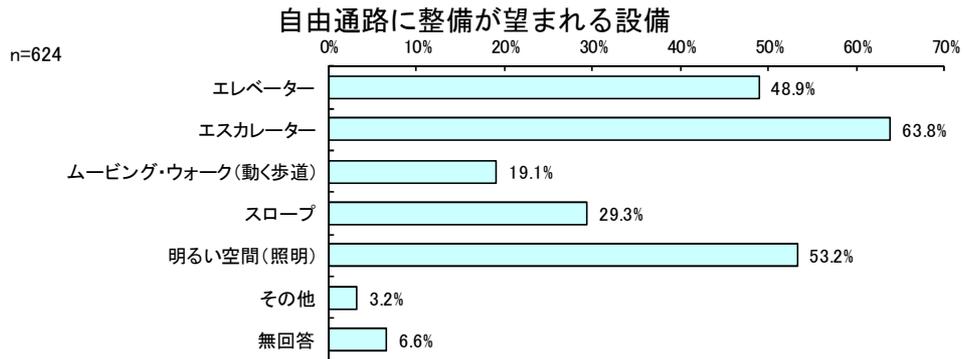
※ご回答いただいた水準でバス等の公共交通が運行され、駐車場や駐輪場等が整備される場合を想定

- (仮)磐田新駅への交通手段は「自分で車を運転する」が43.4%と最も多く、問5と比較して増加している。
- 「バス等の公共交通」は11.2%となっており、問5と比較して増加している。



◆問 1 1 : (仮)磐田新駅の施設整備

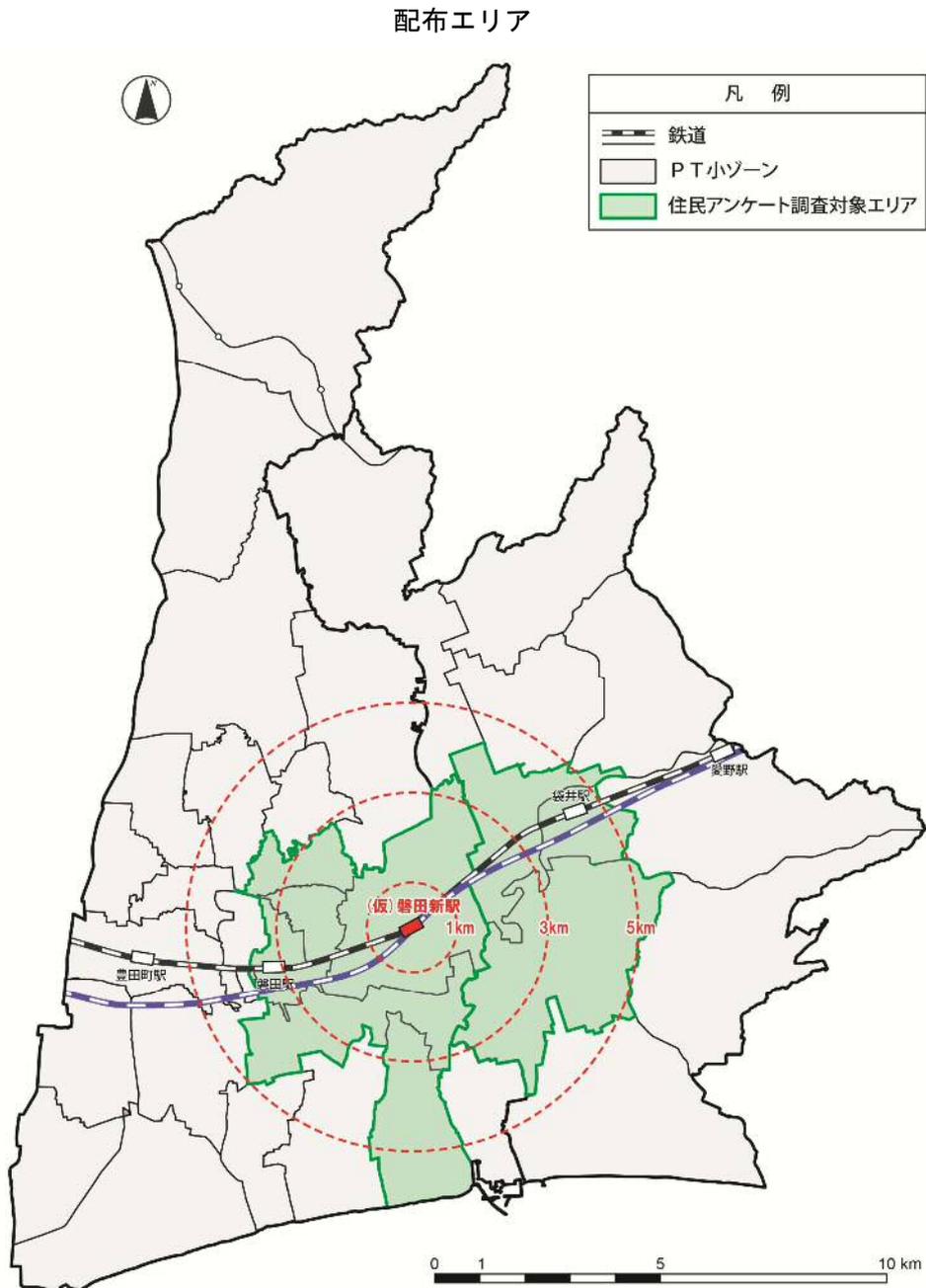
- 自由通路に望まれる施設は「エスカレーター」が63.8%と最も多く、「エレベーター」や「明るい空間（照明）」も多い。
- トイレに望まれる施設は「洋式トイレ」が84.6%と最も多く、「車いす対応設備」や「おむつ交換台」も多い。
- 駅前広場に望まれる施設は「一般車乗降場所」が56.9%と最も多く、「バス乗降場所」「駐車場」も多い。



2-3-2 (仮)磐田新駅周辺地域における公共交通に関するアンケート調査

(1) 調査概要

対象	磐田市内 2,200 人、袋井市内 300 人 計 2,500 人 15 歳以上無作為抽出
期間	平成 27 年 11 月～12 月
回収数	1,039 名 (回収率 41.6%)



調査票 (1/2)

(仮) 豊田新駅周辺地域における公共交通に関するアンケート調査にご協力よろしくお願いします！

平成27年11月
豊田駅 課 課長 修

日清より豊田市政にご理解・ご協力いただき、ありがとうございます。

現在、豊田市では、平成31年度末の開業を目指し、JR東海西本線の豊月・豊田間への新駅（仮称豊田新駅）設置に向けた様々な取り組みを進めています。

仮称豊田新駅の設置により、周辺地域のまちの状況だけでなく、これまで豊田駅や豊井駅などを利用していた方々の(仮)豊田新駅への利用転換も予想されることから、(仮)豊田新駅周辺地域における現在のバス等の公共交通機関の状況、まちづくり等の地域課題と一体で持続可能な地域公共交通網を形成するために「地域公共交通網形成計画：豊田新駅(仮称)周辺」の策定を進めています。

そこで、「地域公共交通網形成計画：豊田新駅(仮称)周辺」の策定における基礎資料とするために、(仮)豊田新駅周辺地域（(仮)豊田新駅の予定地を中心とする半径3km）に在住の15歳以上のの方々を無作為に抽出し、豊田の交通行動や(仮)豊田新駅の利用についてのアンケート調査を実施させていただきます。

皆様には、お忙しいところを誠に恐縮ですが、調査の目的をご理解いただき、ご協力いただけますようお願いいたします。

なお、調査していた事項については、すべて統計的に処理しますので、個人が特定されるような内容は一切公表いたしません。また、ご回答いただいた調査票は、この目的以外には使用いたしません。

- 調査対象者 豊田新駅周辺地域（豊田市及び豊井市の一部）に在住の15歳以上の方
- アンケート回収 12月4日（金）までこの調査票を封筒の返信用封筒（切手不要）に入れ、ご郵送いただくか、下記の問い合わせ先までご持参ください。

■ 記入上のご注意

- ご記入にあたっては、本人の回答が強く、知人による回答でも結構です。
- 回答は、該当する番号に○印をつけてください。質問によっては一つだけ選ぶものや複数を選ぶものがありますので、自由に選んでください。
- () には、数字や文字をご記入ください。

—アンケート調査についてのお願い—
 豊田市政建設部都市整備課事業支援グループ（担当：平野）
 TEL：(0538) 97-4830 FAX：(0538) 97-6690

I ご自身についてお尋ねします。

前1 下記について、それぞれ当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

問1-1 性別	1. 男性	2. 女性	
問1-2 年齢	1. 10代	2. 20代	3. 30代
	4. 40代	5. 50代	6. 60～64歳
	7. 65～74歳	8. 75歳以上	
問1-3 職業	1. 会社員・公務員	2. 自営業	3. パート・アルバイト
	4. 学生	5. 専業主婦	6. 無職
	7. その他 ()		
	豊田市		
	1. 見付地区 2. 西野地区 3. 向笠地区		
問1-4 お住まい	4. 南郷地区 5. 南郷副地区 6. 田原地区		
	7. 豊田北副地区 8. 藤沢地区		
	豊井市		
	9. 旧豊井市 10. 旧豊野町		
	問1-5 運転免許保有状況		
問1-6 運転免許所持	1. 持っている (問1-5へ)	2. 返納した (次項へ)	3. 持っていない (次項へ)
	1. ()歳までには返納する(予定)		
	2. 返納する予定はない		
3. わからない			
問1-7 運転免許返納後や運転できなくなった時の交通手段	1. 歩いて移動する		
	2. 自転車移動する		
	3. 他人に送迎してもらう		
	※複数回答可 ※「公共交通で移動したい」などの希望も含む		
	4. 公共交通で移動する		
5. わからない			

次項 問2 へお進みください

II 日常生活の中での交通行動についてお尋ねします。

前2 普段の外出について、主に利用する交通手段や曜日、家を出る時間帯・帰ってくる時間帯、目的地について、それぞれの目的別で当てはまる番号すべてに○をつけてください。() 内には、具体的な手段や場所等を記入してください。

	通勤・通学 （仕事・学校）	通院 （病院）	公共交通機関 （バス・電車）	徒歩・自転車 （徒歩・自転車）	自家用車 （自家用車）
右1階の4棟目にある前を外に出ない ※○を付けた目的に限り、以降の交通手段等の回答は不要です。					
主に利用する交通手段	1. 徒歩				
	2. 自転車				
	3. 原動機付自転車				
	4. バイク				
	5. 自分で車を運転する				
	6. 家族など他の人に車で送迎してもらう				
	7. タクシー				
	8. 乗合タクシー「お助けバス」				
	9. 豊井市自主運行バス				
	10. タクシー				
	11. JR東海道本線				
	12. その他 () () () () () ()				
主に外出する曜日	1. 平日(日・祝日以外)				
	2. 月曜日				
	3. 火曜日				
	4. 水曜日				
	5. 木曜日				
	6. 金曜日				
	7. 土曜日				
	8. 日曜日・休日				
	9. 特に決まっていない ※最も多くは月別に出発日時	週()回	週()回	週()回	週()回

	豊田新駅(仮称)周辺 (半径3km以内)	豊田新駅(仮称)周辺 以外	豊田新駅(仮称)周辺 以外	豊田新駅(仮称)周辺 以外	豊田新駅(仮称)周辺 以外
主に家や職場で出る時間帯	1. 7時より前				
	2. 7時台				
	3. 8時台				
	4. 9時台				
	5. 10時～11時台				
	6. 12時～13時台				
	7. 14時～15時台				
	8. 16時台				
	9. 17時台				
	10. 18時台				
	11. 19時以降				
	12. 特に決まっていない				
主に家や職場に帰る時間帯	1. 7時より前				
	2. 7時台				
	3. 8時台				
	4. 9時台				
	5. 10時～11時台				
	6. 12時～13時台				
7. 14時～15時台					
8. 16時台					
9. 17時台					
10. 18時台					
11. 19時以降					
12. 特に決まっていない					
主な目的地	1. 豊田市 (指定名)	()	()	()	()
	2. 豊井市 (指定名)	()	()	()	()
	3. 浜松市	()	()	()	()
	4. その他県内 (市町名)	()	()	()	()
	5. 愛知県	()	()	()	()
	6. その他県外	()	()	()	()

調査票 (2/2)

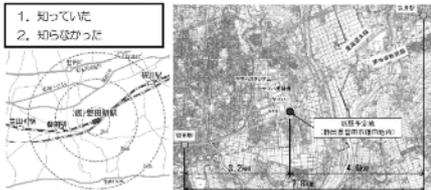
問3 自宅から外出する際や帰宅する際の、現在のJR 東海道本線の主な利用状況について、それぞれ当てはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	行き (自宅から外出)	帰り (帰宅)
問3-1 主な乗車駅	1. 磐田駅 2. 豊田駅 3. 袋井駅 4. その他 () 駅 5. 利用していません	1. 磐田駅 2. 豊田駅 3. 袋井駅 4. 浜松駅 5. 豊田駅 6. その他 () 駅 7. 利用していません
問3-2 駅への主な交通手段	1. 徒歩 2. 自転車 3. 原動機付自転車 4. バイク 5. 自分で車を運転する 6. 家族など他の人に車で送迎してもらう 7. 路線バス 8. 乗合タクシー「お助け号」 9. 貸車バス 10. タクシー 11. その他 ()	1. 徒歩 2. 自転車 3. 原動機付自転車 4. バイク 5. 自分で車を運転する 6. 家族など他の人に車で送迎してもらう 7. 路線バス 8. 乗合タクシー「お助け号」 9. 貸車バス 10. タクシー 11. その他 ()
問3-3 主な目的地	1. 磐田市内 (磐田名 地区名) 2. 袋井市 3. 浜松市 4. 静岡市 5. その他市外 (町名)	

Ⅲ (仮)磐田新駅についてお尋ねします。

問4 現在、JR 東海道本線磐田駅と袋井駅の間に(仮)磐田新駅の設置計画が進んでいます。(仮)磐田新駅の計画をご存知でしたか、当てはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1. 知っていた
2. 知らなかった



問5 (仮)磐田新駅の整備により、問3でご回答いただいた乗車する駅は変わりますか、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 「行き」が(仮)磐田新駅に変わる 2. 「帰り」が(仮)磐田新駅に変わる
3. 「行き」「帰り」ともに問3-1と変わらない(仮)磐田新駅を利用しない)

(仮)磐田新駅を利用しない方も「利用することを想定して」以降の設問にお答えください。

問6 (仮)磐田新駅が整備されることによって、あなたにとってどのような施設や場所に行きやすくなると思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 磐田市中心部 2. 磐田駅前 3. 袋井市 4. 浜松市 5. 静岡市
6. i プラザ (総合福祉福祉会館) 7. ヤマハスタジオAM 8. アミューズ磐田
9. ヤマハ祝祭場 10. NTN 11. その他 ()

問7 (仮)磐田新駅を利用する場合、主にごどの交通手段でアクセスしますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 徒歩 2. 自転車 3. 原動機付自転車 4. バイク
5. 自分で車を運転する 6. 家族など他の人に車で送迎してもらう
7. バス等の公共交通 8. タクシー 9. その他 ()

問8 (仮)磐田新駅を利用する場合、どのような目的の駅に利用したいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 買い物 2. 通勤・仕事 3. 通学・習い事 4. 通院
5. 公共施設への利用 6. 外食やスポーツ、旅行などの余暇
7. 家族や友人への訪問 8. その他 ()

問9 (仮)磐田新駅へのアクセス手段としての「バス等の公共交通」についてお答えください。

問9-1 (仮)磐田新駅にアクセスするバス等の公共交通ができた場合、あなたは利用しようと思いますか、当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 利用してみたい 2. 運行条件によっては利用してみたい
3. 運行されてみないとわからない 4. ほとんど利用しない

問9-2 (仮)磐田新駅にアクセスするバス等の公共交通を利用する場合、どのような条件であれば利用しますか。

問9-2-1 「自宅や目的地とバス停までの徒歩での所要時間」は何分までであれば利用しようと思いますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 3分まで 2. 5分まで 3. 10分まで 4. 15分まで
5. 20分まで 6. 30分まで 7. ()分まで

問9-2-2 「運行間隔」は何分までであれば利用しようと思いますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 10分間隔 2. 15分間隔 3. 20分間隔 4. 30分間隔
5. 60分間隔 6. ()分間隔

問9-2-3 「片道の乗車時間」は何分までであれば利用しようと思いますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 10分まで 2. 20分まで 3. 30分まで 4. 40分まで
5. 60分まで 6. ()分まで

問9-2-4 「1回の利用料金」は何円までであれば利用しようと思いますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 100円まで 2. 200円まで 3. 300円まで 4. 500円まで
5. 1,000円まで 6. ()円まで

問9-2-5 「利用したい時間」は何時間ですか。当てはまる項目すべてにお答えください。

1. (仮)磐田新駅を () 時 () 分から出発したい
2. (仮)磐田新駅に () 時 () 分ごろ到着したい
3. (施設名:) を () 時 () 分ごろ出発したい
4. (施設名:) に () 時 () 分ごろ到着したい

問9-2-6 「運行日」について何曜日に運行してほしいと思いますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 平日 (土・日・祝日以外) 毎日 2. 月曜日 3. 火曜日 4. 水曜日
5. 木曜日 6. 金曜日 7. 土曜日 8. 日曜日 9. 祝日

問9-2-7 バス等の公共交通を利用する条件のうち、重要と思われる条件はどれですか。特に重要である番号3つまで○をつけてください。

1. 自宅や目的地とバス停までの距離 2. 運行間隔 3. 片道の乗車時間
4. 利用料金 5. 運行時間 6. 運行日 7. 到着時刻の正確さ
8. 分かりやすい情報提供 9. 駅との乗り換えのしやすさ
10. バス相互の乗り換えのしやすさ
11. その他 ()

問10 問9でご回答いただいた水準で新たな公共交通機関が運行された場合を想定してお答えください。

問10-1 (仮)磐田新駅の整備により、利用する駅は変わりますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 「行き」が(仮)磐田新駅に変わる 2. 「帰り」が(仮)磐田新駅に変わる
3. 「行き」「帰り」ともに問3-1と変わらない(仮)磐田新駅を利用しない)

問10-2 (仮)磐田新駅を利用する場合、主にごどの交通手段でアクセスしますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 問7と変わらない 2. 徒歩 3. 自転車 4. 原動機付自転車
5. バイク 6. 自分で車を運転する 7. 家族など他の人に車で送迎してもらう
8. バス等の公共交通 9. タクシー 10. その他 ()

問10-3 どの程度の頻度で利用しますか。当てはまる番号1つだけ○をつけてください。

1. 休日も定期的な頻度 2. 平日の通勤時 3. 週2~3回程度
4. 週1回程度 5. 月2~3回程度 6. 年に数回程度 7. 雨など悪天候の日
8. ほとんど利用しない 9. その他 ()

問11 (仮)磐田新駅の施設整備についてお答えください。

問11-1 (仮)磐田新駅では自由通路の整備が計画されています。整備が望まれる設備はどれですか。特に整備が望まれる番号3つまで○をつけてください。

1. エレベーター 2. エスカレーター 3. ムービング・ウォーク(動く歩道)
4. スロープ 5. 明るい空間(照明) 6. その他 ()

問11-2 トイレ設備について、整備が望まれる設備はどれですか。特に整備が望まれる番号3つまで○をつけてください。

1. 洋式トイレ 2. 和式トイレ 3. 車いす対応設備
4. オストメイト対応設備 5. おむつ交換台 6. 換気ベッド
7. 子ども用トイレ 8. その他 ()

問11-3 駅前広場について、整備が望まれる施設(設備)はどれですか。特に整備が望まれる番号3つまで○をつけてください。

1. バス乗降場所 2. タクシー乗降場所 3. 一般乗降場所 4. 駐車場
5. 駐輪場 6. オブジェ 7. 木陰 8. 東屋 9. ベンチ
10. オープン(イベント)スペース 11. トイレ 12. 情報案内板
13. 遮音シールド(通行場所上の壁紙) 14. その他 ()

Ⅳ ご意見・ご要望などありましたら、ご自由にご記入ください。

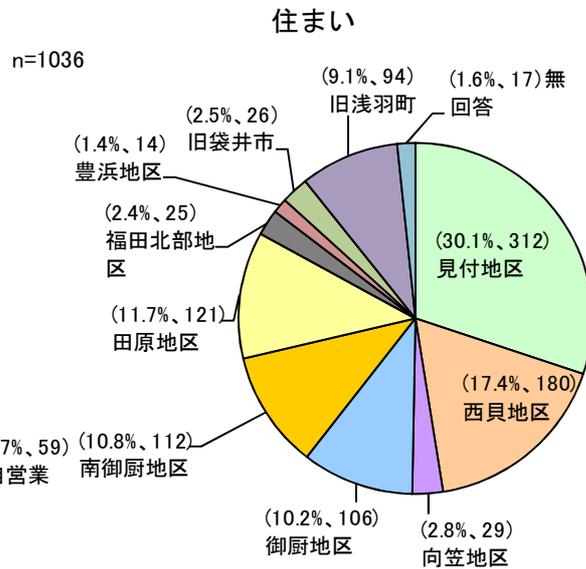
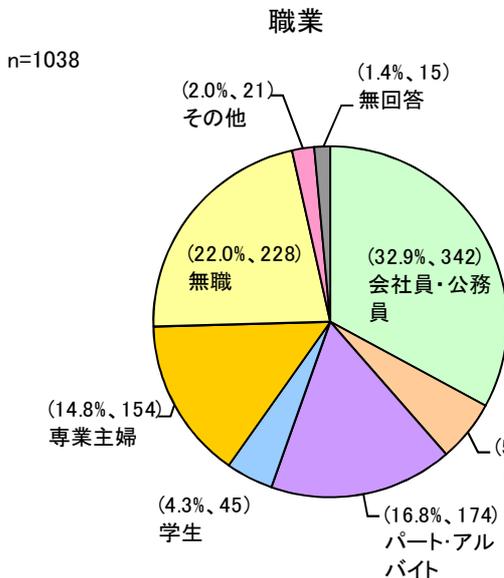
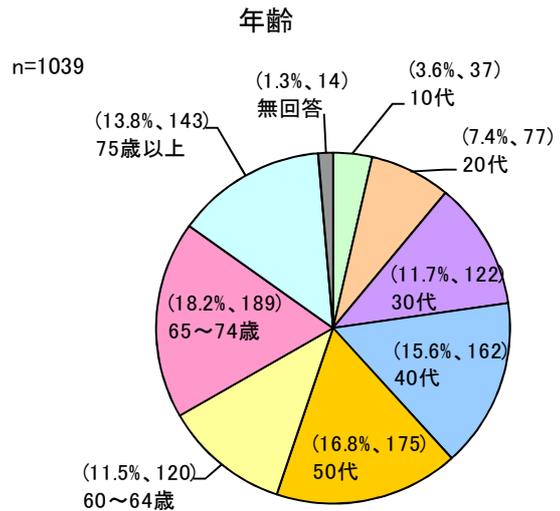
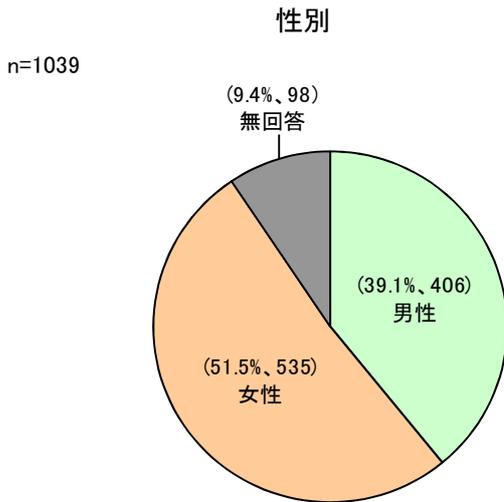
アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
12月4日(金)までに返信用封筒(切手不要)に入れてご返送ください

(2) 調査結果

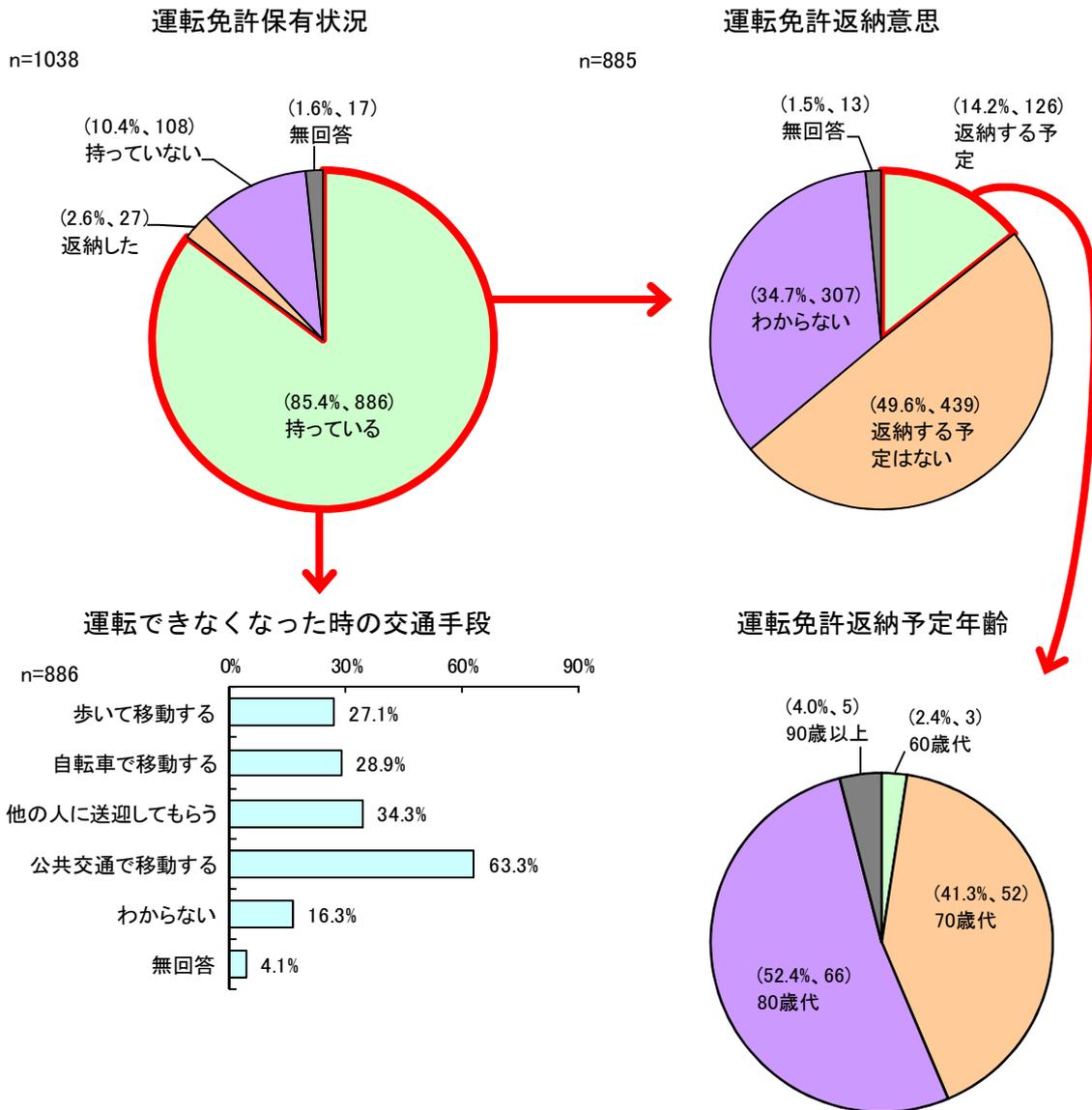
※当てはまる番号1つだけに○を付ける設問における複数回答は除外している

◆問1：属性

- 性別は「女性」が多く、年代は「10代」「20代」が少ないものの全年代から回答を得ている。
- 職業は「会社員・公務員」「無職」「パート・アルバイト」が多い。
- 住まいは「見付地区」「西貝地区」が多い。



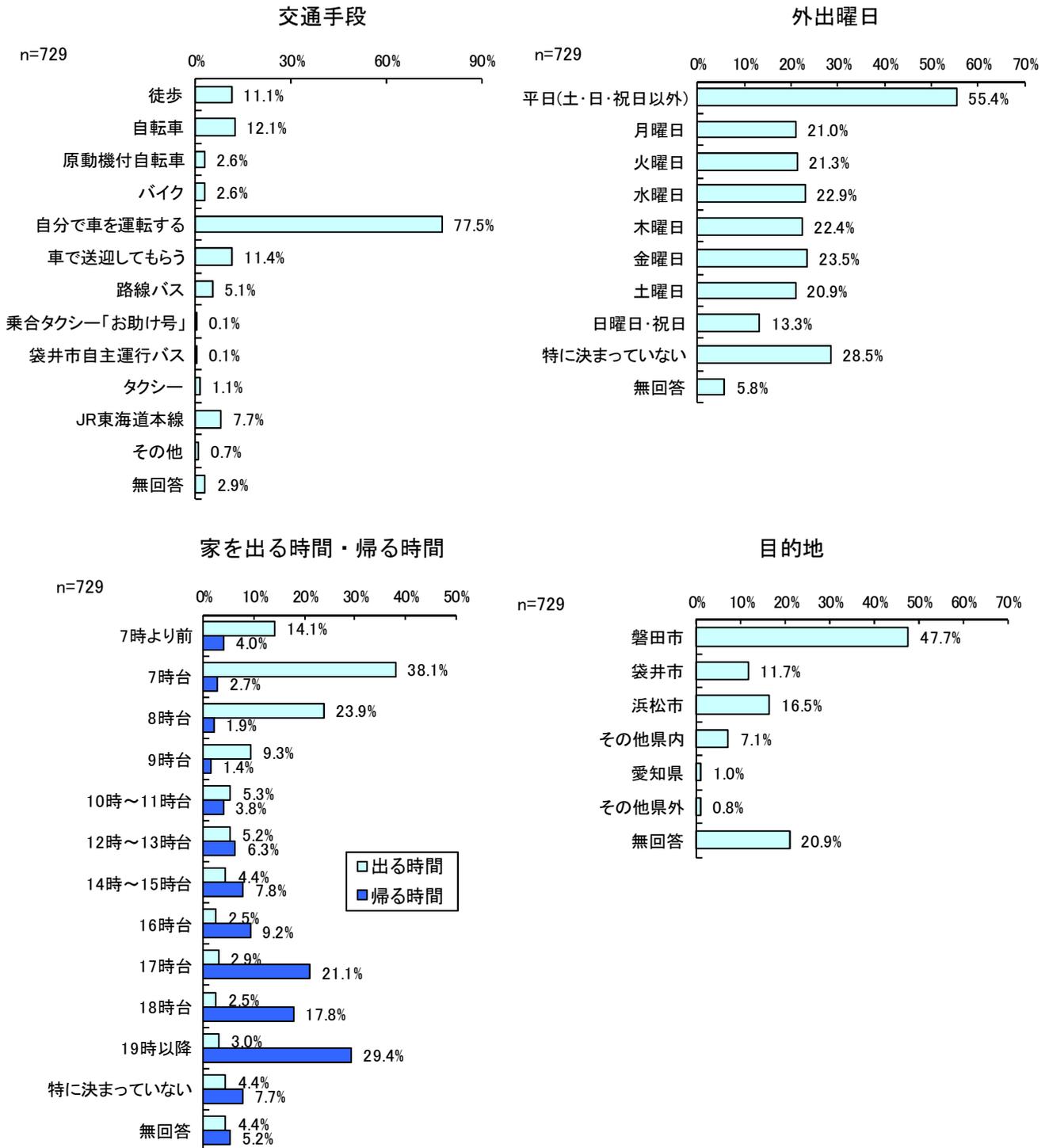
- 運転免許は「持っている」が多く、そのうち運転免許を「返納する予定」は 14.2%で「70歳代」や「80歳代」で返納する予定が多い。
- 運転免許を「持っている」のうち、運転できなくなった時の交通手段は「公共交通で移動する」が63.3%と最も多い。



◆問2：日常生活の交通行動

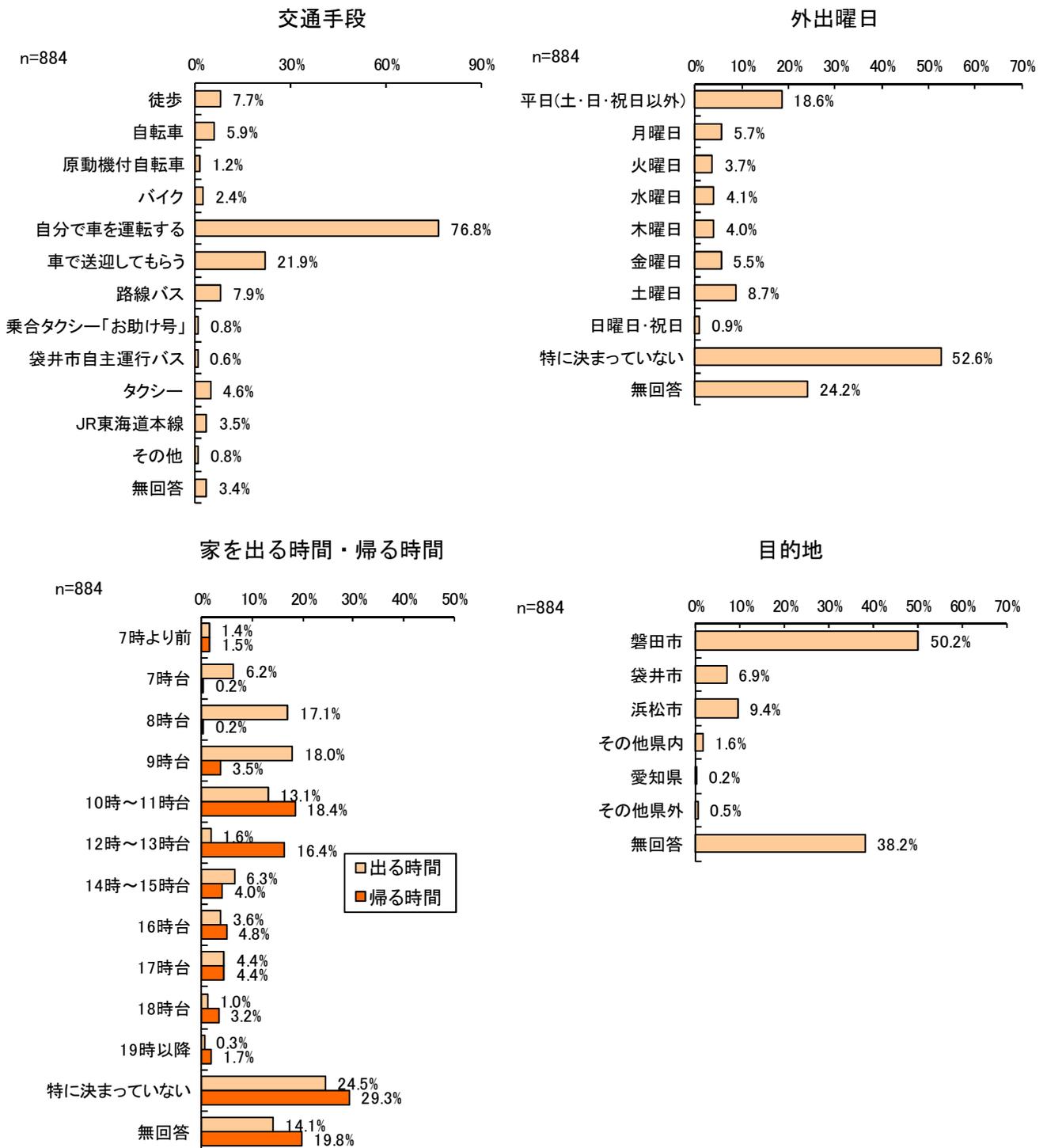
【通勤通学目的】

- 通勤通学時の交通手段は「自分で車を運転する」が77.5%と最も多い。
- 外出曜日は「平日」が55.4%と最も多く、家を出る時間は「7時台」「8時台」、家に帰る時間は「17時台」以降が多い。
- 目的地は「磐田市」が47.7%と最も多い。



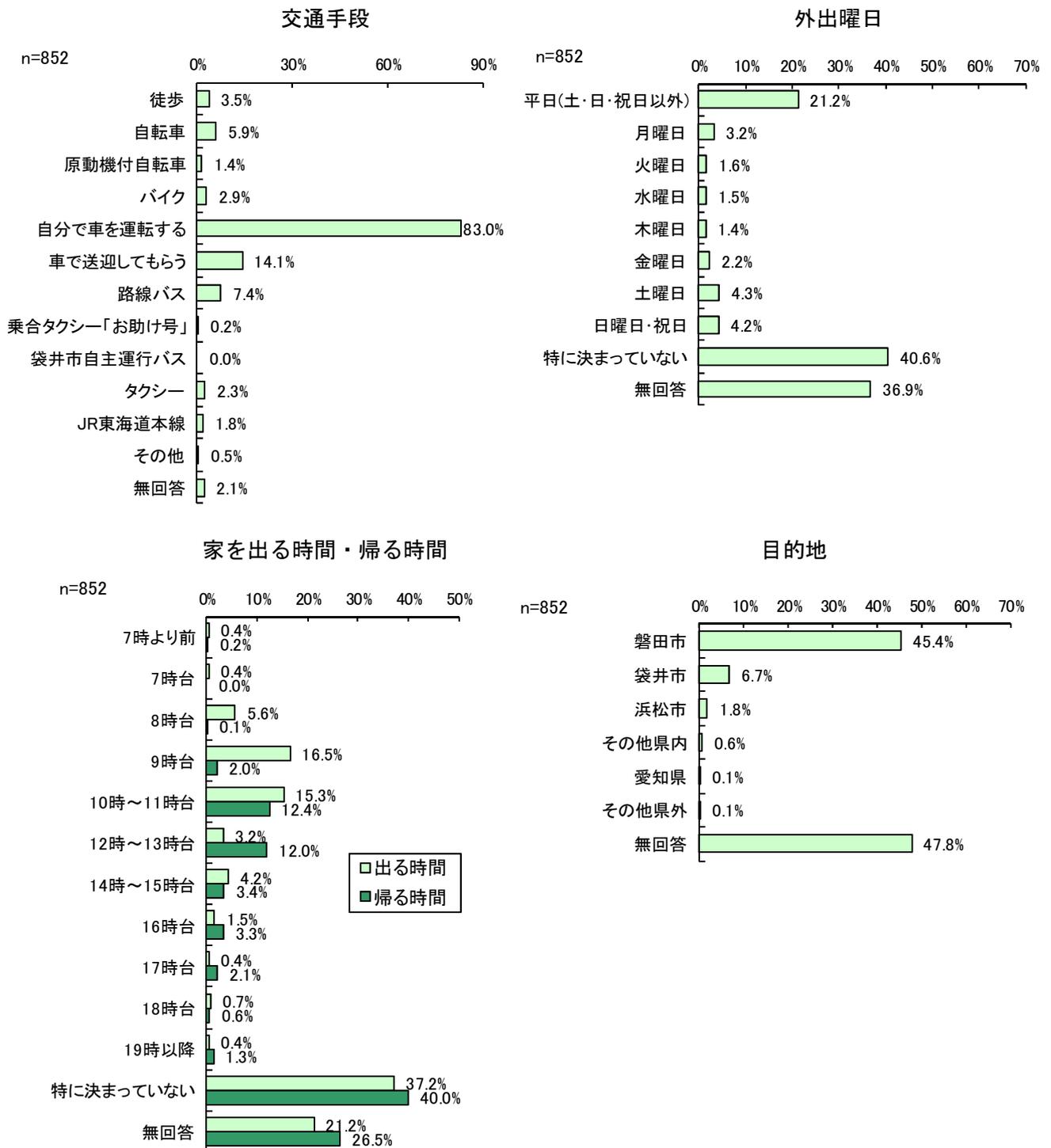
【通院目的】

- 通院時の交通手段は「自分で車を運転する」が76.8%と最も多い。
- 外出曜日は「特に決まっていない」が52.6%と最も多く、「平日」も多い。
- 家を出る時間は「特に決まっていない」が多いが、「8時台」から「10時～11時台」も多い。
- 家に帰る時間は「特に決まっていない」が多いが、「10時～11時台」から「12時～13時台」も多い。
- 目的地は「磐田市」が50.2%と最も多い。



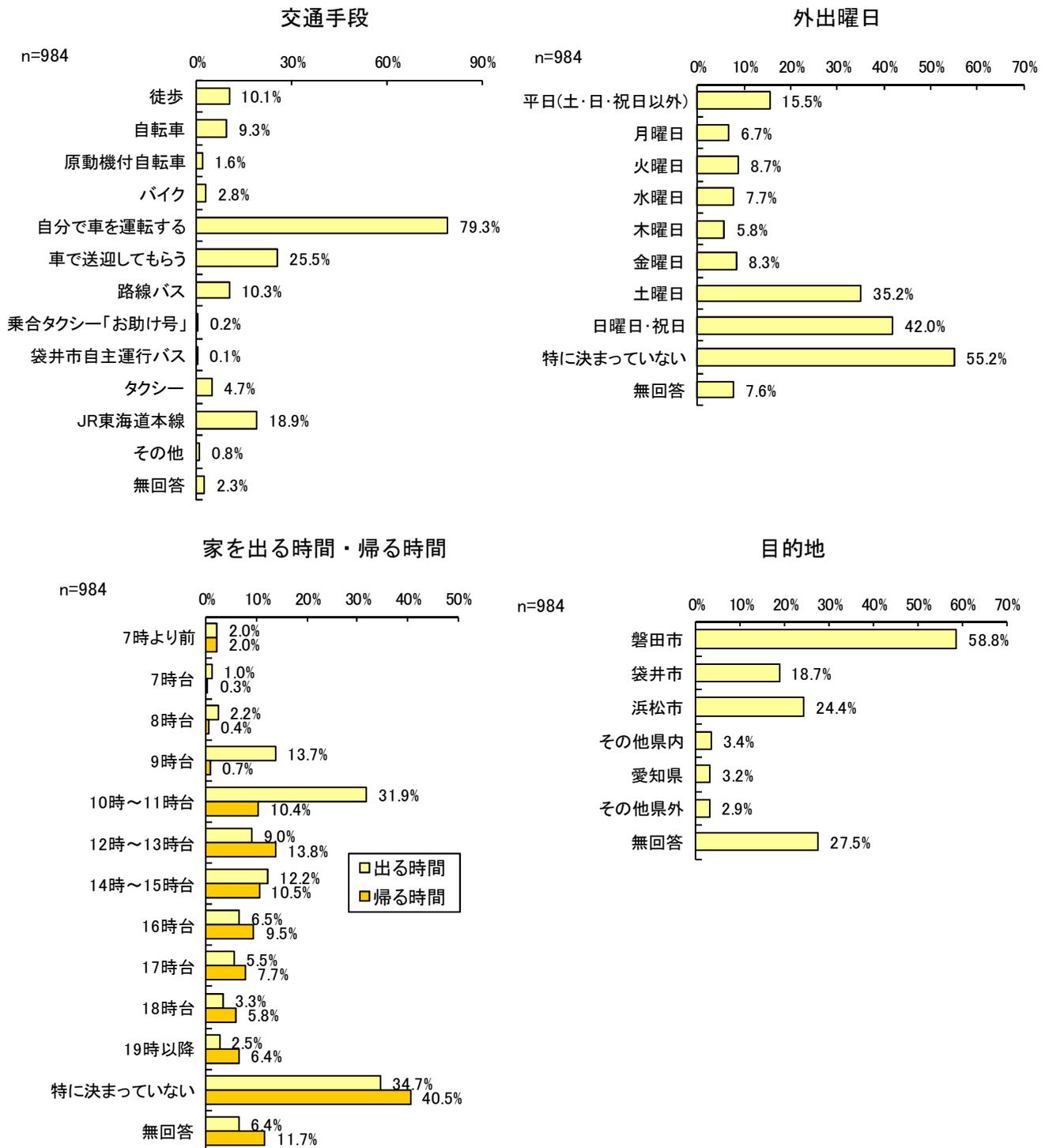
【公共施設利用目的】

- 公共施設利用時の交通手段は「自分で車を運転する」が83.0%と最も多い。
- 外出曜日は「特に決まっていない」が40.6%と最も多く、「平日」も多い。
- 家を出る時間は「特に決まっていない」が多いが、「9時台」から「10時～11時台」も多い。
- 家に帰る時間は「特に決まっていない」が多いが、「10時～11時台」から「12時～13時台」も多い。
- 目的地は「磐田市」が45.4%と最も多い。



【買い物目的】

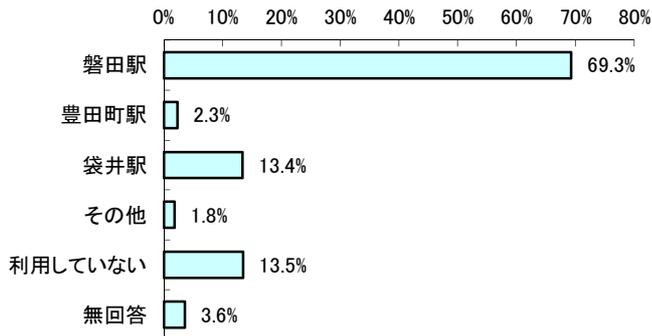
- 通勤通学時の交通手段は「自分で車を運転する」が79.3%と最も多い。
- 外出曜日は「特に決まっていない」が55.2%と最も多く、「土曜日」や「日曜日・祝日」も多い。
- 家を出る時間は「特に決まっていない」が多いが、「10時～11時台」も多い。
- 家に帰る時間は「特に決まっていない」が多いが、「12時～13時台」も多い。
- 目的地は「磐田市」が58.8%と最も多い。



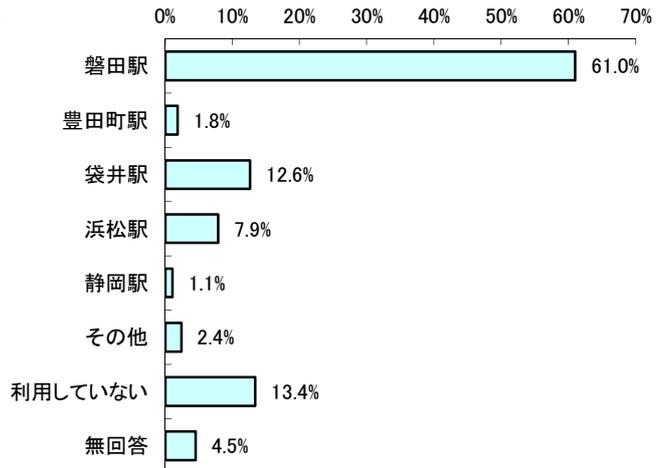
◆問3：現在の JR 東海道本線の駅の利用状況

- 現在の利用駅は行き帰りともに「磐田駅」が最も多く、市外となる「袋井駅」を利用している方もいる。
- 駅への交通手段は行き帰りともに「自分で車を運転する」が最も多く、「家族など他の人に送迎してもらう」や「バス等の公共交通」も多い。
- 目的地は「浜松市」が53.5%と最も多い。

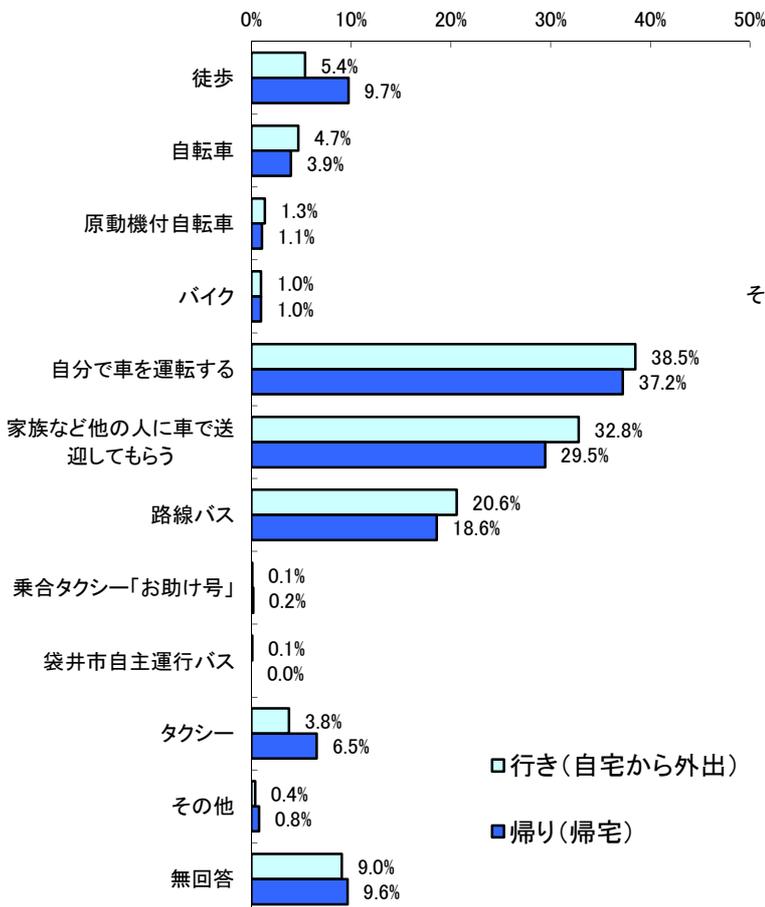
行きの乗車駅



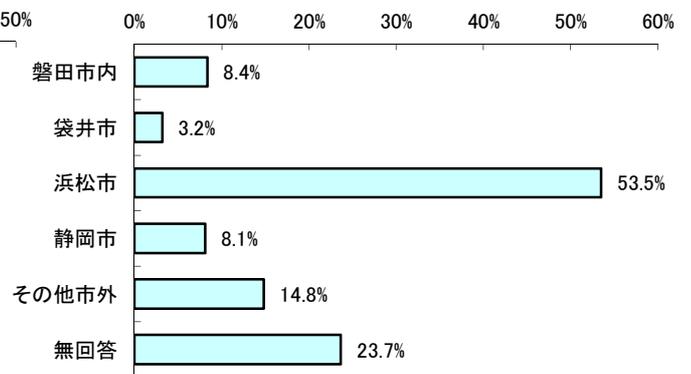
帰りの乗車駅



駅への交通手段



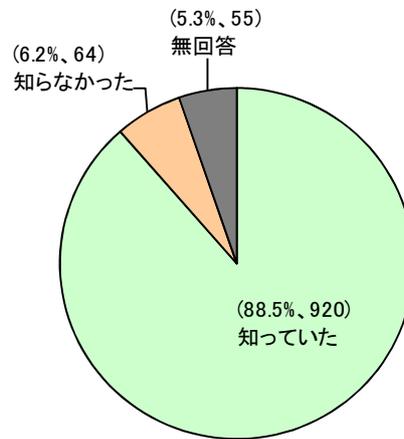
目的地



◆問4：(仮)磐田新駅整備の認知度

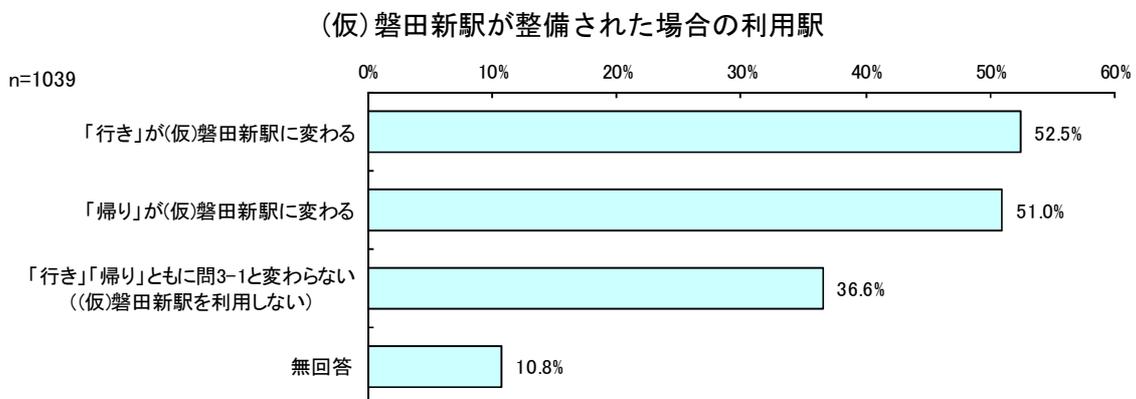
- (仮)磐田新駅整備の認知度は「知っていた」が88.5%と最も多い。

(仮)磐田新駅整備の認知度
n=1039



◆問5：(仮)磐田新駅が整備された場合の利用駅

- (仮)磐田新駅が整備された場合、行き帰りともに「(仮)磐田新駅に変わる」が最も多い。

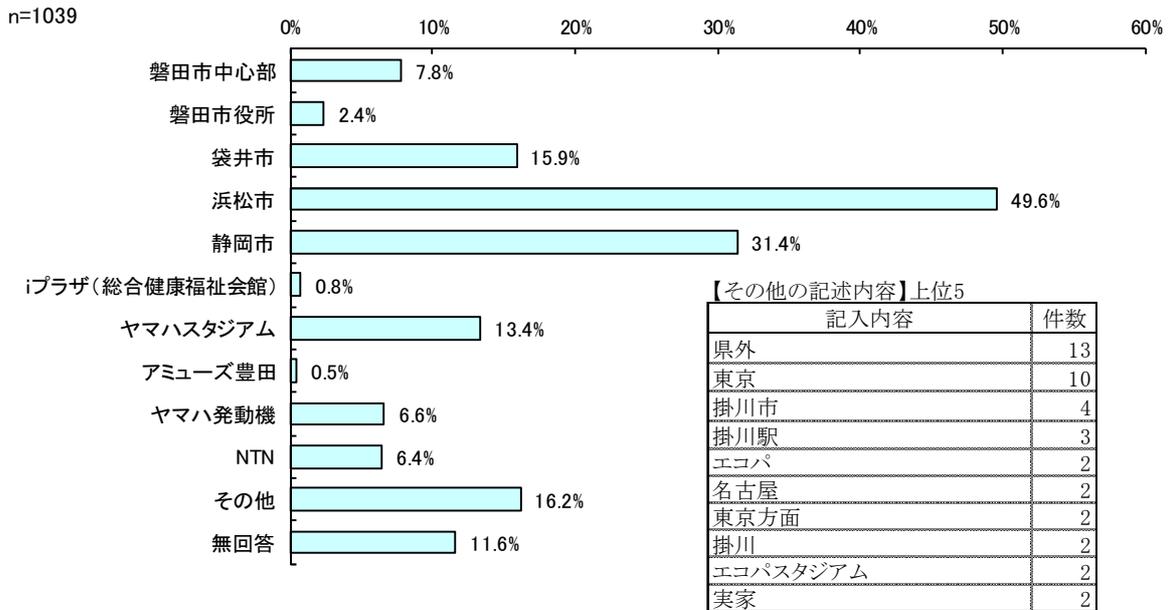


※(仮)磐田新駅を利用しない方も「利用することを想定して」以降の設問に回答

◆問6：(仮)磐田新駅の整備により行きやすくなる施設や場所

- (仮)磐田新駅の整備により行きやすくなる施設や場所は「浜松市」が49.6%と最も多く、「静岡市」も多い。
- 「その他」では県外や東京などの市外が多い。

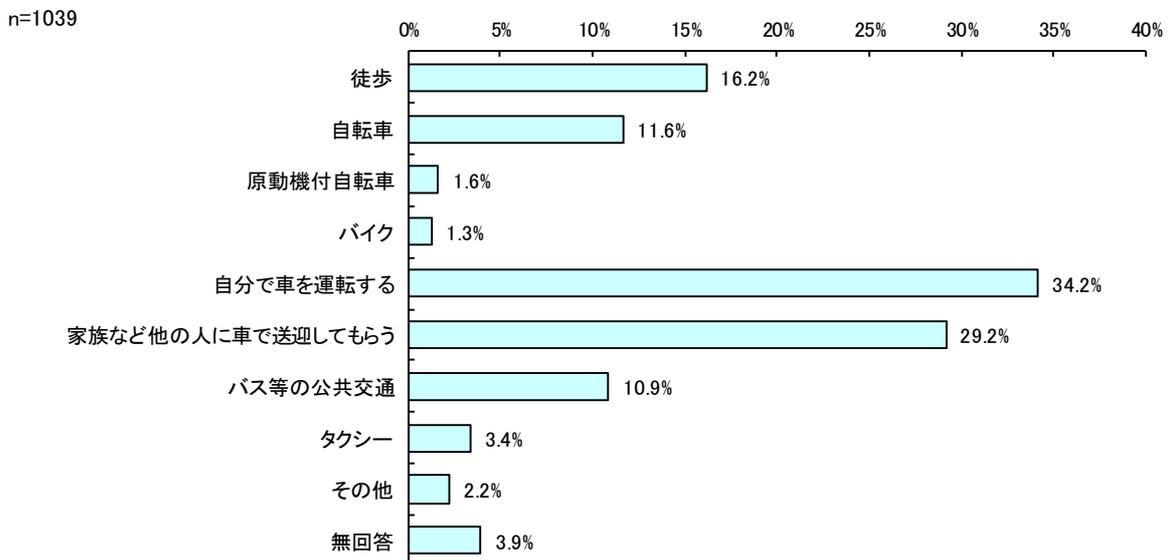
(仮)磐田新駅の整備により行きやすくなる施設や場所



◆問7：(仮)磐田新駅への交通手段

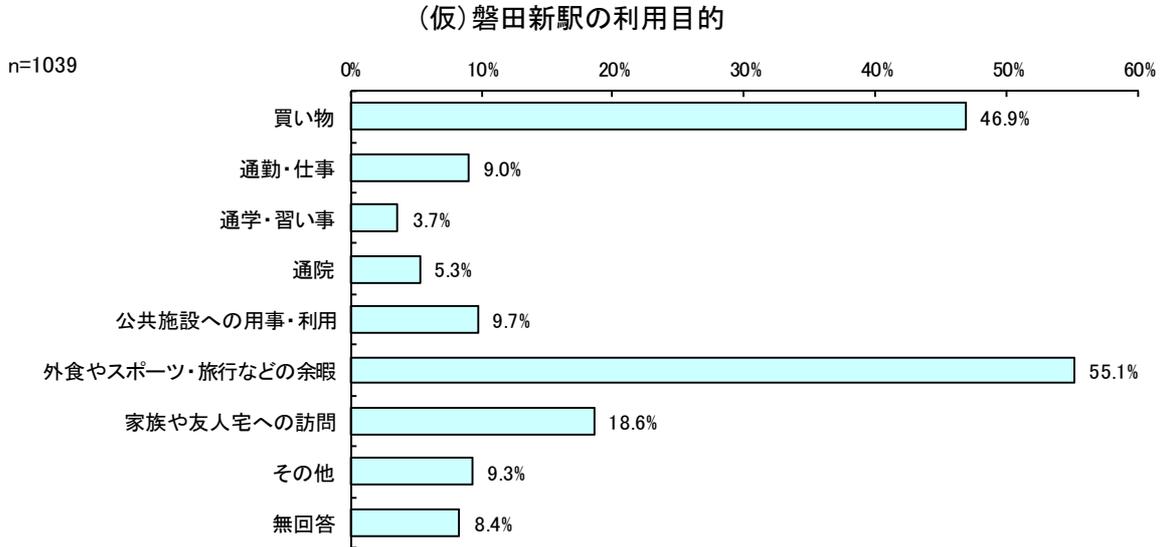
- (仮)磐田新駅への交通手段は「自分で車を運転する」が34.2%と最も多く、「家族など他の人に送迎してもらおう」も含めると63.4%の方が車の利用を想定している。また、「バス等の公共交通」は10.9%となっている。

(仮)磐田新駅への交通手段



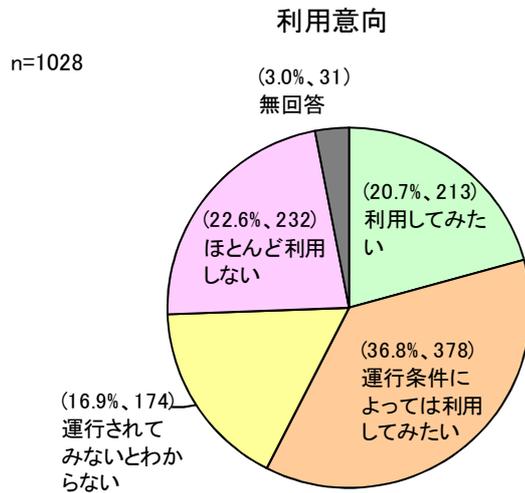
◆問 8 : (仮)磐田新駅の利用目的

- (仮)磐田新駅への利用目的は「外食やスポーツなどの余暇」が 55.1%と最も多く、「買い物」も 46.9%と多い。



◆問 9 : (仮)磐田新駅へのアクセス手段としての「バス等の公共交通」について

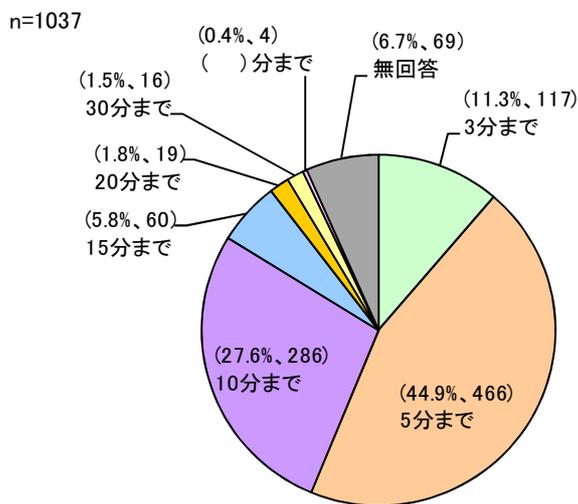
- (仮)磐田新駅へのアクセス手段としてのバス等の公共交通は「運行条件によっては利用してみたい」が 36.8%と最も多く、「利用してみたい」と合わせた利用意向がある方は 57.5%とる。



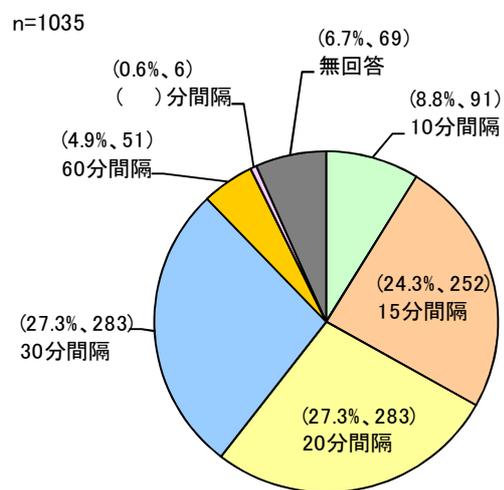
- 自宅や目的地とバス停までの徒歩での所要時間は「5分まで」が44.9%と最も多く、所要時間が5分圏内にバス停を設置すると81.6%、10分圏内にバス停を設置すると36.7%となる。
- 運行間隔は「20分間隔」「30分間隔」が27.3%と最も多く、20分間隔の運行であれば59.5%、30分間隔の運行であれば32.2%となる。
- 片道の乗車時間は「20分まで」が44.2%と最も多く、乗車してから20分で降車バス停に着くのであれば62.0%、30分で降車バス停に着くのであれば17.8%となる。
- 運賃は「200円まで」が47.7%と最も多く、200円であれば72.1%、300円であれば24.4%となる。

利用条件

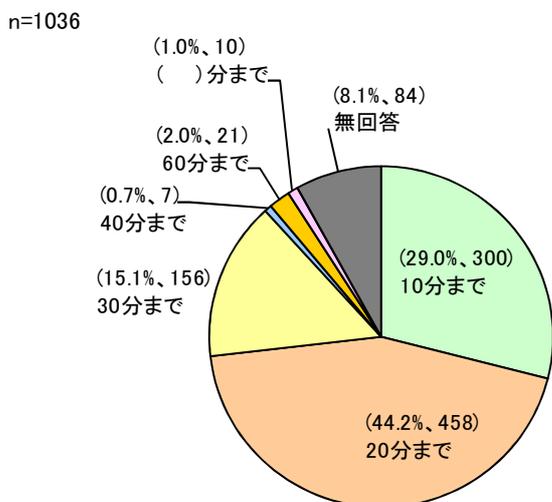
(自宅や目的地とバス停までの徒歩での所要時間)



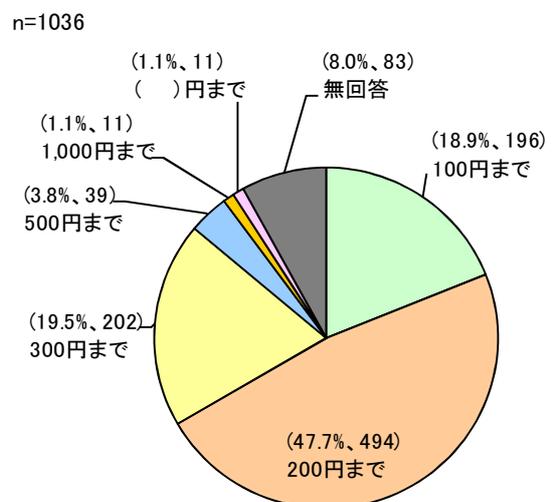
(運行間隔)



(片道の乗車時間)

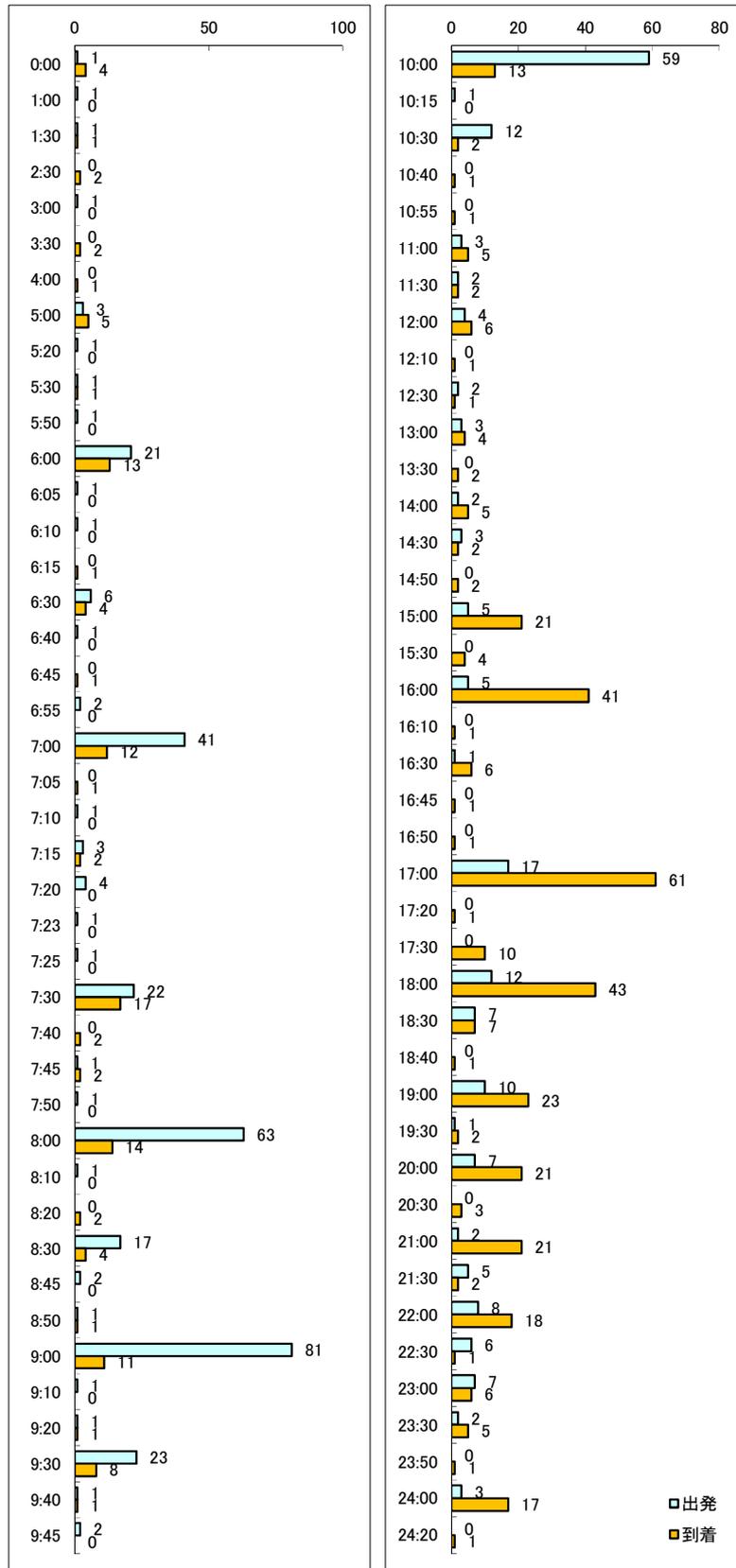


(運賃)

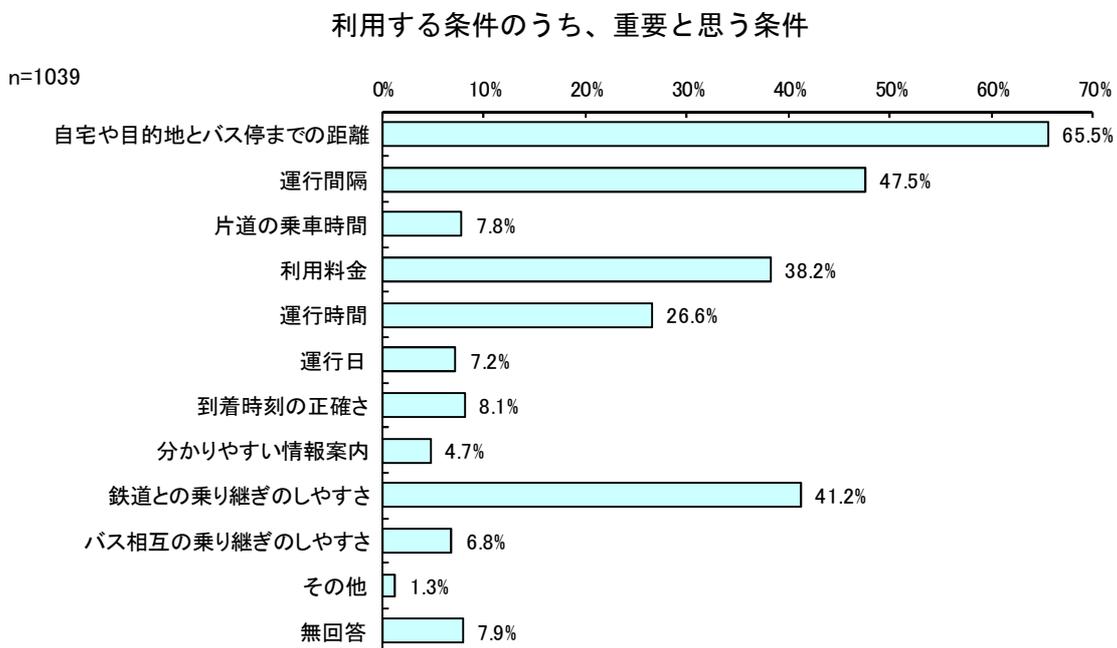
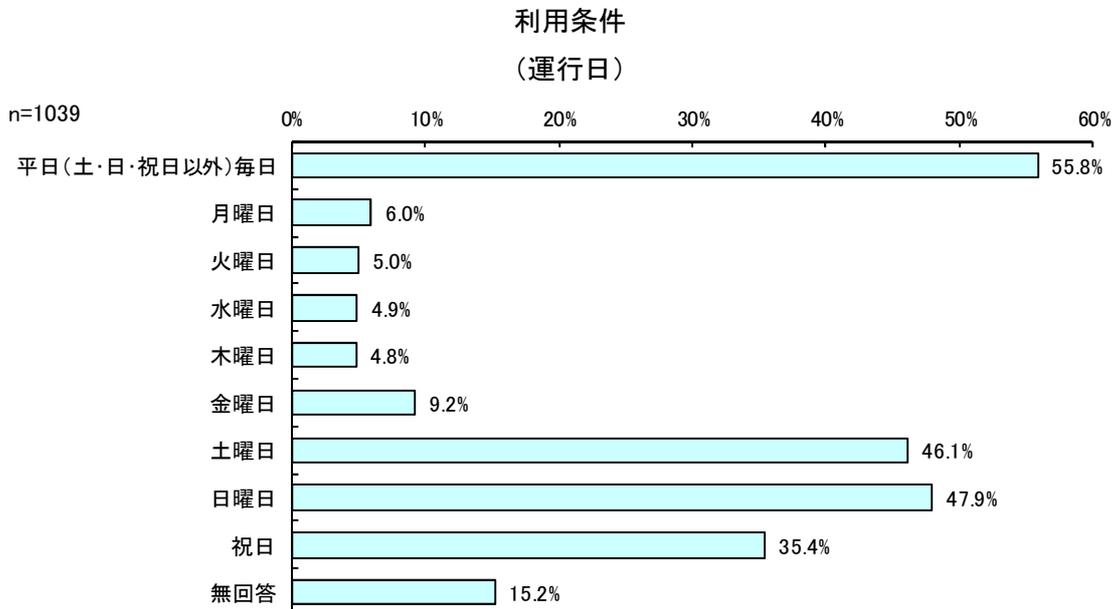


- (仮)磐田新駅の出発時間は「9：00」が81人と最も多く、「7：00」「8：00」「10：00」も多い。
- (仮)磐田新駅の到着時間は「17：00」が61人と最も多く、「16：00」「18：00」も多い。

((仮)磐田新駅の出発・到着時間)



- 運行日は「平日」が55.8%と最も多いが、「土曜日」「日曜日」も多い。
- 重要と思う条件は「自宅や目的地とバス停までの距離」が65.5%と最も多く、「運行間隔」や「利用料金」、「鉄道との乗り継ぎのしやすさ」も多い。



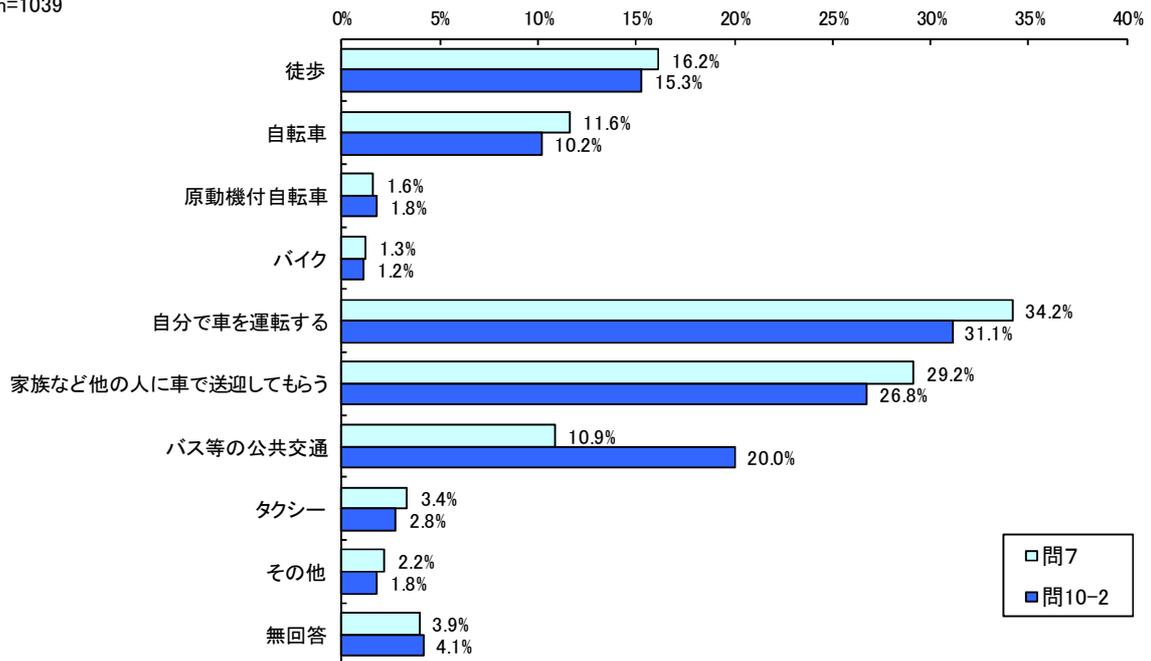
◆問10：(仮)磐田新駅が整備された場合の利用駅

※ご回答いただいた水準でバス等の公共交通が運行される場合を想定

- (仮)磐田新駅への交通手段は「自分で車を運転する」が31.1%と最も多いが、「家族など他の人に送迎してもらおう」も含め問7と比較して減少している。
- 「バス等の公共交通」は20.0%となっており、問7と比較して増加している。
- 利用頻度は「年に数回程度」が36.8%と最も多く、「ほとんど利用しない」も多い。

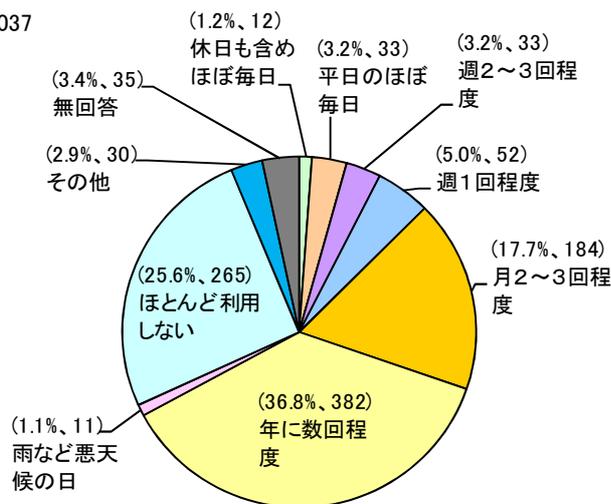
(仮)磐田新駅への交通手段

n=1039



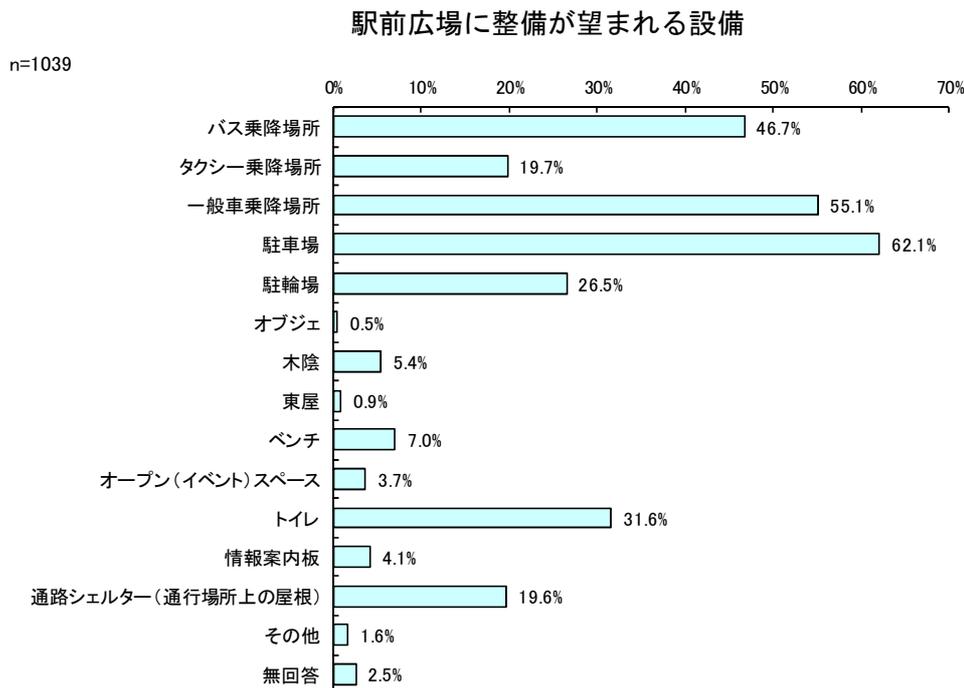
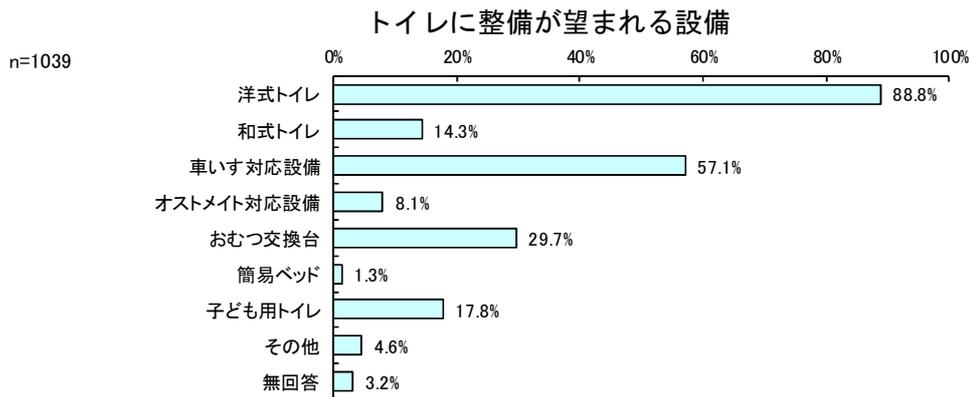
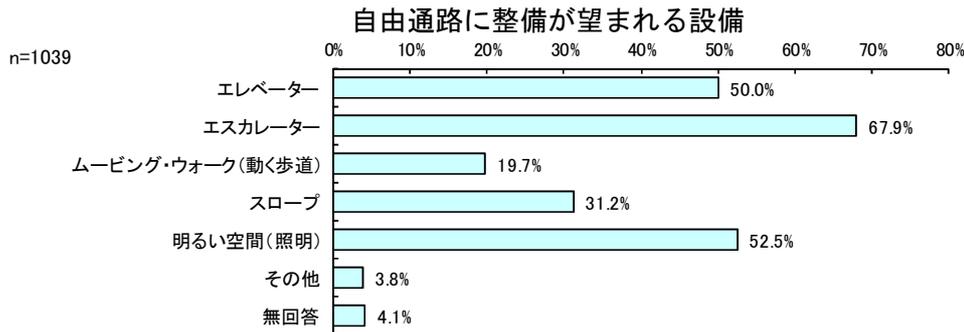
利用頻度

n=1037



◆問 1 1 : (仮)磐田新駅の施設整備

- 自由通路に望まれる施設は「エスカレーター」が67.9%と最も多く、「エレベーター」や「明るい空間（照明）」も多い。
- トイレに望まれる施設は「洋式トイレ」が88.8%と最も多く、「車いす対応設備」や「おむつ交換台」も多い。
- 駅前広場に望まれる施設は「駐車場」が62.1%と最も多く、「バス乗降場所」「一般車乗降場所」「駐輪場」「トイレ」も多い。



3. 上位・関連計画

3-1 磐田市総合計画(平成 29 年 3 月)

3-1-1 基本構想 (平成 29 年 3 月)

- ◆計画期間
平成 29 年度～平成 38 年度
- ◆人口目標
166,000 人 (平成 38 年度末)
- ◆将来像
たくさんの元気と笑顔があふれるまち 磐田
～ 今までも、これからも ずっと磐田 ～
- ◆基本理念
未来のまちづくりを担う「人づくり・地域づくり」を進めます
- ◆まちづくりの体系



◆土地利用構想



3-1-2 前期基本計画（平成 29 年 3 月）

◆計画期間

平成 29 年度～平成 33 年度

◆分野別計画の体系

取組分野	基本施策	重点事業
分野1 産業・雇用・観光・移住定住	1. 元気な農林水産業の育成 2. 中小企業等の競争力強化と企業立地の推進 3. 産業を担う人材の育成・就労の支援 4. 交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化 5. ブランド力の強化とシティプロモーションの推進 6. 移住・定住の推進	① 次世代型農水産業などに参入する企業を支援します ② 多様な担い手の育成に向け「いわた農業経営塾」を推進します ③ 企業の立地環境の整備を進めます ④ 創業支援ネットワーク「チャレンジサポーター磐田」を活用して創業・起業を推進します ⑤ 「軽トラ市」開催への支援など「まち」のにぎわいづくりを推進します ⑥ 磐田のブランド力の強化などシティプロモーションの取組みを推進します ⑦ 首都圏等での就職面接会の開催などにより「UJ」ターン就職」を促進します
分野2 自治・スポーツ・文化・歴史・共生	1. コミュニティと市民活動の活性化 2. スポーツの振興 3. 文化の振興と歴史遺産の整備、活用 4. 学習機会の充実 5. 共生社会の確立	① 交流センターの地域活動の拠点としての機能、体制の充実を図ります ② 磐田スポーツ部活」を推進します ③ “ジューピロ”を活かしたまちづくりを進めます ④ ワールドカップ、オリンピック等のキャンプ地誘致や機運醸成活動を推進します ⑤ 新たに卓球場・アーチェリー場を整備します ⑥ (仮称)磐田市文化会館の整備を推進します ⑦ 遠江国分寺跡の整備を実施します ⑧ 電子図書館の活用等による図書館機種の充実を図ります ⑨ 新たな男女共同参画プラン・多文化共生推進プランを推進します
分野3 子育て・教育	1. 子ども・子育て支援の充実 2. 特色ある教育の推進 3. 子ども・若者の健全育成	① 相談機能を備えた(仮称)子ども図書館」を整備します ② 幼稚園、保育園の再編・再築を検討、推進します ③ 県内初の児童発達支援・就労支援一体型施設の整備を進めます ④ 学府一体等新時代の新たな学校づくりを推進します ⑤ 中学生の海外発遣など体験を重視する教育を推進します
分野4 健康・福祉	1. 地域福祉の推進 2. 高齢者福祉の充実 3. 障がい児者福祉の充実 4. 健康づくりの推進 5. 地域医療体制の充実	① 地域福祉を担う人材の育成を推進します ② 地域包括ケアシステムの構築を推進します ③ 認知症の相談支援体制を強化し認知症対策を推進します ④ 障がい者雇用・就労を促進します ⑤ 子どもから大人までライフステージに応じた健康づくりを進めます ⑥ 地域医療連携体制の充実を進めます
分野5 防災・消防・安全安心	1. 危機管理・防災対策の推進 2. 消防・救急体制の充実 3. 市民生活の安全・安心の確保	① 自主防災組織への支援など地域防災力の向上を図ります ② 海岸堤防整備を推進します ③ 新たに耐震シェルター設置補助を行うなど家庭の防災対策を支援します ④ 新たな消防庁舎施設整備計画を策定、推進します ⑤ 青色回転灯装備車両による防犯パトロールなど地域防犯活動を支援します ⑥ 子どもや高齢者を交通事故から守ります ⑦ 消費生活センターの機能の強化・充実を図ります
分野6 都市基盤・環境	1. 計画的な土地利用の推進 2. 公共交通体系と道路網の整備 3. 良好な住環境の整備 4. 水道水の安定供給と下水道の整備 5. 環境にやさしい社会の確立 6. 快適な生活環境の確保	① 磐田市都市計画マスタープラン・磐田市立地適正化計画を策定、推進します ② JR新駅の設置とアクセス道路の整備を推進します ③ 新築名スマートインターチェンジの設置を推進します ④ 土地区画整理事業を推進します(新貝・鎌田第一土地区画整理事業) ⑤ 中古住宅リフォーム補助制度の実施など空き家対策を推進します ⑥ 上下水道施設の長寿命化・耐震化を進めます ⑦ 新たな磐田市環境基本計画を策定し、環境に関する取組みを進めます ⑧ 病畜畜園の整備を進めます
分野7 行財政改革	1. 効率的・効果的な行政運営の推進 2. 持続可能な財政基盤の確立 3. 機動的な組織体制の構築と人材の育成	① 新たな行財政改革実施計画を策定します ② 磐田市公共施設等総合管理計画に基づき公共施設の適正配置等を推進します ③ 公有財産の有効活用とふるさと納税制度等による積極的な財源の確保を進めます ④ 新たな定員適正化計画を策定、推進します ⑤ 新たな人材育成基本方針の策定等により、職員員の資質向上や意識改革を進めます

◆分野別計画

【分野1：産業・雇用・観光・移住定住】

基本施策

- 基本施策4：交流人口の拡大と商業・サービス業の活性化

1. 観光・交流を推進します

⇒磐田市観光協会への支援及び磐田市情報館・観光案内所での観光案内・**情報提供の充実**

- 基本施策6：移住・定住の推進

1. 移住・定住を支援します

⇒**新貝土地区画整理事業の推進**

⇒**鎌田第一土地区画整理事業の推進**

【分野4：健康・福祉】

基本施策

- 基本施策2：高齢者福祉の充実
 2. 住み慣れた地域で暮らすための支援の充実を図ります
 - ⇒ **デマンド型乗合タクシーの運行・充実**

【分野6：都市基盤・環境】

基本施策

- 基本施策2：公共交通体系と道路網の整備
 2. 公共交通の充実を図ります
 - ⇒ **デマンド型乗合タクシーの運行・充実**
 - ⇒ **民間バス事業者及び天竜浜名湖鉄道への支援**
 3. 交通拠点の整備・充実を図ります
 - ⇒ **JR新駅の設置の推進**
- 基本施策3：良好な住環境の整備
 1. 新市街地整備を推進します
 - ⇒ **新貝土地区画整理事業の推進**
 - ⇒ **鎌田第一土地区画整理事業の推進**

3-2 磐田市都市計画マスタープラン(平成 20 年 2 月、平成 27 年 3 月一部改訂)

◆目標年

平成 38 年

◆人口目標

176,600 人 (平成 28 年)

◆基本理念

自然と共生し文化の薫る生活快適都市 磐田

◆都市づくりの目標

1. 安全で安心・快適な住みよい生活環境づくり
2. 豊かな緑・水の環境を活かし、環境と共生する都市づくり
3. 地域の歴史・文化が薫る都市づくり
4. みんなが集い・交流を進める都市づくり
5. 新たな活力にみちた都市づくり

◆目標とする都市像

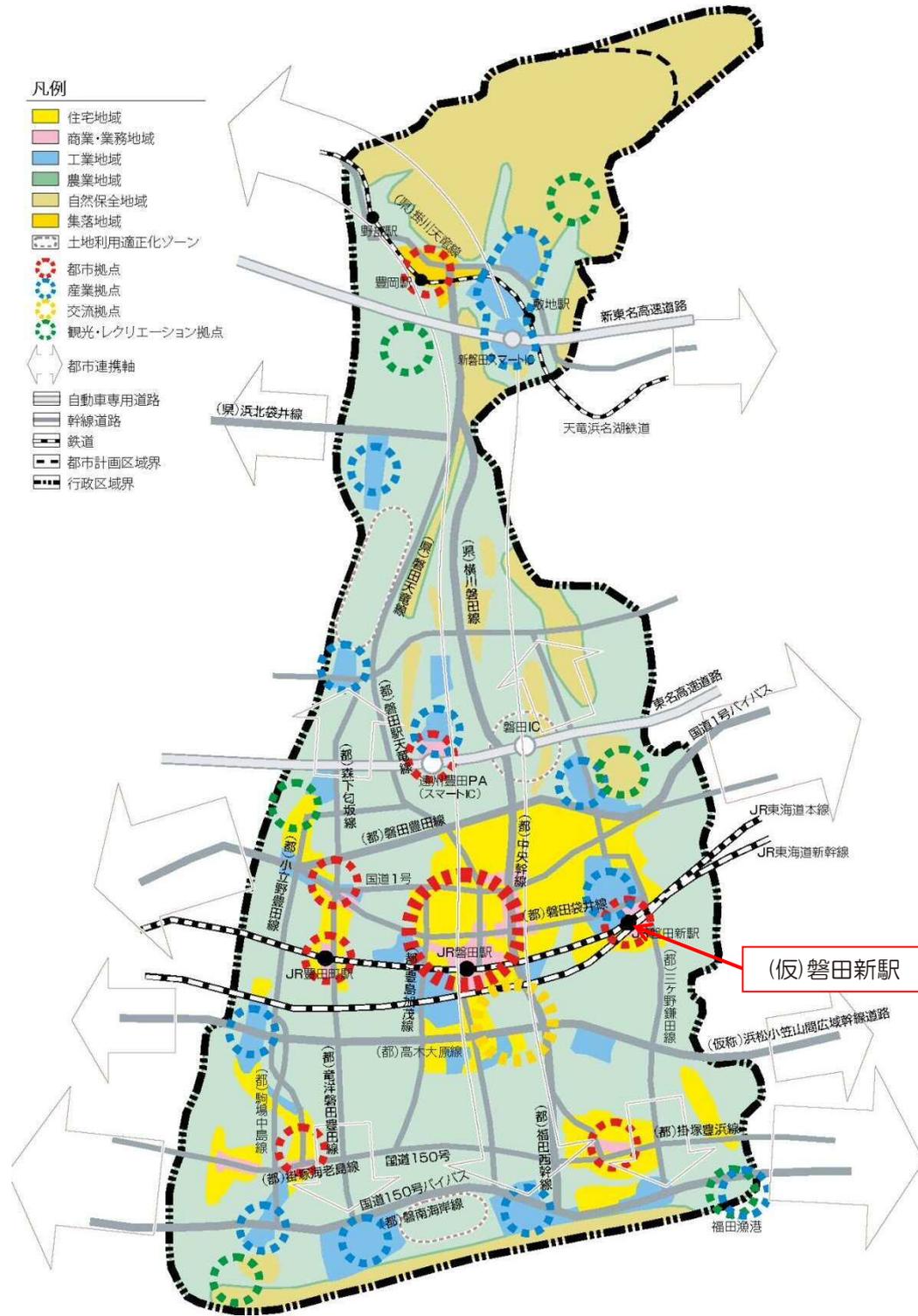
【都市構造の基本的な考え方】

- JR 磐田駅周辺地域を都市の中心核として多様な都市機能の集積を図るとともに、JR 豊田駅周辺地域、遠州豊田 PA 周辺地域、**JR 磐田新駅周辺地域を都市拠点**と位置づけ、鉄道駅や IC 等の交通結節点を活かした都市機能の誘導を図る。
- 福田、竜洋、豊田、豊岡の中心部を副次的な都市拠点として位置づけ、各地域の特性に応じた 都市機能の充実を図る。
- **都市中心核と都市拠点との結びつきを交通ネットワークによって強化**する。
- 市街地周辺に広がる豊かな緑地環境と調和のとれた都市づくりを基本とし、**コンパクトにまとまりある都市構造**を目指す。

【都市軸、都市拠点などの基本的な考え方】

- 東西国土軸に沿った複数からなる広域連携軸
- 都市の一体感・連携を高める都市内の南北軸
→隣接都市を結ぶ東西軸と市内の地域を結ぶ南北軸からなる、地域間の交流や生産活動を活性化する都市間連携軸の形成
→広域交通の処理能力の向上、都市景観の向上
- 都市の骨格を形成している緑地・水辺の自然軸
→緑と水の豊かな自然環境と良好な景観の保全
→災害防止対策とこれらの自然に親しめる環境づくり
- JR 磐田駅周辺の中心核と副次的な拠点である各支所周辺等の賑わいある都市拠点
→商業・業務、文化・娯楽、行政サービス機能など都市機能の集積、利便性を活かした都市型住宅の誘導、交通環境の整備と歩いて暮らせる市街地の形成 (中心市街地)
→鉄道駅等の交通結節機能を活かした広域的な商業・業務機能の集積 (JR 磐田駅周辺、JR 豊田町駅周辺、遠州豊田 PA 周辺)
→**JR 磐田新駅設置による交通利便の向上、周辺の市街地整備による住宅地・近隣商業地の形成、東部地域における定住拠点の創出 (JR 磐田新駅周辺)**
→商業、コミュニティ、行政サービスなどの機能を集積、良好な住宅地の形成 (旧町村中心部)
- 産業集積の維持・発展を図る産業拠点
→工業団地や漁港などの既存産業拠点の拡充と周辺環境整備
→新たな産業拠点の整備 (企業集積の誘導)

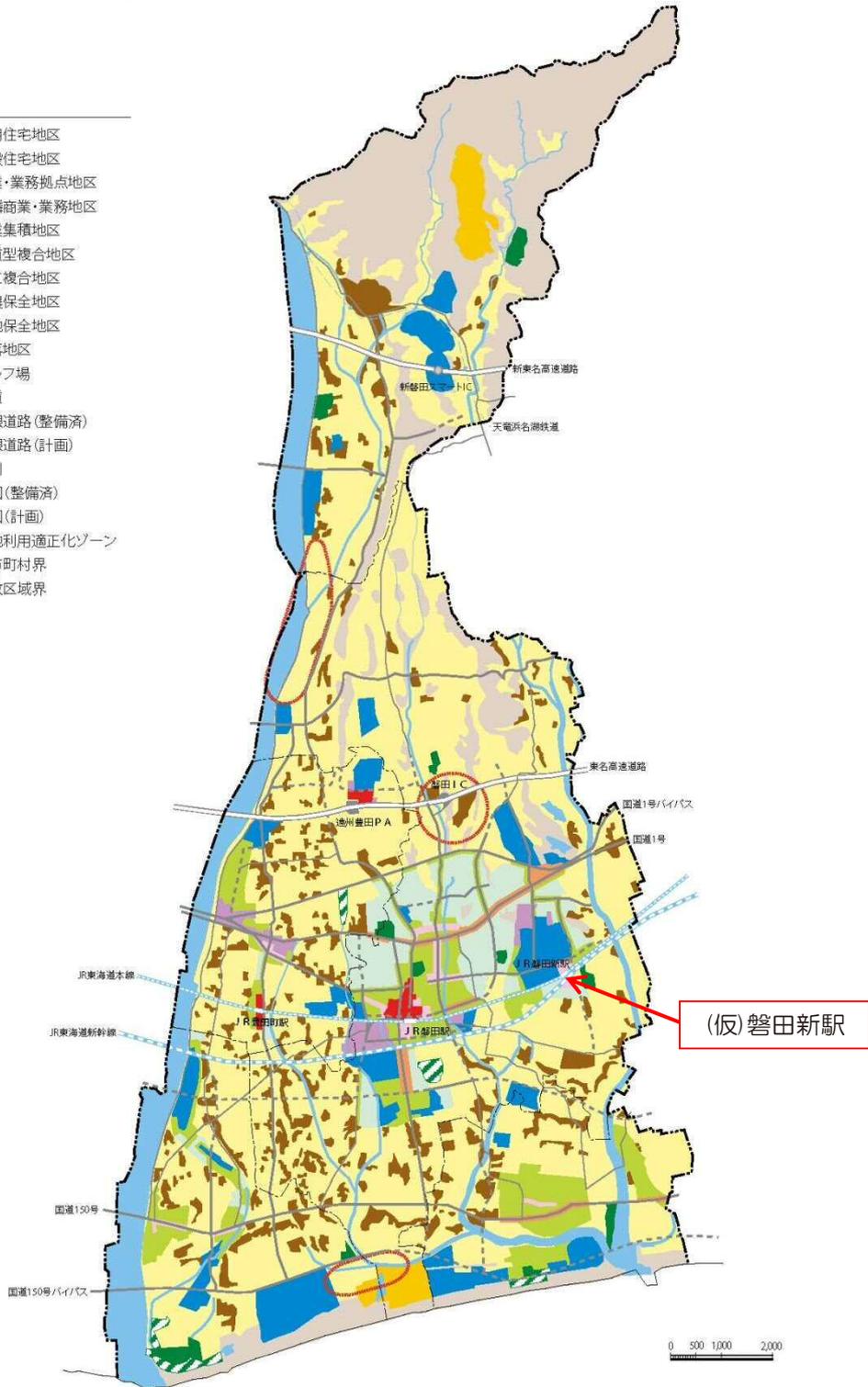
◆将来都市構造図



◆土地利用構想図

凡例

- 専用住宅地区
- 一般住宅地区
- 商業・業務拠点地区
- 近隣商業・業務地区
- 工業集積地区
- 沿道型複合地区
- 住工複合地区
- 営農保全地区
- 緑地保全地区
- 集落地区
- ゴルフ場
- 鉄道
- 幹線道路(整備済)
- 幹線道路(計画)
- 河川
- 公園(整備済)
- 公園(計画)
- 土地利用適正化ゾーン
- 旧市町村界
- 行政区域界



◆道路、交通体系の整備方針

【道路、交通体系整備の目標】

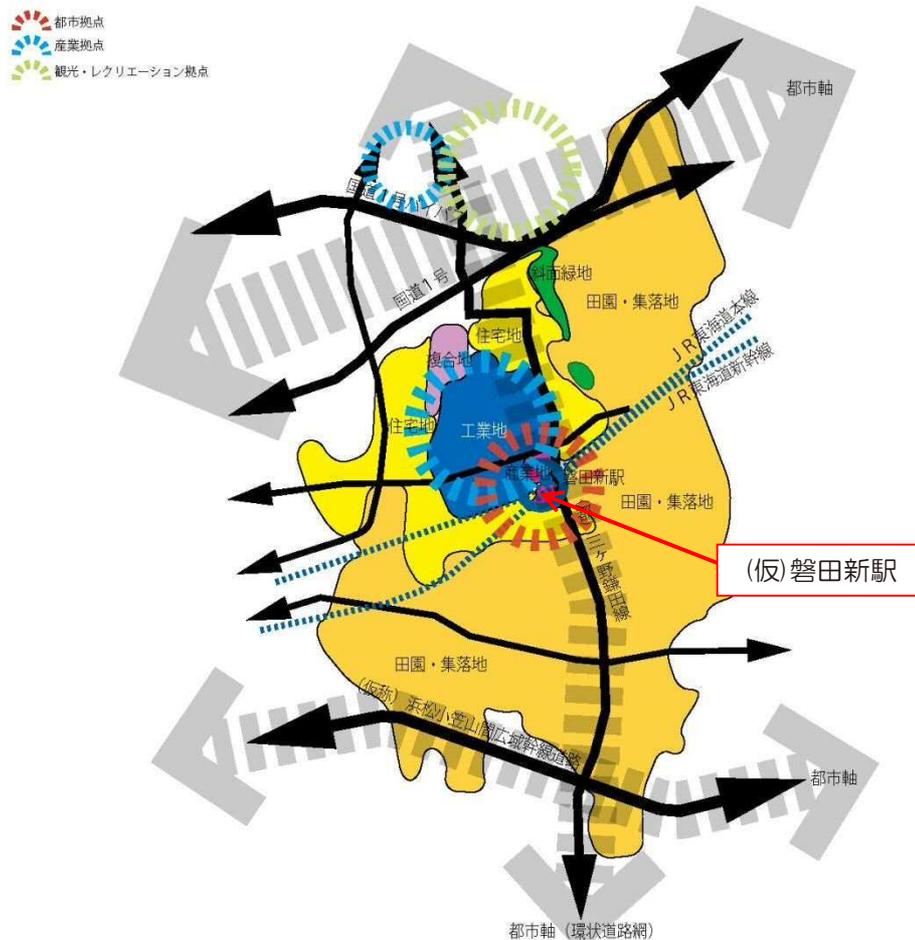
- ・主要道路の体系的な整備、安全で人に優しい交通環境の整備、**公的交通機能の充実**により、市域での安定した生活を支え、活発な産業活動を促進する道路交通網の形成を目指す。

【整備方針】

1. 主要道路網の体系的な整備
 2. 安全で人に優しい交通環境の整備
 3. 公的交通機能の充実
- ・公共交通機関の利便性を高めるため、**鉄道駅を中心とする交通拠点の充実**、交通弱者の足となっている**民間バス及び自主バス等の充実**を図る。
 - ・交通拠点の充実については、JR 磐田駅北口駅前広場や **JR 磐田新駅の整備**、JR 豊田町駅に高齢者等の移動円滑化のための施設整備等を推進する。
 - ・**民間バス及び自主バス等の充実については、地域特性や市民ニーズへの対応に十分留意しながら、運行の効率性・継続性の向上に努め、乗合タクシー等の既存バスの補完・代替方策の導入を進め、民間バス及び自主バス等の利用促進を図る。**

◆地域の将来像（田原・御厨・西貝・南御厨地区）

【将来構造図】



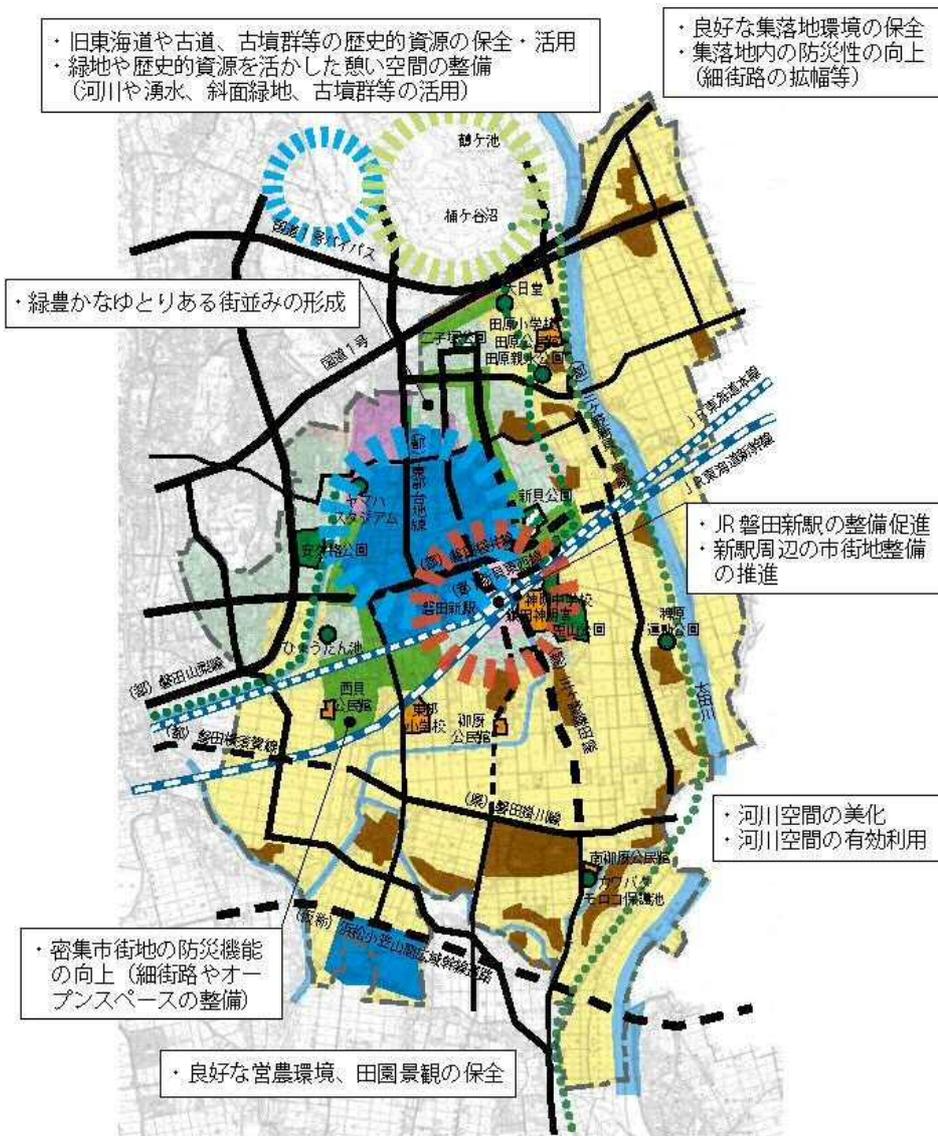
【土地利用の方針】

- JR 磐田新駅周辺については、**市東部における新都市拠点**と位置づけ、新たな定住環境の創出を目指し、土地区画整理事業による市街地整備を推進し、緑豊かなゆとりある住宅地の形成を図る。また、**新たな交通拠点、玄関口となる JR 磐田新駅の設置を促進**し、新駅を核に、近隣的生活利便を高める商業・業務機能の充実を図る。

【都市施設（道路交通）整備の方針】

- **JR 磐田新駅の設置を促進**し、駅前広場及び駅周辺の都市施設等の整備を図る。また、駅舎や駅周辺のバリアフリー整備を進める。
- JR 磐田新駅設置に合わせて、**新たなバス事業等により、公共交通網の充実**を図る。

【まちづくり方針図】



凡例	
専用住宅地区	主要な道路（整備済）
一般住宅地区	主要な道路（計画）
近隣商業・業務地区	主要な公園・広場（整備済）
工業業務地区	主要な公園・広場（計画）
沿道整備地区	主要な公共施設
住工複合地区	河川・水辺
営農保全地区	緑・水のネットワーク（計画）
緑地保全地区	新市拠点
業務地区	産業拠点
	観光・レクリエーション拠点

3-3 磐田市公共交通計画(平成 18 年 3 月)

◆計画期間

平成 19 年度～平成 28 年度

◆公共交通に求められる機能

- ① 日常生活の移動手段の確保
- ② 交通の安全確保
- ③ 地域の活性化
- ④ 環境負荷の低減
- ⑤ 交通渋滞の緩和

◆基本理念

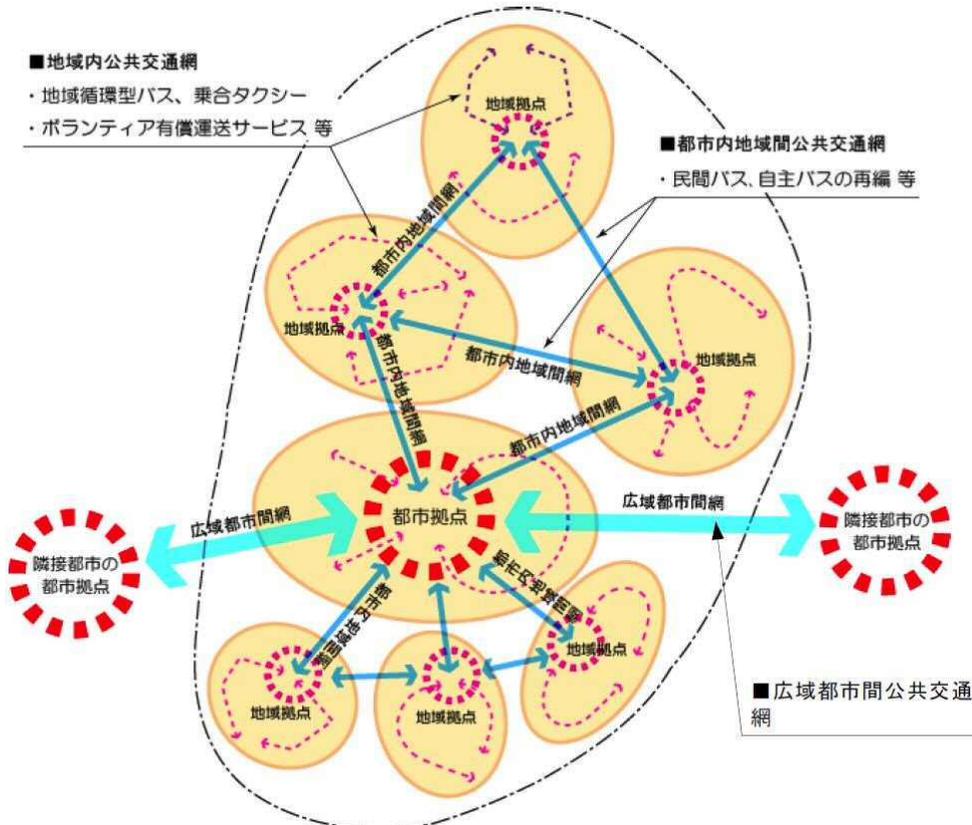
みんなで力を合わせて育てる磐田の地域公共交通
 ～ マイカー利用から地域公共交通の利用へ ～

◆地域公共交通に関する取り組みの基本方向

1. 市民の社会活動の活性化を支える地域公共交通に取り組む
2. 多様化する利用者ニーズに柔軟に対応する地域公共交通に取り組む
3. 福祉との役割分担と連携に基づく効果的な地域公共交通に取り組む
4. 地域特性と公平性を踏まえた地域公共交通に取り組む
5. 地域住民が主体的に地域公共交通の維持や利便性の向上に取り組む

◆磐田市のバス等の地域公共交通に関する方針

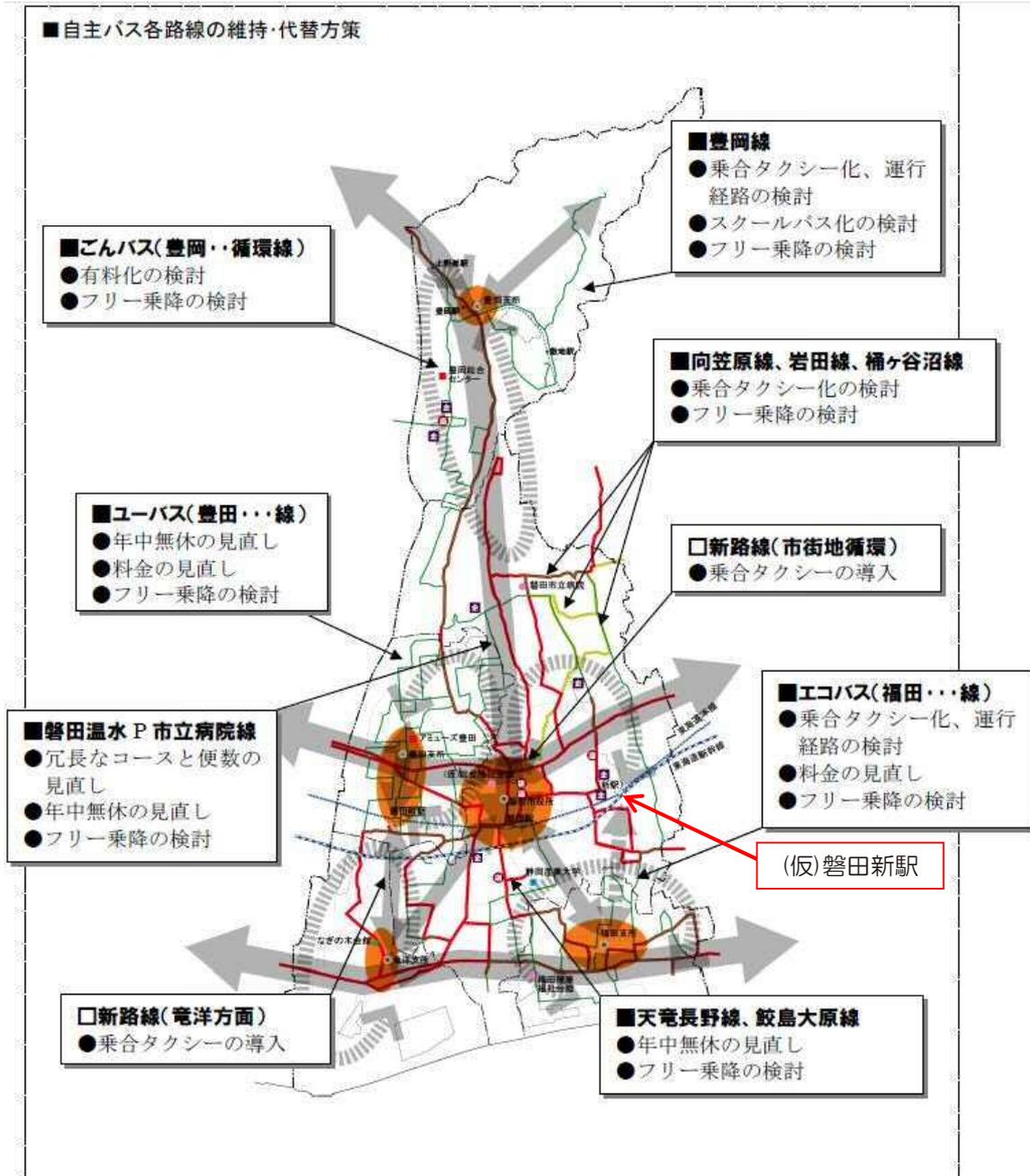
【地域公共交通ネットワークの整備】



【自主運行バスの維持・確保】

- ① 既存バス網の機能や特性を評価・活用したバス網の構築を基本とする
- ② 本格的な高齢社会を控え、最小の経費で本当に必要なものを維持・確保する
- ③ バスの代替手段・補完手段の選択については柔軟な対応を図る

◆地域公共交通ネットワークの将来ビジョン

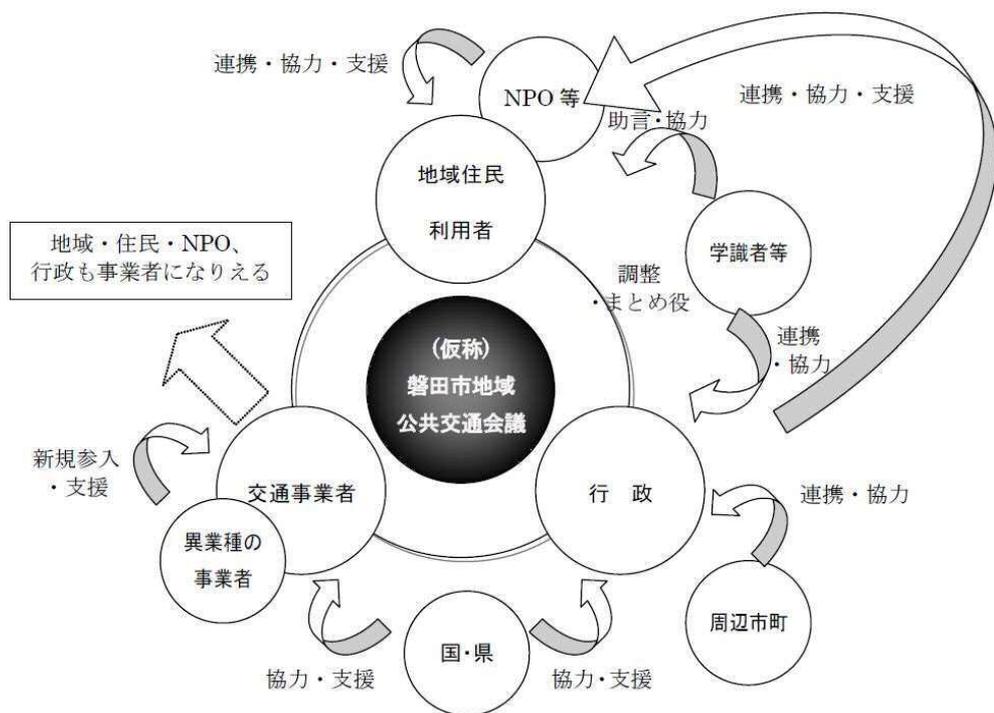


◆地域公共交通の利用促進と維持のための体制

【利用促進のための関連施策】

項目	関連施策
①道路関連	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者・自転車道路の整備、ネットワーク整備 ● 道路、駅前広場等の整備 ● 商店街のバリアフリー化
②結節点整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通結節点の環境整備（駅舎、待合施設のバリアフリー化等） ● パーク＆ライド用の駐車場整備（駅周辺等） ● サイクル&バスライド用の駐輪場整備（公共公益施設等の活用）
③啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通利用キャンペーン（イベントの利用等） ● 観光や商業の振興策と連携したバス・タクシー利用促進策の展開
④その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 新駅の建設促進、新駅設置と周辺の一体的整備 (公共交通を活かした拠点整備等) ● 公共公益施設やショッピングセンター等の玄関口へのバスの乗入れ ● 外国人に配慮したバス停のローマ字表記

【維持のための体制】



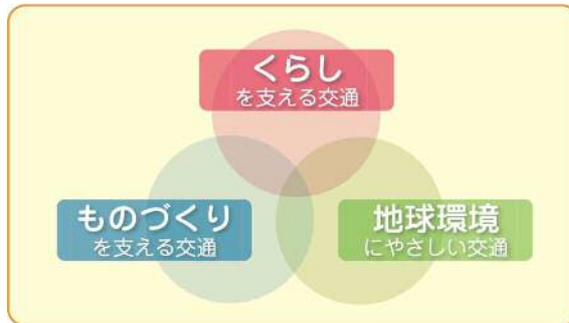
3-4 西遠都市圏都市交通マスタープラン(平成 22 年 3 月)

◆目標年

平成 42 年

◆基本理念

くらしやものづくりの場面に応じて多様な交通手段を選択できる
持続可能な都市交通を目指して



◆目標とする将来都市像

拠点・公共交通軸集積型都市圏構造

◆目標

【都市圏構造の目標】

- ・既存の都市ストックを有効活用し、多様多様な拠点を強化
- ・公共交通を軸として、拠点間の連携を強化
- ・公共交通を中心として、まとまりのある市街地を形成

【公共交通体系の目標】

- ・公共交通及び交通結節点の利便性を高め、利用を促進
- ・効果的・効率的な道路整備を推進し、自動車交通を円滑化
- ・交通安全や防災、ユニバーサルデザインに配慮し、安全・安心・快適なくらしを支える移動環境を創出

【ソフト施策の目標】

- ・効果的なソフト施策等を導入し、公共交通やクルマのかしこい使い方を推進
- ・「自分たちのモビリティは自分たちで守り育てる」という市民の参画意識を醸成

◆都市圏の基本構造



凡例

《都市圏軸》	
	都市圏骨格軸
	地域骨格軸
	拠点連絡軸
	河川
《都市の拠点》	
	都市圏中心
	地域拠点
	生活拠点
《自然・物流の拠点》	
	国際空港拠点
	国際拠点
《レクリエーション拠点》	
	観光・レクリエーション交流拠点

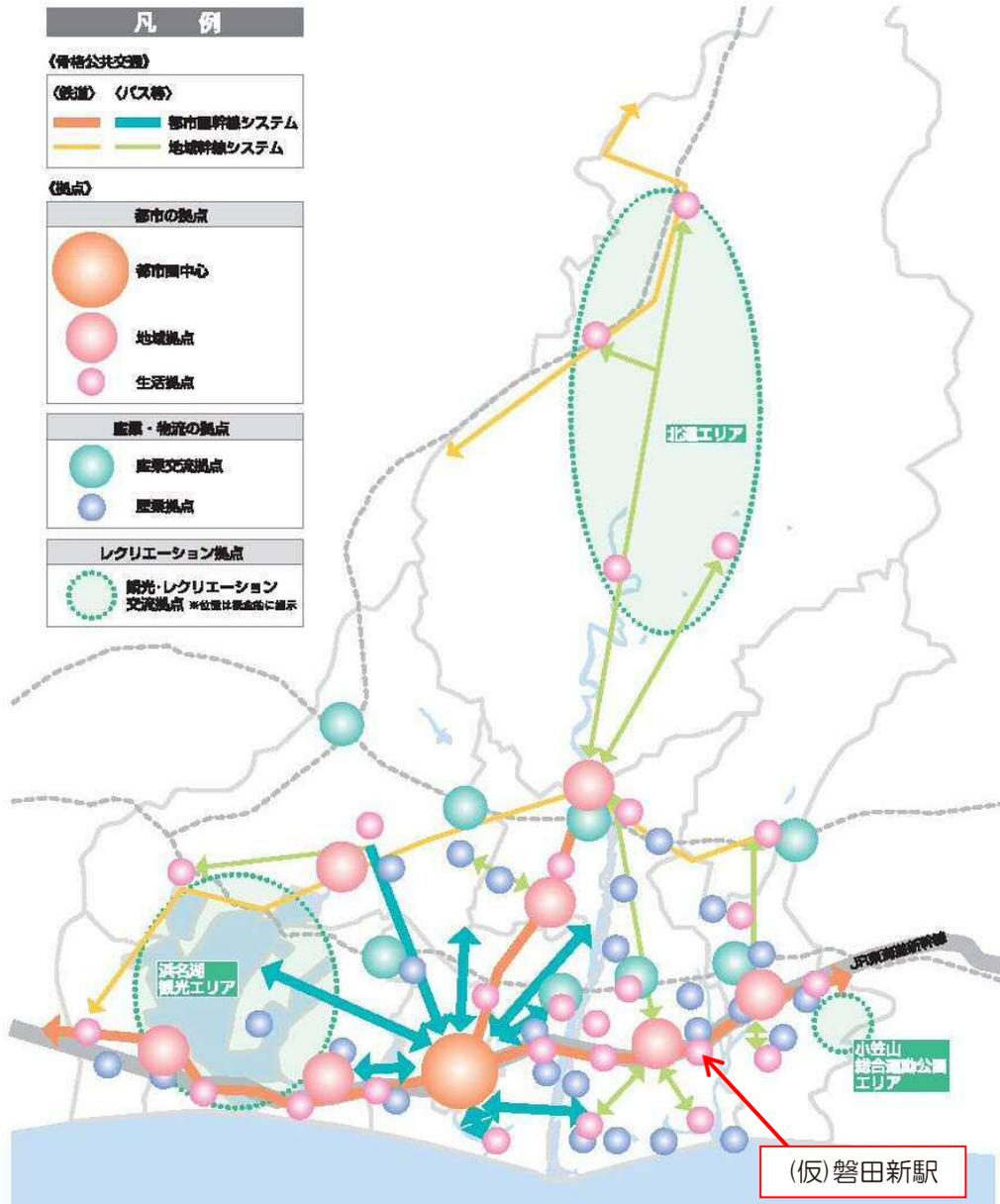
※骨格軸上は拠点の位置は概念的に提示



(仮) 磐田新駅

◆公共交通の機能の段階構成と規格

■都市の骨格を形成する公共交通網は、4種類の公共交通(広域幹線システム(鉄道、高速バスなど)、都市圏幹線システム、地域幹線システム、地域内システム(小型バス等))で構成しています。



◆将来交通計画の主な施策

新たな整備

- 道路ネットワークに関する施策
- 歩行者・自転車関連施策

公共交通のサービス向上

- 鉄道交通関連施策
- バス交通関連施策
- 公共交通に係るその他の施策

**ひとり1人が
交通行動について
改めて考える**

- クルマと公共交通のかしこい
使い方に関する施策

浜松市域における主な施策

- 将来道路ネットワークの構築
- 鉄道相互の連携強化
- 鉄道とバスとの連携強化
- 鉄道と自動車・二輪車との連携強化
- 駅前広場・自由通路等整備
- バスネットワークの再編
- 乗り換えターミナル整備
- 公共交通料金施策
- 市民とともに取り組む交通施策

湖西市域・新居町域における主な施策

- 将来道路ネットワークの構築
- 中心市街地における快適な歩行・
自転車走行空間の創出
- 鉄道と自動車・二輪車との連携強化
- 駅前広場・自由通路等整備

森町域における主な施策

- 将来道路ネットワークの構築
- 中心市街地における快適な歩行・
自転車走行空間の創出
- 地域内の公共交通の維持・向上
- 公共交通料金施策
- 停留所・車両の高度化と情報提供

袋井市域における主な施策

- 将来道路ネットワークの構築
- 中心市街地における快適な歩行・
自転車走行空間の創出
- 鉄道と自動車・二輪車との連携強化
- 駅前広場・自由通路等整備
- 停留所・車両の高度化と情報提供

磐田市域における主な施策

- 将来道路ネットワークの構築
- 中心市街地における快適な歩行・
自転車走行空間の創出
- 新駅設置
- 鉄道とバスとの連携強化
- 鉄道と自動車・二輪車との連携強化
- 駅前広場・自由通路等整備
- 地域内の公共交通の維持・向上
- 市民とともに取り組む交通施策



4. 地域公共交通の課題

①(仮)磐田新駅の整備や新たな開発に対応した公共交通網の再編が必要

【現状】○磐田駅と袋井駅間に(仮)磐田新駅を整備

○磐田駅と袋井駅の利用は減少予測だが、(仮)磐田新駅の整備により3駅を合わせたトリップ総量は増加

○(仮)磐田新駅へは、(仮)磐田新駅北側の見付地区(磐田中央地区)や岩田・大藤・向笠地区(磐田北部地区)、東側の旧浅羽町(袋井市)、南側の福田地区や天竜・長野・於保地区(磐田南部地区)などからもバス利用

○(仮)磐田新駅周辺には磐田市を代表するような施設が立地し、土地区画整理事業も施行中

○路線バスの利用者は減少傾向

○高い(仮)磐田新駅の利用意向

◇磐田市総合計画(基本構想：～平成38年度、前期基本計画：～平成33年度)

- ・公共交通の充実

- ・交通拠点((仮)磐田新駅)の整備・充実

- ・新市街地整備(新貝土地区画整理事業・鎌田第一土地区画整理事業)の推進

◇磐田市都市計画マスタープラン(～平成38年度)

- ・JR磐田新駅周辺地域を都市拠点

- ・都市中心核と都市拠点との結びつきを交通ネットワークにより強化

- ・JR磐田新駅設置による交通利便の向上

◇磐田市公共交通計画(～平成28年度)

- ・新駅の建設促進、新駅設置と周辺の一体的整備(公共交通を活かした拠点整備等)

◇西遠都市圏都市交通マスタープラン(～平成42年度)

- ・公共交通及び交通結節点の利便性を高め、利用を促進

- ・新駅設置

- ・鉄道とバスの連携強化

≪課題≫磐田駅と袋井駅間での(仮)磐田新駅の整備が進められ、高い利用意向がある一方で、一般乗合バスの利用者数は今後さらに減少することも予想される。また、(仮)磐田新駅周辺地域では、新たな土地区画整理事業が進められているとともに、高校や病院、大規模商業施設や事業所、ヤマハスタジアム等の主要な施設が立地していることから、(仮)磐田新駅を新たな交通拠点として、(仮)磐田新駅の利用圏域を踏まえつつ既存バス路線等の公共交通網を見直し、あわせて快適な乗り継ぎ環境を形成することで、これらの需要に対応した公共交通利用環境の改善を図ることが必要である。なお、(仮)磐田新駅は磐田市民だけでなく、隣接する袋井市民の利用も見込まれることから、袋井市とも連携した運行ルート等の設定も必要である。

②ニーズに即した継続的な運行改善が必要

- 【現状】
- 通勤・通学ともに、浜松市と袋井市との結びつきが強く、東西の人の動きが多い
 - 市が運行するデマンド型乗合タクシーと、民間路線バスが運行
 - 路線バスの利用者は減少傾向
 - 磐田市内全域をデマンド型乗合タクシーの運行エリアでカバー
 - 磐田東部線は利用者数、登録数、平均乗車数ともに最も少ない
 - 磐田東部線の利用目的は「磐田市立病院」が最も多く、隣接する福田地区で運行するふくたくや磐田北部地区で運行する北部線でも「磐田市立病院」が多い
 - 通勤通学は平日、買物は休日の外出が多いが、通院や公共施設利用の外出曜日は特に決まっていない方が多い
 - 外出目的により家を出る時間、帰る時間は異なる
 - (仮)磐田新駅周辺にはヤマハスタジアムが立地
 - ヤマハスタジアムでのイベント時には、磐田駅からシャトルバスが運行
 - バス等の公共交通について重要と思う条件は「自宅や目的地とバス停までの距離」「運行間隔」「利用料金」「鉄道との乗り継ぎのしやすさ」
- ◇磐田市公共交通計画（～平成 28 年度）
- ・多様化する利用者ニーズに柔軟に対応する地域公共交通に取り組む
- ◇西遠都市圏都市交通マスタープラン（～平成 42 年度）
- ・地域内の公共交通の維持・向上

《課題》目的により外出曜日や家を出る時間、帰宅時間等も異なることや、デマンド型乗合タクシーの利用目的は「磐田市立病院」が多いことも踏まえ、ターゲットのニーズに応じた運行方法や運行ルート設定、ダイヤ編成が必要である。また、(仮)磐田新駅が最寄駅となるヤマハスタジアムでのスポーツイベント等の開催時の需要に対応した運行方法の検討が必要である。

③継続性の高い生活交通サービスの確保・維持が必要

- 【現状】
- 将来人口は減少予測であり、ゆるやかに高齢化が進展
 - 路線バスの利用者は減少傾向
 - 磐田東部線は利用者数、登録数、平均乗車数ともに最も少なく、収支率は 22.0%
 - 磐田市全体の代表交通手段は、自動車利用が 71.0%、バス利用は 0.8%
 - (仮)磐田新駅へは自動車利用が 65.1%、バス利用は 10.6%
 - 磐田市や各交通事業者により料金負担軽減による移動支援を実施
 - 地域や各種団体と協力した周知活動を実施
- ◇磐田市総合計画（基本構想：～平成 38 年度、後期基本計画：～平成 33 年度）
- ・高齢者福祉の充実（デマンド型乗合タクシーの運行・充実）
- ◇磐田市公共交通計画（～平成 28 年度）
- ・福祉との役割分担と連携に基づく効果的な地域公共交通に取り組む
- ◇西遠都市圏都市交通マスタープラン（～平成 42 年度）
- ・公共交通やクルマのかしこい使い方を推進
 - ・地域内の公共交通の維持・向上

《課題》将来的な人口減少が見込まれる中で、公共交通の必要性について共通の認識を持ち、持続性のある生活交通サービスとして維持・確保していくことが必要であるため、適切で分かりやすく、継続的な情報提供を実施するなど、利用促進策の継続的な展開と周知が必要である。また、今後さらに高齢者等自動車での移動が困難な方の利用が増加すると予想されることから、バリアフリー等ユニバーサルデザインに対応した車両導入や料金負担軽減による移動支援の継続的実施が必要である。あわせて車に過度に頼らず、環境負荷の低減（CO2 削減）を図るために、環境対応の車両導入が必要である。

④地域で守り育てる体制の構築が必要

- 【現状】
- 将来人口は減少予測であり、ゆるやかに高齢化が進展
 - 路線バスの利用者は減少傾向
 - 磐田東部線は利用者数、登録数、平均乗車数ともに最も少なく、収支率は 22.0%
 - 磐田東部線の利用目的は「磐田市立病院」が最も多く、「地区内医院」や「商業施設」も多い
 - (仮)磐田新駅周辺には磐田市を代表するような施設が立地
 - 地域や各種団体と協力した周知活動を実施
 - ◇磐田市公共交通計画（～平成 28 年度）
 - ・地域住民が主体的に地域公共交通の維持や利便性の向上に取り組む
 - ◇西遠都市圏都市交通マスタープラン（～平成 42 年度）
 - ・「自分たちのモビリティは自分たちで守り育てる」という市民の参画意識を醸成
 - ・市民とともに取り組む交通施策

《課題》将来的な人口減少や高齢化の進展が見込まれる中、今後も財政的には厳しい状況は変わらないため、商業施設や病院、企業による協力、地域におけるサポートの継続的展開や、存続に対する危機感等を共有する場を創出し、地域で守り、育てる体制の構築が必要である。

⑤市全体の公共交通に関する新たな計画の策定が必要

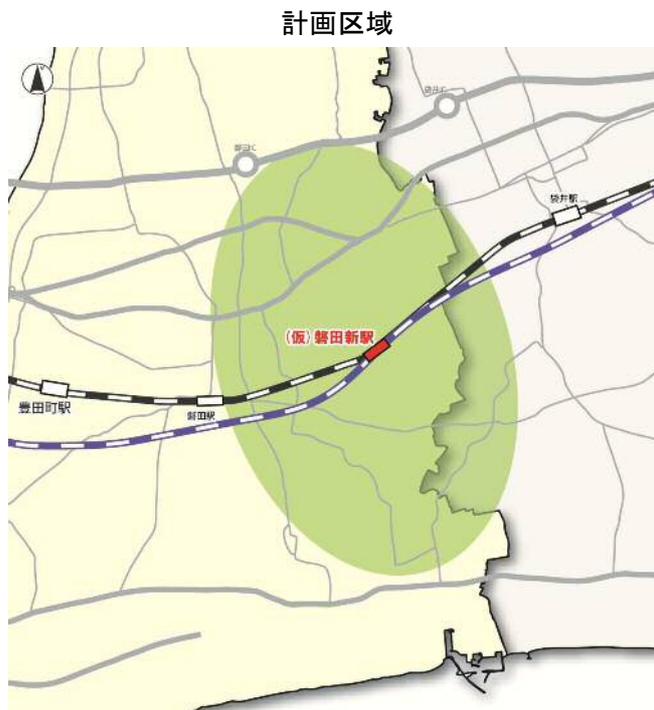
- 【現状】
- 磐田駅と袋井駅間に(仮)磐田新駅を整備
 - 磐田駅と袋井駅の利用は減少予測だが、(仮)磐田新駅の整備により 3 駅を合せたトリップ総量は増加
 - 路線バスの利用者は減少傾向
 - (仮)磐田新駅へは、(仮)磐田新駅北側の見付地区（磐田中央地区）や岩田・大藤・向笠地区（磐田北部地区）、東側の旧浅羽町（袋井市）、南側の福田地区や天竜・長野・於保地区（磐田南部地区）などからもバス利用
 - 平成 28 年 1 月には磐田中央地区を運行エリアとするデマンド型乗合タクシー「中央線」が新たに運行開始され、磐田市内全域がデマンド型乗合タクシーの運行エリアでカバー
 - ◇磐田市公共交通計画（～平成 28 年度）

《課題》現在の「磐田市公共交通計画」は平成 28 年度を目標としている。また、平成 28 年 1 月には磐田市内全域がデマンド型乗合タクシーの運行エリアでカバーされ、(仮)磐田新駅も平成 31 年度末の設置に向けて取り組みを進めていることから、これらを踏まえた全市的な新たな計画を策定することが必要である。

5. 磐田市地域公共交通網形成計画(仮) 磐田新駅周辺地域編)

5-1 計画区域

本計画の対象地域は(仮)磐田新駅の利用圏域を踏まえ、磐田地域や福田地域などの(仮)磐田新駅周辺地域としますが、磐田市全域を対象とした「地域公共交通網形成計画」の策定を見据えた計画とします。



5-2 計画期間

本計画の計画期間は、(仮)磐田新駅の平成31年度末設置に向けて取り組みを進めていることから、平成33年度を目標年とし、平成29年度からの5年間を計画期間とします。

なお、地域公共交通と連携し現状のまちづくりを持続させることが必要であることから、総合計画や都市計画マスタープラン、平成28年度目標の磐田市公共交通計画の改定によって、適宜必要な見直しを行うものとします。

5-3 基本方針

住みよい新しいまちを形成し、 地域が支える持続可能な地域公共交通の確保・維持

～ 新駅整備を契機にマイカー利用から地域公共交通の利用へ ～

(仮)磐田新駅整備や(仮)磐田新駅周辺で進められている土地区画整理事業等のまちづくりと連携し、(仮)磐田新駅を新たな交通拠点とした既存の地域公共交通の見直しや、(仮)磐田新駅における快適な乗り継ぎ環境を形成することで、移動特性等に応じた各段階の生活交通サービスの連続性確保・ネットワーク化を図り、地域公共交通の利用環境を改善し、住みよい新しいまちを形成します。

また、将来的な人口減少やさらなる高齢化の進展が見込まれる中で、地域住民自らが公共交通の必要性について共通の認識を持ち、積極的に利用するとともに、行政や交通事業者による適切で継続的な情報提供や、移動に制限のある方への料金負担軽減策の実施、ユニバーサルデザインに対応した施設整備などにより、誰もが使え、持続性のある、環境にやさしい生活交通サービスとして確保・維持していきます。

●地域公共交通網の展開方針

【都市拠点】

- ・「磐田市都市計画マスタープラン」において位置づけられている「都市拠点」を、本計画においても「都市拠点」として位置づけ、各交通手段の乗り継ぎ拠点として良好な環境を形成します。

【広域都市間公共交通軸】

- ・磐田市と周辺都市等とを結ぶ広域都市間の移動については、鉄道（JR東海道本線及び天竜浜名湖線）を「広域都市間公共交通軸」として位置づけ、磐田市と周辺都市等との交流を促進する公共交通として、民間路線バスやデマンド型乗合タクシー等との快適な乗継環境を形成するなど連携を強化し、利便性の向上を図ります。

【都市間公共交通軸】

- ・磐田市と浜松市や袋井市等の周辺都市とを結ぶ都市間の移動については、民間路線バスを中心とした路線を「都市間公共交通軸」として位置づけ、浜松市や袋井市等との交流を促進する公共交通として、民間路線バス相互やデマンド型乗合タクシー、鉄道との快適な乗継環境を形成するなど連携を強化し、利便性の向上を図ります。また、(仮)磐田新駅を中心に袋井市とも連携し、住民の目線にたった公共交通網を形成します。

【地域間公共交通軸】

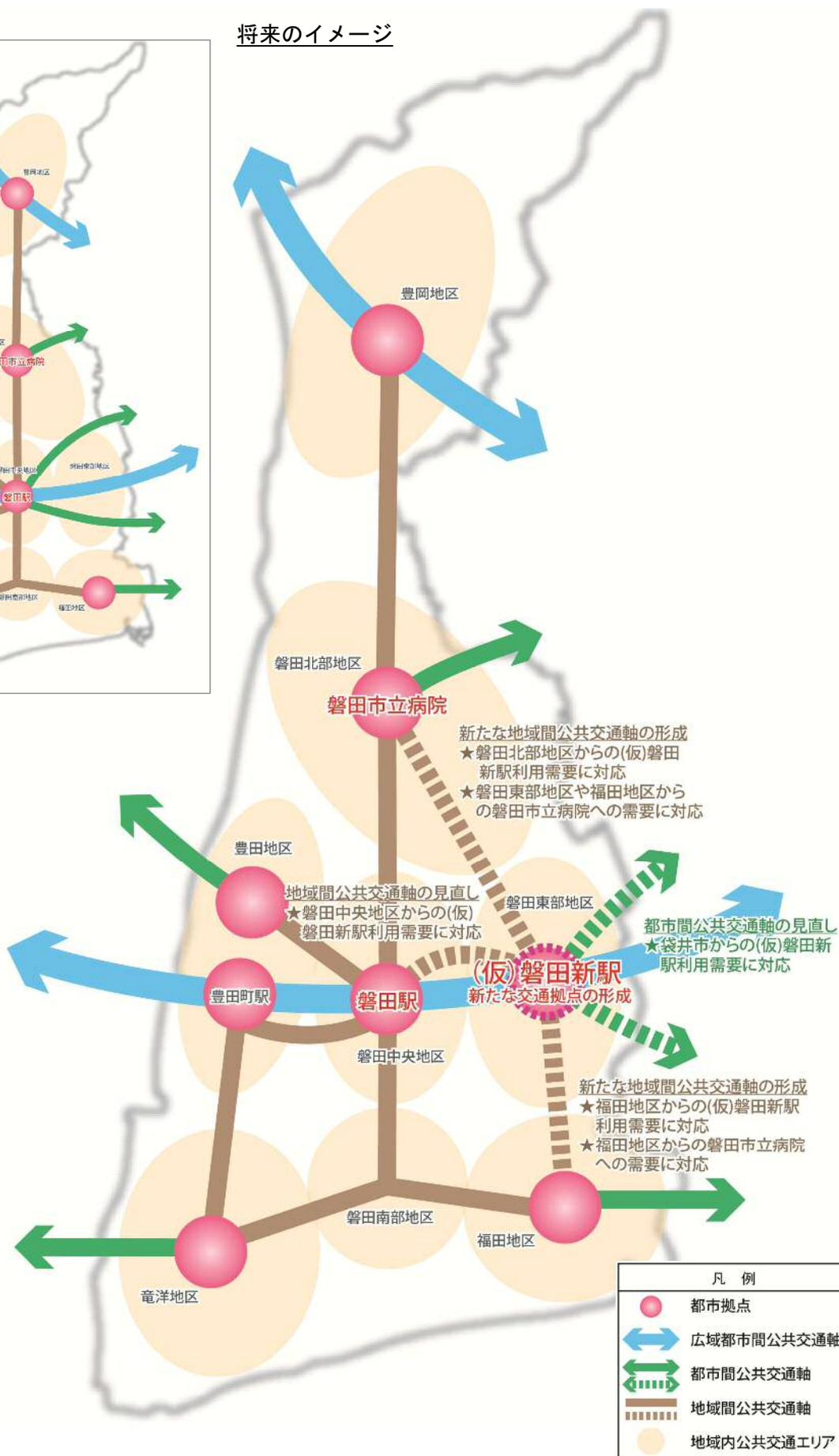
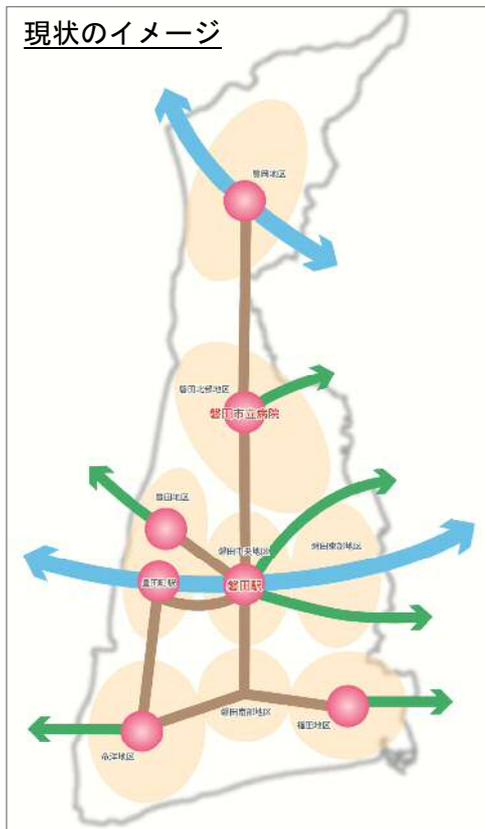
- ・磐田市内の各地域の中心（都市拠点）を結ぶ地域間の移動については、民間路線バスを中心とした路線を「地域間公共交通軸」として位置づけ、地域間の交流を促進する公共交通として、各地域拠点や公共施設のほか、磐田市立病院やショッピングセンター等の集客施設を結ぶ運行経路の設定など、地域住民の日常利便性の向上を図ります。また、(仮)磐田新駅を中心とした路線の再編を実施し、地域内の公共交通を「地域間公共交通軸」に接続し、隣接する都市拠点や現在も利用の多い磐田市立病院等の主要な施設へのアクセス性の向上を図ります。

【地域内公共交通エリア】

- ・地域住民に最も身近となる地域内については、今後増加が予想される個別的あるいは少量の移送ニーズに柔軟に対応していくため、地域住民等の主体的な関与を促進し、都市拠点等の地域の拠点を中心としたデマンド型乗合タクシーの面的な運行を継続することで地域住民の日常利便性の向上を図ります。ただし、デマンド型乗合タクシーについては、通院や公共施設利用等の特定の目的、特定の方々の少量輸送には適しているものの、需要が大きくなると対応できません。また、民間路線バスでカバーできないエリアに住む方々の通勤目的等の特定の需要には十分に対応できないと考えられます。そこで、各種調査やまちづくりとの連携を踏まえ、地域特性や利用特性、需要等を見極めつつ、定時・定路線での路線バス型運行への移行など、柔軟な対応により、利便性の向上を図ります。
- ・任意の目的地へのドア・ツー・ドアの移動など、デマンド型乗合タクシーでカバーできない需要については、タクシーにより対応します。

地域公共交通網の展開イメージ

将来のイメージ



5-4 基本方針に基づく目標

基本方針を踏まえ、実施効果を検証するための目標を以下の通り設定します。

目標 1：(仮)磐田新駅における新たな交通拠点の形成

(仮)磐田新駅周辺で進められている土地区画整理事業等の新たなまちづくり及び(仮)磐田新駅の利用勢圏を踏まえた再編や地域公共交通の利用環境の改善により、(仮)磐田新駅を新たな交通拠点として形成することを目標とします。

●目標値

- ・(仮)磐田新駅への路線バス乗り入れ本数：**43 便/日以上**

※(仮)磐田新駅予定地周辺を運行する既存路線バス（NTN磐田製作所バス停：平日・上下線計）運行便数以上とし設定しています。

目標 2：誰もが使え、持続性のある、環境にやさしい生活交通サービスの確保・維持

将来的な人口減少が見込まれる中で、地域住民自らが公共交通の必要性について共通の認識を持ち、積極的に利用することで地域公共交通を支えるとともに、行政や交通事業者による利用促進策の実施や、誰もが使いやすい環境の整備により、持続性のある、環境にやさしい生活交通サービスとして確保・維持することを目標とします。

●目標値

- ・磐田東部地区において磐田市が運行する地域公共交通の平均乗車数：**1.25 人/台以上**

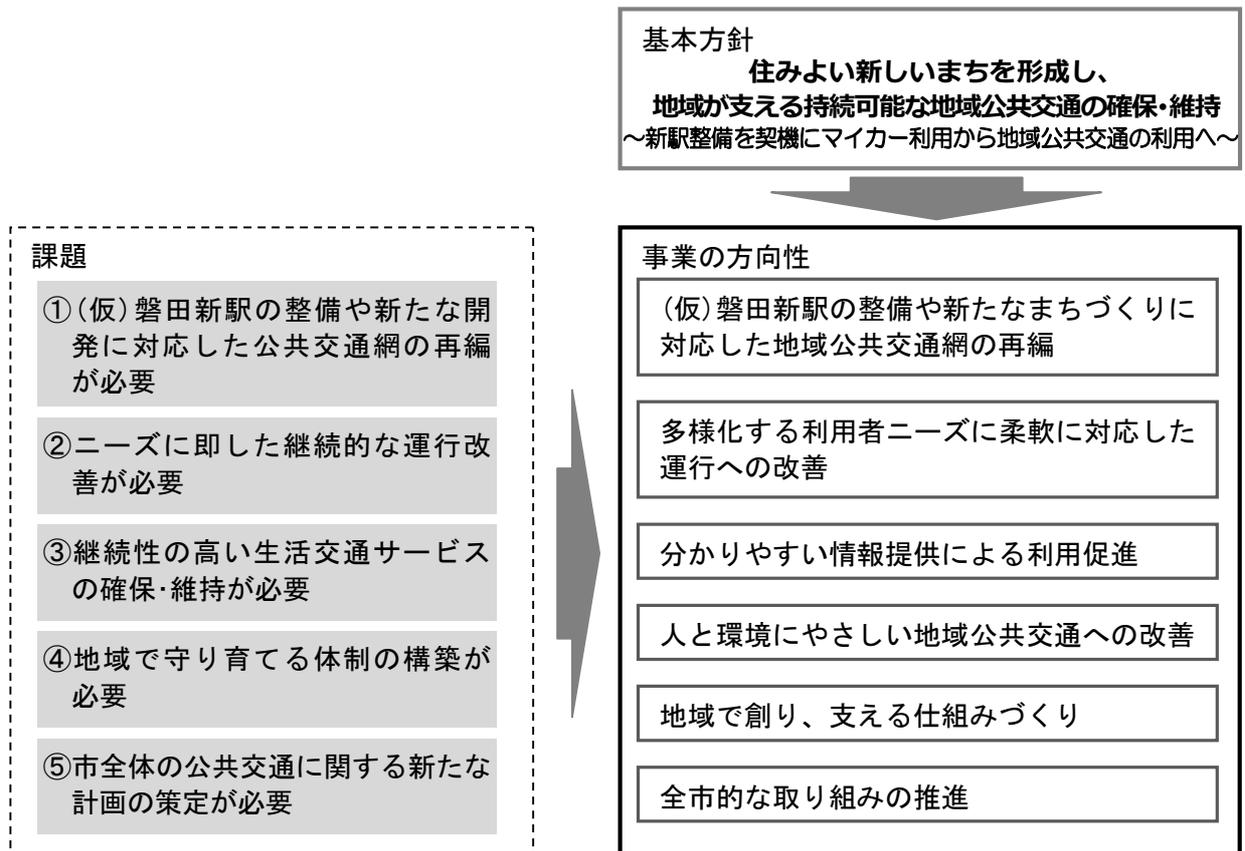
※現在の磐田東部線の平均乗車数 1.08 人/台となっています。

※磐田市内で運行するデマンド型乗合タクシーのうち、福田地区や豊岡地区で平均乗車数が 1.26 人/台と最も高くなっていることから、この水準を目指すものとして設定しています。

5-5 目標を達成するために行う事業及び実施主体・計画期間

課題や基本方針を踏まえ、目標を達成するために事業の方向性を明らかにします。また、事業の方向性を踏まえ、実施事業及びそれぞれの事業における実施主体・計画期間を以下のように定めます。

事業の方向性



実施事業一覧 (1/2)

事業の方向性	実施事業	実施主体	計画期間					H34~
			H29	H30	H31	H32	H33	
5-5-1 (仮)磐田新駅の整備 や新たなまちづくりに 対応した地域公共 交通網の再編	(1) (仮) 磐田新駅の整備	市 交通事業者	■■■■▶					
	(2) (仮) 磐田新駅を交通 拠点とした地域公共 交通網の見直し	地域住民 市 交通事業者						
	地域公共交通網の見直し		■ ■ ■ ■ ▶					
	実証運行					▶		
	本格運行					■■■■▶	継続	
	(3) (仮) 磐田新駅におけ る快適な乗り継ぎ環 境の形成	市 交通事業者						
	(仮) 磐田新駅を交通 拠点とした 乗り継ぎダイヤの調整	市 交通事業者	■■■■▶					
	ロケーションシステムの導入		■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■				継続	
	その他乗り継ぎ環境の形成		■■■■▶					
	5-5-2 多様化する利用者 ニーズに柔軟に対応 した運行への改善	(1) 地域特性や利用特性 に応じた運行改善	市 交通事業者				適宜検討・実施	■■■■▶
(2) イベント等地域の 活性化や観光と連携 した運行方法の検討		市 交通事業者						
ヤマハスタジアムへのシャトル便			■ ■ ■ ■ ▶			■■■■▶	継続	
観光資源へのアクセス便			■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■				継続	
5-5-3 分かりやすい情報 提供による利用促進	(1) 分かりやすい時刻表 の作成、配布	市 交通事業者			■ ▶	■■■■▶		継続
	(2) 地域等と連携した多 様な手段による周知 活動の展開	地域住民 市	■■■■▶					継続
	(3) 多様な媒体による情 報提供	市 交通事業者						
	ロケーションシステムの導入		■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■				継続	
	その他多様な媒体による情報提供		■■■■▶					継続
	(4) イベント等の場を活 用した周知活動の展開	市 交通事業者	■■■■▶					継続

検討：■■■■▶ 実施：■■■■▶

実施事業一覧 (2/2)

事業の方向性	実施事業	実施主体	計画期間					H34~
			H29	H30	H31	H32	H33	
5-5-4 人と環境にやさしい 地域公共交通への改善	(1) ユニバーサルデザインや環境に対応した車両への更新	交通事業者	適宜実施	→				継続
	(2) 料金負担の軽減による利用促進	市 交通事業者						
	障がい者に対する料金負担軽減策		→				継続	
	高齢者に対する料金負担軽減策		適宜検討・実施	→				継続
	(3) モビリティ・マネジメントの実施	市 交通事業者	適宜検討・実施	→				継続
	(4) 乗務員研修の実施	交通事業者	→				継続	
5-5-5 地域で創り、支える 仕組みづくり	(1) 磐田市地域公共交通会議の開催	地域住民 市 交通事業者	→				継続	
	(2) 利用促進検討会の開催	地域住民 市	→				継続	
	(3) 快適なバス待ち環境の創出	地域住民 市	■ ■ ■ ■ ▶	→				継続
	(4) 賛助・協賛金事業の展開	地域住民 市 交通事業者	▶	→				継続
5-5-6 全市的な取り組みの 推進	(1) 磐田市の地域公共交通に関する基本方針(計画)の策定	地域住民 市 交通事業者	■ ■ ▶	→				

検討：■■■■▶ 実施：→

5-5-1 (仮)磐田新駅の整備や新たな開発に対応した地域公共交通網の再編

(1) (仮)磐田新駅の整備

◆事業概要

(仮)磐田新駅の着実な整備推進を図り、周辺地域のまちづくりと連携して磐田市の新たな都市拠点、交通拠点の形成を図ります。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・(仮)磐田新駅の整備：【実施】～平成31年度

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・整備進捗状況（毎年）

(2) (仮)磐田新駅を交通拠点とした地域公共交通網の見直し

◆事業概要

新たに整備される(仮)磐田新駅を中心に、磐田中央地区や磐田北部地区、福田地区のほか、袋井市からの(仮)磐田新駅利用需要に対応した地域公共交通網の見直しを実施します。なお、袋井市においては自主運行バスも運行されていることから、(仮)磐田新駅にアクセスする路線との乗り継ぎ強化など、袋井市と連携しつつ地域公共交通網を見直し、住民の外出先（目的地）に応じて磐田駅・(仮)磐田新駅・袋井駅利用を選択できる環境を形成し、利便性の高い地域公共交通網の形成を図ります。

また、(仮)磐田新駅を含む磐田東部地区や福田地区から磐田市立病院への需要に対応する路線の新設を検討するとともに、(仮)磐田新駅周辺地域で施行中となっている新貝土地区画整理事業及び鎌田第一土地区画整理事業等の新しいまちづくりの進展を踏まえ、地域住民と協働でバス運行ルートの見直しやバス停の設置位置について実証運行等を通して検討し、住みよい新しいまちの形成を図ります。

◆実施主体

- ・地域住民、市、交通事業者

◆計画期間

- ・地域公共交通網の見直し：【検討】平成29年度～平成31年度
- ・実証運行：【実施】平成32年度
- ・本格運行：【実施】平成33年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・利用者数実態調査（毎日）
- ・アンケート調査（適宜）

(3) (仮)磐田新駅における快適な乗り継ぎ環境の形成

◆事業概要

(仮)磐田新駅においては、鉄道や民間路線バス、デマンド型乗合タクシー等の地域公共交通相互の利便性の高い乗り継ぎ環境を形成するため、(仮)磐田新駅を交通拠点とした地域公共交通網の見直しとあわせた乗り継ぎダイヤ調整等を各交通事業者が協力して実施します。

また、駅前広場においては、上屋やベンチ等の整備、ロケーションシステムの導入による到着や出発のお知らせ案内など、新たな交通拠点として快適な乗り継ぎ環境を形成します。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

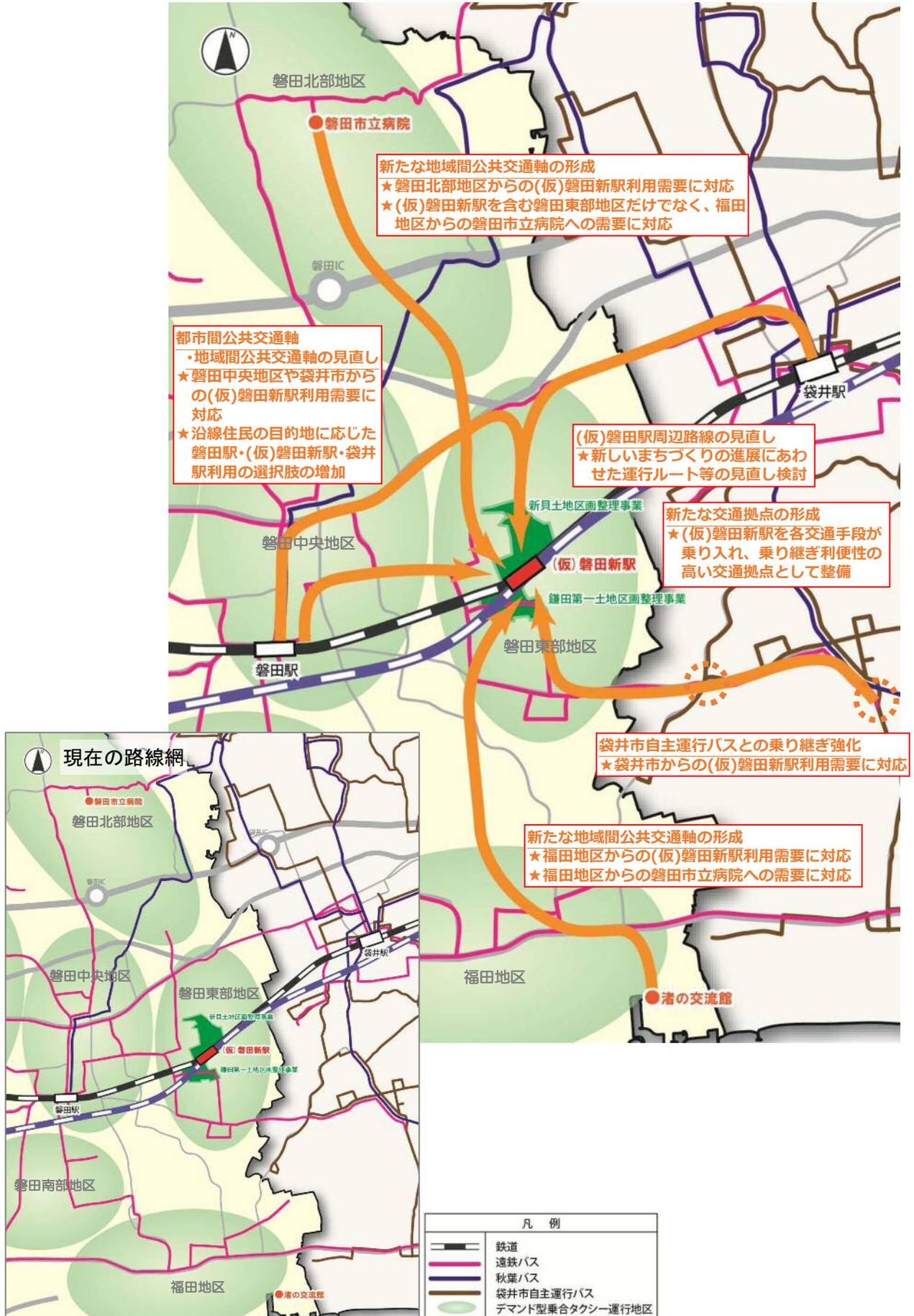
◆計画期間

- ・(仮)磐田新駅を交通拠点とした乗り継ぎダイヤの調整：【実施】平成29年度～平成31年度
- ・ロケーションシステムの導入：【検討】平成29年度～（継続）
- ・その他乗り継ぎ環境の形成：【実施】～平成31年度

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・アンケート調査（適宜）

(仮) 磐田新駅を交通拠点とした地域公共交通網の見直しイメージ



5-5-2 多様化する利用者ニーズに柔軟に対応した運行への改善

(1) 地域特性や利用特性に応じた運行改善

◆事業概要

利用実態やアンケート結果、まちづくりとの連携を踏まえ、普段の交通行動などの地域特性や民間路線バス、デマンド型乗合タクシーの利用特性、需要等を見極めつつ、ダイヤや停留所位置等の継続的・効果的な改善を図ります。また、デマンド型乗合タクシーについては、需要に応じたデマンド型運行から定時・定路線での路線バス型運行への変更など、利用者ニーズに柔軟に対応し、使いやすい地域公共交通への改善を適宜検討します。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・運行改善：【適宜検討・実施】平成 33 年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・利用者数実態調査（毎日）
- ・アンケート調査（適宜）

(2) イベント等地域の活性化や観光と連携した運行方法の検討

◆事業概要

磐田駅とヤマハスタジアムとを結ぶシャトル便のように、スポーツイベントやお祭りなどのイベント開催時の需要に対応した臨時便の運行や、渚の交流館など観光資源へのアクセス便の運行など、地域の活性化等の取り組みや観光と連携し、(仮)磐田新駅を拠点とした運行を検討します。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・ヤマハスタジアムへのシャトル便：【検討】平成 29 年度～平成 31 年度
【実施】平成 32 年度～（継続）
- ・観光資源へのアクセス便：【検討】平成 29 年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・利用者数実態調査（適宜）

5-5-3 分かりやすい情報提供による利用促進

(1) 分かりやすい時刻表の作成、配布

◆事業概要

ダイヤや運行ルート等の改正時に、改正内容や乗り継ぎダイヤ等が分かりやすい時刻表を作成し、時刻表の全戸配布のほか、主要施設やHPに掲示することで利用促進を図ります。また、転入者に対しては、転入手続の際に他の書類等と一緒に窓口で手渡し、必ず1世帯に1部は行き渡るよう配慮します。さらに、持ち運びに便利なポケット時刻表を作成し、利便性を向上することで利用促進を図ります。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・時刻表等の作成、配布：【検討】平成31年度
【実施】平成32年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・アンケート調査（適宜）

(2) 地域等と連携した多様な手段による周知活動の展開

◆事業概要

現在実施している自治会回覧板への掲載や民生委員、児童委員、各種団体等への地域公共交通の運行内容や料金負担の軽減策等の制度に関する周知活動への協力依頼のほか、主要施設への情報掲示や、HPや広報を活用した周知活動など、地域等と連携した多様な手段による周知活動の展開により利用促進を図ります。

◆実施主体

- ・地域住民、市

◆計画期間

- ・周知活動の展開：【適宜検討・実施】平成29年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・実施状況の把握（毎年）

(3) 多様な媒体による情報提供

◆事業概要

市や各事業者のホームページやチラシ、パンフレットの作成により地域公共交通の情報を提供しています。このような多様な媒体による情報提供を継続的に実施するとともに、袋井市等の周辺自治体や事業者等とも連携し、それぞれの主体が実施する周知活動の中で、それぞれが運行する地域公共交通の情報を提供するなど、行政境界にとらわれず、生活圏を踏まえた情報提供による利用促進を図ります。また、ロケーションシステムを活用した、バスの運行状況や位置を確認できるシステム等、新たな情報提供の仕組みの導入も検討するなど、地域公共交通の運行情報を入手しやすい環境を整備します。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・ロケーションシステムの導入：【検討】平成 29 年度～（継続）
- ・その他多様な媒体による情報提供：【適宜検討・実施】平成 29 年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・実施、検討状況の把握（毎年）

(4) イベント等の場を活用した周知活動の展開

◆事業概要

お祭りなどのイベント場を活用し、バス車両の展示や啓発品、チラシ等の配布などを通して、地域公共交通の運行内容や料金負担の軽減策等の制度について周知活動を展開し、利用したことのない方々が地域公共交通を知り、利用するきっかけを創出することで利用促進を図ります。また、小学校におけるバスの乗り方教室の実施や高齢者サロンも活用し、バスなどの地域公共交通の利用方法や大切さを知り、親しみを持っていただき、将来的な地域公共交通の利用促進を図ります。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・周知活動の展開：【適宜検討・実施】平成 29 年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・アンケート調査（適宜）

5-5-4 人と環境にやさしい地域公共交通への改善

(1) ユニバーサルデザインや環境に対応した車両への更新

◆事業概要

車両更新時において、誰もが地域公共交通を利用しやすい環境を整えるため、ノンステップバスや、ユニバーサルデザインタクシー等のユニバーサルデザインに対応した車両の導入を推進します。また、低燃費でCO2排出量の少ない環境にやさしい車両とし、人と環境にやさしい地域公共交通へと改善します。

◆実施主体

- ・交通事業者

◆計画期間

- ・車両の更新：【適宜実施】平成29年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・導入状況の把握（毎年）

(2) 料金負担の軽減による利用促進

◆事業概要

各交通事業者や磐田市で実施している、要介護認定や要支援認定を受けた方、障害者手帳をお持ちの方や介護者等に対する各公共交通利用料金の割引や料金助成を継続して実施します。また、磐田市が運行するデマンド型乗合タクシー等の公共交通においては、高齢者の外出機会の増加を図り、移動を支えるため、年齢による利用料金の割引や回数券の発行、運転免許証自主返納者に対する利用料金の割引、利用が増加した場合の利用料金の低減など、料金負担の軽減策を検討します。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・障がい者に対する料金負担軽減策：【実施】平成29年度～（継続）
- ・高齢者に対する料金負担軽減策：【適宜検討・実施】平成29年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・利用者数実態調査（毎日）
- ・アンケート調査（適宜）
- ・料金等収入状況の把握（毎年）

(3) モビリティ・マネジメントの実施

◆事業概要

アンケート調査や時刻表、HP 等における情報提供の場を活用してかしこいクルマの使い方をする事による利点等の情報を提供し、週に 1 回、月に 1 回でも地域公共交通を利用するきっかけを創出することで過度なクルマ利用を控え、健康や環境等にやさしい行動を促し、あわせて地域公共交通の利用促進を図ります。

◆実施主体

- ・市、交通事業者

◆計画期間

- ・モビリティ・マネジメント：【適宜検討・実施】平成 29 年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・実施状況の把握（毎年）

(4) 乗務員研修の実施

◆事業概要

鉄道職員やバス、タクシーの乗務員に対し、車いす利用者や障がい者（児）、ベビーカー利用者などへの接遇について、当事者を交えた研修を実施し、サービスレベルの向上を図ります。

◆実施主体

- ・交通事業者

◆計画期間

- ・乗務員研修：【実施】平成 29 年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・実施状況の把握（毎年）

5-5-5 地域で創り、支える仕組みづくり

(1) 磐田市地域公共交通会議の開催

◆事業概要

学識や行政関係者、市民の代表者、交通事業者が一堂に会し、協働・連携して、計画の立案・計画の実施・計画の評価・計画の改善を繰り返し検討する場として、「磐田市地域公共交通会議」を年1回以上開催します。

◆実施主体

- ・地域住民、市、交通事業者

◆計画期間

- ・磐田市地域公共交通会議：【実施】平成29年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・実施状況の把握（毎年）

(2) 利用促進検討会の開催

◆事業概要

NPOなどの地域の主な団体や民生委員、児童委員等とも連携し、地区ごとに設置されている利用促進検討会を継続的に開催し、地域公共交通を自分たちで創り、守り、育てていく方法を検討します。

◆実施主体

- ・地域住民、市

◆計画期間

- ・利用促進検討会：【実施】平成29年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・実施状況の把握（毎年）

(3) 快適なバス待ち環境の創出

◆事業概要

バス停が設置されている自治会などによりバス停周辺の掃除や花壇の設置・維持管理を実施するなど、快適なバス待ち環境を創出するとともに、地域公共交通を自分たちで創り、守り、育てていく環境を醸成する方法を検討します。

◆実施主体

- ・地域住民、市

◆計画期間

- ・快適なバス待ち環境の創出：【検討】平成29年度～平成31年度
【実施】平成32年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・検討、実施状況の把握（毎年）

(4) 賛助・協賛金事業の展開

◆事業概要

地域や企業等から、時刻表等への広告（賛助・協賛金）を募るなど、運賃以外の収入による収支率向上の方策を検討し、持続可能な地域公共交通として確保・維持していきます。

◆実施主体

- ・地域住民、市、交通事業者

◆計画期間

- ・賛助・協賛金事業：【検討】平成 29 年度
【実施】平成 30 年度～（継続）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

- ・検討、実施状況の把握（毎年）

5-5-6 全市的な取り組みの推進

(1) 磐田市の地域公共交通に関する基本方針（計画）の策定

◆事業概要

現在の「磐田市公共交通計画」は平成 28 年度を目標としており、本計画は(仮)磐田新駅周辺地域を対象とした計画となっています。現在、磐田市内全域がデマンド型乗合タクシーの運行エリアでカバーされ、(仮)磐田新駅も平成 31 年度末の設置に向けて取り組みを進めており、磐田市を取り巻く地域公共交通環境も大きく変わっていくことが予想されることから、市全域を対象とした地域公共交通に関する基本方針（計画）として「地域公共交通網形成計画」を策定し、地域公共交通の確保・維持を図ります。

◆実施主体

- ・地域住民、市、交通事業者

◆計画期間

- ・全市版地域公共交通網形成計画の策定
【検討】平成 29 年度～平成 30 年度（策定準備）
【実施】平成 31 年度～平成 32 年度（策定作業）

◆立案・評価・改善のために実施する調査等

—

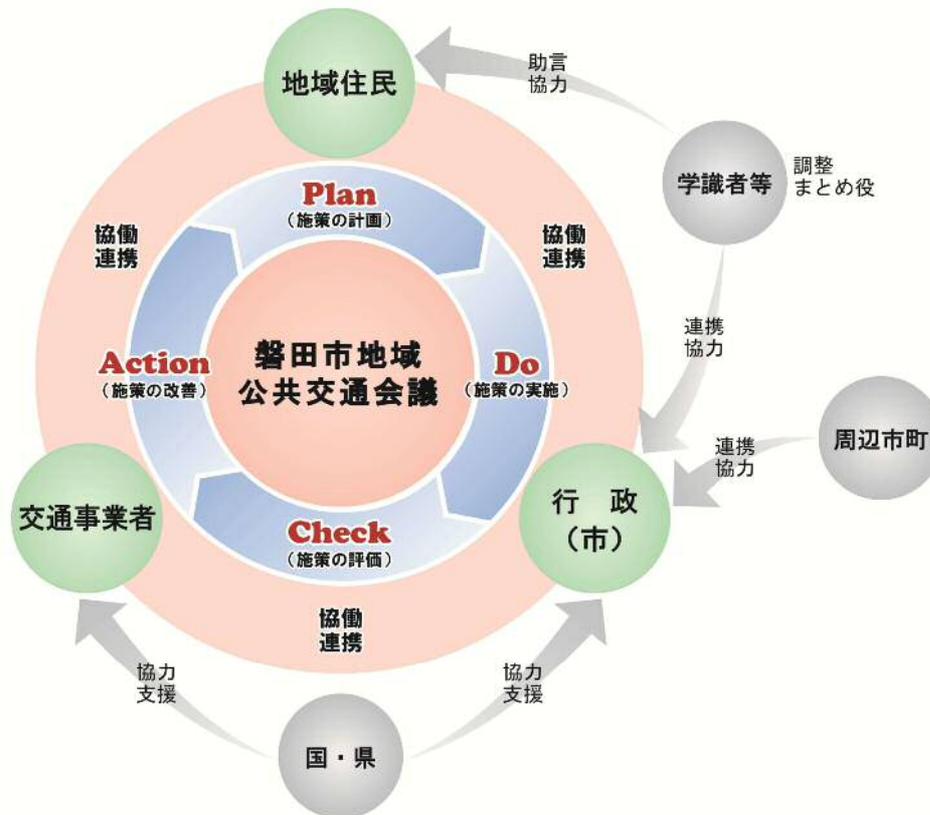
5-6 計画の進め方

地域公共交通の法制度が変革するなか、地域住民が主体的に地域の足の確保に取り組んでいけるよう、地域組織の育成や支援など、地域住民・組織、事業者、行政のパートナーシップの構築が一層重要となります。地域住民、利用者、磐田市、地元バス事業者等の関係者からなる「磐田市地域公共交通会議」により、地域（市、住民、NPO等）が必要と考える地域公共交通の維持や利用促進等に関する認識を深めるとともに、計画の立案(Plan)・計画の実施(Do)・計画の評価(Check)・計画の改善(Action)を繰り返し(PDCAサイクル)、地域公共交通を確保・維持・改善していくものとします。

地域住民・組織、行政、交通事業者の役割

地域住民・組織	行政	交通事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・自分達の問題という自覚（積極的な提案等） ・沿線の企業、商店、病院等によるパートナーシップ（賛助・協賛） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者への委託・補助 ・デマンド型乗合タクシーの運営 ・異なる事業者・運行形態の調整 ・交通結節点の整備（駅前広場、ターミナル等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の事業サービスの改善 ・新しい事業サービスの展開

協働と連携、PDCAサイクルのイメージ



また、このPDCA サイクルは、毎年開催する「磐田市地域公共交通会議」において、「5-5 目標を達成するために行う事業及び事業主体・計画期間」において示した“立案・評価・改善のために実施する調査等”の結果や事業進捗状況等を基に評価するとともに、目標の達成状況や上位計画等の改定内容を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行うことで推進します。

評価スケジュール

年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度
計画の立案	→ 計画策定					→ 計画見直し
計画の実施		→ 事業実施				
計画の評価		→ 進捗	→ 進捗	→ 進捗	→ 進捗	→ 事業評価
計画の改善						→ 事業内容・スケジュール等
備考				(仮) 磐田新駅 開業(年度末)		